

IV. 参考

1. 実施要綱

1-1 鉄道利用者調査

(1)調査時期

各事業者が個別に決定する、10月から11月中の平日（火、水、木）のいずれか1日。

(2)調査対象交通機関

次の各交通機関（専ら観光遊覧のみの用に供せられるものを除く）について調査する。

- ・ 鉄道
- ・ 軌道（路面電車、ガイドウェイバスを含む）

(3)調査対象者

調査日に、事務局が指定する調査票配布駅において降車した旅客。なお、乗車駅もしくは降車駅の一方が調査対象圏域外である旅客も調査対象に含める。

(4)調査方法

1) 鉄道利用者調査(調査票配布・回収調査)

事務局が指定する調査票配布駅において降車する旅客に対して調査票および回答要領を配布し、回答を記入していただいた上で回収する。

回収方法は郵送回収または駅等への持込み回収とする。ただし、この他に、事業者側でより効率的に回収できる方法がある場合は、事務局と協議・確認した上、実施することも可とする。

また、インターネットによる回答受付を併用実施する。

なお、調査票配布駅については、事業者と事前に調整の上、決定する。

2) 訪日外国人公共交通利用実態調査(鉄道調査)

事務局が指定する調査票配布駅において降車する旅客に対して鉄道利用者調査票の回答要領（調査のお願い状）を配布し、インターネットによる回答受付を実施する。

調査票は、英語、中国語（繁体字・簡体字）、韓国語に対応するものとする。

(5)調査項目

1) 鉄道利用者調査

- ① 性別および年齢
- ② 自宅住所
- ③ 鉄道定期券・敬老パス保有状況と定期券種類、購入場所
- ④ 先週出勤・登校した曜日
- ⑤ 勤務先の始業時刻

< 1回目の鉄道利用 >

- ⑥ 鉄道利用時の移動目的
- ⑦ 出発地住所と出発時刻

- ⑧ 出発地から最初の駅までの交通手段と所要時間
- ⑨ 最初の駅の乗車時刻
- ⑩ 鉄道利用区間と列車種別・利用券種
- ⑪ 最後の駅の降車時刻
- ⑫ 最後の駅から目的地までの交通手段と所要時間
- ⑬ 目的地住所と到着時刻

< 2回目の鉄道利用 >

- ⑭ 鉄道利用時の移動目的
- ⑮ 出発地と最初の駅の乗車時刻
- ⑯ 鉄道利用区間と列車種別・利用券種
- ⑰ 最後の駅の降車時刻
- ⑱ 目的地住所

< 3回目の鉄道利用 >

- ⑲ 鉄道利用時の移動目的
- ⑳ 出発地
- ㉑ 鉄道利用区間と列車種別・利用券種
- ㉒ 最後の駅の降車時刻と目的地住所

< 帰宅時の鉄道利用 >

- ㉓ 出発地
- ㉔ 最初の乗車駅、最後の降車駅
- ㉕ 最後の駅の降車時刻

2) 訪日外国人公共交通利用実態調査

- ① 国籍
- ② 性別および年齢
- ③ 日本での居住
- ④ 訪日回数
- ⑤ 同行者との間柄
- ⑥ 旅行手配方法
- ⑦ 主な訪日目的
- ⑧ 入国日および入国空港・海港
- ⑨ 出国日および出国空港・海港
- ⑩ 出国空港・海港への最後の利用交通手段
- ⑪ 出発地、目的地、移動目的および鉄道利用の有無
- ⑫ 鉄道利用区間、鉄道乗車時刻、利用券種および鉄道降車から目的地までの利用交通手段
- ⑬ 交通機関の情報入手先

(6)集計項目

1)鉄道利用者調査

- ① 行政区間移動人員
- ② 基本ゾーン間移動人員（券種別、目的別）
- ③ 初乗り・最終降車駅間移動人員
- ④ 路線別駅間移動人員
- ⑤ 駅別発着・駅間通過人員
- ⑥ ターミナル別乗換え人員
- ⑦ 初乗り・最終降車駅間経路別人員
- ⑧ 所要時間別人員
- ⑨ 端末交通手段別人員
- ⑩ 始業時刻の分布
- ⑪ 性別・年齢別利用者数
- ⑫ 出勤・登校日別利用者数

2)訪日外国人公共交通利用実態調査

- ① 行政区別鉄道発生・集中量
- ② 路線別利用人員
- ③ 端末交通手段別利用者数
- ④ 性別利用者数
- ⑤ 年齢階層別利用者数
- ⑥ 目的別利用者数
- ⑦ 訪日経験別利用者数
- ⑧ 利用券種別利用者数
- ⑨ 同行者との間柄別利用者数
- ⑩ 旅行手配方法別利用者数
- ⑪ 1日あたりの鉄道トリップ数
- ⑫ 出発時刻分布
- ⑬ 空港アクセス鉄道利用人員
- ⑭ 移動時に活用した情報

表 鉄道利用者調査の調査票配布駅(首都圏その1)

事業者名	駅名										駅数
東日本旅客鉄道	東京	新橋	品川	川崎	横浜	戸塚	大船	藤沢	辻堂	茅ヶ崎	157
	平塚	小田原	神田	御茶ノ水	水道橋	飯田橋	市ヶ谷	四ッ谷	信濃町	千駄ヶ谷	
	代々木	新宿	大久保	東中野	中野	高円寺	阿佐ヶ谷	荻窪	西荻窪	吉祥寺	
	三鷹	武蔵境	東小金井	武蔵小金井	国分寺	国立	立川	日野	豊田	八王子	
	西八王子	高尾	上野	赤羽	浦和	さいたま新都心	大宮	東大宮	蓮田	久喜	
	与野	北浦和	南浦和	蕨	西川口	川口	王子	田端	西日暮里	日暮里	
	鶯谷	御徒町	秋葉原	有楽町	浜松町	田町	大井町	大森	蒲田	鶴見	
	新子安	東神奈川	桜木町	関内	石川町	新杉田	港南台	北千住	松戸	柏	
	取手	亀有	金町	新松戸	千葉	西千葉	稲毛	津田沼	船橋	西船橋	
	本八幡	市川	小岩	新小岩	平井	亀戸	錦糸町	両国	浅草橋	新日本橋	
	馬喰町	大崎	五反田	目黒	恵比寿	渋谷	原宿	新大久保	高田馬場	目白	
	池袋	大塚	巢鴨	駒込	武蔵小杉	武蔵中原	武蔵溝ノ口	登戸	稲田堤	分倍河原	
	北府中	新秋津	新座	北朝霞	武蔵浦和	東川口	南越谷	南流山	菊名	新横浜	
	鴨居	中山	長津田	町田	淵野辺	橋本	拝島	新川崎	保土ヶ谷	東戸塚	
	鎌倉	川越	宮原	上尾	熊谷	蘇我	板橋	十条	浮間舟渡	戸田公園	
八丁堀	新木場	舞浜	新浦安	海浜幕張	成田空港	空港第2ビル					
東京都交通局	西馬込	馬込	五反田	三田	大門	新橋	東銀座	日本橋	人形町	浅草橋	52
	浅草	芝公園	御成門	内幸町	日比谷	大手町	神保町	水道橋	白山	千石	
	巢鴨	新板橋	板橋本町	志村坂上	志村三丁目	高島平	本八幡	瑞江	一之江	船堀	
	東大島	大島	西大島	馬喰横山	岩本町	小川町	九段下	市ヶ谷	曙橋	新宿	
	飯田橋	上野御徒町	両国	清澄白河	勝どき	六本木	練馬	光が丘	西日暮里	町屋駅前	
	王子駅前	大塚駅前									
横浜市交通局	あざみ野	センター南	仲町台	新横浜	横浜	関内	上大岡	上永谷	戸塚	湘南台	11
	日吉										
東京地下鉄	渋谷	表参道	青山一丁目	赤坂見附	溜池山王	虎ノ門	新橋	銀座	日本橋	三越前	59
	上野	浅草	池袋	茗荷谷	後楽園	大手町	東京	霞ヶ関	国会議事堂前	四ッ谷	
	新宿三丁目	新宿	西新宿	中野坂上	北千住	秋葉原	人形町	茅場町	八丁堀	東銀座	
	日比谷	神谷町	六本木	恵比寿	高田馬場	早稲田	飯田橋	九段下	木場	東陽町	
	西葛西	葛西	浦安	綾瀬	新御茶ノ水	赤坂	明治神宮前	市ヶ谷	永田町	有楽町	
	豊洲	新木場	半蔵門	神保町	水天宮前	錦糸町	押上	六本木一丁目	王子		
京浜急行電鉄	品川	青物横丁	平和島	京急蒲田	雑色	京急川崎	京急鶴見	横浜	弘明寺	上大岡	22
	杉田	金沢文庫	金沢八景	追浜	横須賀中央	浦賀	新逗子	京急久里浜	三崎口	東門前	
	羽田空港国内線ターミナル	羽田空港国際線ターミナル									
小田急電鉄	新宿	経堂	千歳船橋	成城学園前	粕江	登戸	向ヶ丘遊園	生田	新百合ヶ丘	鶴川	26
	玉川学園前	町田	相模大野	小田急相模原	海老名	本厚木	愛甲石田	伊勢原	東海大学前	秦野	
	小田原	中央林間	大和	湘南台	藤沢	小田急多摩センター					

表 鉄道利用者調査の調査票配布駅(首都圏その2)

事業者名	駅名										駅数
京王電鉄	新宿	初台	笹塚	明大前	下高井戸	桜上水	千歳鳥山	仙川	つつじヶ丘	調布	24
	府中	分倍河原	聖蹟桜ヶ丘	高幡不動	京王八王子	高尾	京王稲田堤	京王永山	京王多摩センター	南大沢	
	橋本	渋谷	駒場東大前	吉祥寺							
東京急行電鉄	渋谷	中目黒	学芸大学	都立大学	自由が丘	武蔵小杉	元住吉	日吉	綱島	菊名	33
	白楽	横浜	目黒	武蔵小山	五反田	雪が谷大塚	蒲田	大井町	中延	二子玉川	
	溝の口	三軒茶屋	下高井戸	池尻大橋	桜新町	用賀	鷺沼	たまプラーザ	あざみ野	青葉台	
	長津田	中央林間	下丸子								
西武鉄道	西武新宿	高田馬場	上石神井	田無	花小金井	所沢	新所沢	狭山市	本川越	池袋	23
	練馬	石神井公園	大泉学園	保谷	ひばりヶ丘	東久留米	清瀬	秋津	小手指	飯能	
	国分寺	玉川上水	拝島								
東武鉄道	浅草	北千住	西新井	竹ノ塚	谷塚	草加	松原団地	新越谷	越谷	北越谷	38
	せんげん台	春日部	東武動物公園	久喜	大宮	岩槻	流山おおたかの森	柏	新鎌ヶ谷	船橋	
	池袋	大山	ときわ台	上板橋	東武練馬	成増	和光市	朝霞	朝霞台	志木	
	みずほ台	鶴瀬	ふじみ野	上福岡	川越	鶴ヶ島	若葉	高坂			
京成電鉄	京成上野	町屋	京成閩屋	堀切菖蒲園	お花茶屋	青砥	京成高砂	京成小岩	国府台	京成八幡	29
	京成船橋	谷津	京成津田沼	京成大久保	実籾	八千代台	勝田台	志津	ユーカリが丘	京成臼井	
	京成佐倉	京成成田	京成曳舟	四ツ木	京成立石	京成千葉	京成金町	成田空港	空港第2ビル		
山万	ユーカリが丘									1	
新京成電鉄	新津田沼	北習志野	新鎌ヶ谷	五香	八柱	松戸					6
秩父鉄道	ひろせ野鳥の森	石原	熊谷	行田市	東行田	羽生					6
相模鉄道	横浜	鶴ヶ峰	二俣川	三ツ境	大和	海老名	湘南台				7
関東鉄道	取手	守谷	竜ヶ崎								3
流鉄	馬橋	幸谷									2
北総鉄道	東松戸	新鎌ヶ谷	西白井	白井	千葉ニュータウン中央						5
千葉都市モノレール	千葉	都賀	千城台	千葉みなと							4
江ノ島電鉄	藤沢	鎌倉									2
多摩都市モノレール	多摩センター	高幡不動	立川南	立川北							4
ゆりかもめ	新橋	有明	豊洲								3
東京臨海高速鉄道	新木場	国際展示場	天王洲アイル	大井町							4
東葉高速鉄道	北習志野	八千代緑が丘	八千代中央	東葉勝田台							4
埼玉高速鉄道	川口元郷	鳩ヶ谷	戸塚安行	東川口							4
首都圏新都市鉄道	秋葉原	北千住	南流山	流山おおたかの森	守谷						5
東京モノレール	モノレール浜松町	羽田空港第1ビル	羽田空港第2ビル	羽田空港国際線ビル							4
湘南モノレール	大船										1
埼玉新都市交通	大宮										1
首都圏計											540

表 鉄道利用者調査の調査票配布駅(中京圏)

事業者名	駅名										駅数
東海旅客鉄道	大垣	穂積	西岐阜	岐阜	木曽川	尾張一宮	稲沢	枇杷島	名古屋	金山	34
	笠寺	南大高	共和	大府	刈谷	東刈谷	三河安城	安城	岡崎	幸田	
	蒲郡	豊橋	桑名	鶴舞	千種	大曾根	新守山	勝川	春日井	神領	
	高蔵寺	多治見	土岐市	瑞浪							
名古屋市交通局	高畑	中村公園	名古屋	伏見	栄	新栄町	千種	今池	池下	本山	41
	星ヶ丘	一社	上社	本郷	藤が丘	大曾根	平安通	黒川	市役所	久屋大通	
	矢場町	上前津	金山	新瑞橋	八事	名古屋大学	庄内通	浄心	丸の内	鶴舞	
	いりなか	塩釜口	植田	原	平針	六番町	築地口	桜山	瑞穂区役所	野並	
	徳重										
名古屋鉄道	名鉄岐阜	笠松	名鉄一宮	国府宮	須ヶ口	栄生	名鉄名古屋	金山	神宮前	堀田	52
	鳴海	有松	中京競馬場前	前後	知立	新安城	東岡崎	美合	国府	豊橋	
	太田川	朝倉	常滑	南加木屋	巽ヶ丘	住吉町	知多半田	知多武豊	豊田市	刈谷	
	日進	西尾	栄町	大曾根	小幡	三郷	尾張瀬戸	小牧	犬山	上小田井	
	西春	岩倉	布袋	江南	柏森	新鵜沼	西可児	新可児	甚目寺	木田	
	津島	中部国際空港									
近畿日本鉄道	近鉄名古屋	烏森	伏屋	戸田	近鉄蟹江	富吉	近鉄弥富	桑名	伊勢朝日	川越富洲原	20
	近鉄富田	阿倉川	近鉄四日市	塩浜	白子	江戸橋	津	津新町	久居	桜	
三岐鉄道	近鉄富田	暁学園前	西桑名	馬道							4
豊橋鉄道	新豊橋	南栄	駅前								3
愛知環状鉄道	中岡崎	北岡崎	三河豊田	新豊田	八草	瀬戸口	瀬戸市				7
東海交通事業	味美	勝川									2
名古屋臨海高速鉄道	名古屋	名古屋競馬場前	荒子川公園	金城ふ頭							4
愛知高速交通	藤が丘	八草									2
養老鉄道	大垣										1
名古屋ガイドウェイバス	大曾根										1
中京圏計											171

表 鉄道利用者調査の調査票配布駅(近畿圏その1)

事業者名	駅名										駅数
西日本旅客鉄道	近江八幡	野洲	草津	南草津	瀬田	石山	膳所	大津	山科	京都	107
	西大路	向日町	長岡京	高槻	摂津富田	茨木	千里丘	岸辺	吹田	新大阪	
	大阪	塚本	尼崎	立花	甲子園口	西宮	芦屋	摂津本山	住吉	六甲道	
	灘	三ノ宮	元町	神戸	堅田	福島	野田	西九条	弁天町	大正	
	新今宮	天王寺	寺田町	桃谷	鶴橋	玉造	森ノ宮	京橋	桜ノ宮	天満	
	安治川口	塚口	伊丹	川西池田	宝塚	三田	新三田	兵庫	新長田	須磨	
	垂水	舞子	朝霧	明石	西明石	大久保	魚住	土山	東加古川	加古川	
	宝殿	姫路	二条	亀岡	奈良	大和小泉	法隆寺	王寺	柏原	志紀	
	八尾	久宝寺	平野	J R 難波	六地藏	長尾	河内磐船	四条畷	野崎	住道	
	鴻池新田	徳庵	放出	鳴野	和歌山	杉本町	三国ヶ丘	津久野	鳳	和泉府中	
	東岸和田	熊取	御幣島	海老江	北新地	大阪天満宮	関西空港				
	大阪市交通局	江坂	東三国	新大阪	西中島南方	中津	梅田	淀屋橋	本町	心齋橋	
天王寺		西田辺	長居	あびこ	北花田	なかもず	大日	太子橋今市	都島	天神橋筋六丁目	
東梅田		南森町	天満橋	谷町四丁目	谷町六丁目	谷町九丁目	喜運瓜破	西梅田	肥後橋	玉出	
住之江公園		コスモスクエア	弁天町	阿波座	堺筋本町	長田	今里	天下茶屋	関目成育	鳴野	
京都市交通局	京都	四条	烏丸御池	丸太町	今出川	北大路	国際会館	太秦天神川	二条	京都市役所前	13
	三条京阪	山科	六地藏								
神戸市交通局	西神中央	西神南	学園都市	名谷	妙法寺	板宿	新長田	湊川公園	三宮	新神戸	13
	和田岬	ハーバーランド	三宮・花時計前								
近畿日本鉄道	大阪難波	近鉄日本橋	大阪上本町	鶴橋	布施	長瀬	近鉄八尾	河内山本	河内国分	大阪教育大前	48
	五位堂	大和高田	大和八木	桜井	榛原	名張	河内小阪	八戸ノ里	若江岩田	瓢箪山	
	生駒	東生駒	富雄	学園前	大和西大寺	新大宮	近鉄奈良	大阪阿部野橋	河内天美	河内松原	
	藤井寺	古市	橿原神宮前	京都	近鉄丹波橋	向島	小倉	大久保	新田辺	興戸	
	高の原	喜志	富田林	河内長野	近鉄郡山	平端	王寺	新石切			
南海電気鉄道	難波	新今宮	天下茶屋	堺	石津川	羽衣	泉大津	岸和田	貝塚	泉佐野	22
	和歌山市	堺東	中百舌鳥	初芝	北野田	金剛	千代田	河内長野	三日月町	林間田園都市	
	関西空港	三国ヶ丘									
阪神電気鉄道	梅田	野田	千船	尼崎	武庫川	鳴尾	甲子園	今津	西宮	芦屋	16
	魚崎	御影	神戸三宮	元町	西九条	九条					
阪急電鉄	梅田	十三	園田	塚口	武庫之荘	西宮北口	夙川	岡本	六甲	神戸三宮	37
	三国	庄内	服部天神	曾根	岡町	豊中	蛍池	石橋	池田	川西能勢口	
	宝塚	南方	淡路	上新庄	正雀	南茨木	茨木市	高槻市	長岡天神	桂	
	西院	烏丸	河原町	甲東園	箕面	関大前	北千里				

表 鉄道利用者調査の調査票配布駅(近畿圏その2)

事業者名	駅名										駅数
京阪電気鉄道	淀屋橋	北浜	天満橋	京橋	関目	守口市	門真市	古川橋	大和田	寝屋川市	27
	香里園	光善寺	枚方市	樟葉	中書島	丹波橋	東福寺	七条	祇園四条	三条	
	六地蔵	宇治	交野市	河内森	出町柳	中之島	渡辺橋				
北大阪急行電鉄	緑地公園	桃山台	千里中央								3
神戸高速線	高速長田	大開	新開地	高速神戸							4
山陽電気鉄道	板宿	月見山	滝の茶屋	山陽垂水	山陽明石	西新町	林崎松江海岸	東二見	播磨町	別府	17
	尾上の松	高砂	荒井	大塩	白浜の宮	飾磨	山陽姫路				
神戸電鉄	湊川	長田	鈴蘭台	北鈴蘭台	山の街	大池	岡場	田尾寺	三田	西鈴蘭台	13
	緑が丘	志染	フラワータウン								
能勢電鉄	畦野	日生中央									2
水間鉄道	貝塚										1
京福電気鉄道	四条大宮	西院	太秦広隆寺	帷子ノ辻	車折神社	嵐電嵯峨	嵐山	北野白梅町			8
泉北高速鉄道	深井	泉ヶ丘	梅・美木多	光明池	和泉中央						5
神戸新交通	三宮	神戸空港	住吉	アイランドセンター							4
叡山電鉄	出町柳	茶山	修学院	京都精華大前	鞍馬						5
北神急行電鉄	谷上										1
大阪高速鉄道	蛍池	千里中央	山田	南茨木	門真市	大阪空港					6
阪堺電気軌道	新今宮駅前	天王寺駅前	我孫子道								3
近畿圏計											395

1-2 定期券発売実績調査

(1)調査時期

5月～11月

(2)調査対象交通機関

次の各交通機関（専ら観光遊覧のみの用に供せられるものを除く）について調査する。

- ・ 鉄道
- ・ 軌道（路面電車、ガイドウェイバスを含む）

(3)調査対象者

調査区域内の各鉄道駅および案内所等において鉄道に係る定期券を発売する事業者。

(4)調査方法

調査区域内の各鉄道駅および案内所等で発売される定期券発売枚数について「定期券発売実績調査票」に基づく内容を調査する。

なお、調査方法は各事業者が個別に決定する。

(5)調査項目

1)定期券発売実績調査票(1)

- ① 通勤定期券発売枚数（通用期間別）
- ② 通学定期券発売枚数（通用期間別）

2)定期券発売実績調査票(2)

- ① 定期券発売枚数（総数）
- ② 定期券発売枚数（調査対象区域外）

3)定期券発売実績調査票(3)

- ① 定期券発売枚数（性別・年齢階層別）

(6)集計項目

圏域別定期券発売枚数

1-3 鉄道 OD 調査

(1) 調査時期

各事業者が個別に決定する、10月から11月中の平日（火、水、木）の1日。

(2) 調査対象交通機関

次の各交通機関（専ら観光遊覧のみの用に供せられるものを除く）について調査する。

- ・ 鉄道
- ・ 軌道（路面電車、ガイドウェイバスを含む）

(3) 調査対象路線

事務局が指定する路線。

(4) 調査対象者

調査対象圏域内の鉄道駅において乗車または降車した旅客。

(5) 調査方法

以下に示す調査項目について、自動改札機データを集計する方法により行う。

ただし、自動改札機データを用いた集計ができない事業者、または自動改札機が設置されていない事業者においては、普通券利用者のみを対象に、時間帯ごとに普通券（切符・回数券等）を回収し、乗車駅別・着時間帯別に集計する方法により行う。

(6) 調査項目

乗降駅別着時間帯別移動人員（定期・定期外別）

(7) 集計項目

- ① 着時間帯別駅間移動人員
- ② 駅別発着・駅間通過人員

1-4 鉄道輸送サービス実態調査

(1)調査時期

10～11月の平日

(鉄道利用者調査および鉄道 OD 調査の実施時期と同じとする。)

(2)調査対象交通機関

次の各交通機関（専ら観光遊覧のみの用に供せられるものを除く）について調査する。

- ・ 鉄道
- ・ 軌道（路面電車、ガイドウェイバスを含む）

(3)調査対象路線

事務局が指定する主要路線。

(4)調査方法

方向別・発時間帯別運行本数、各車両 1 両当たりの定員数および列車編成における車両の組合せから集計する。

(5)調査項目

調査対象路線（区間）の各駅間断面における方向別・時間帯毎の輸送力（通過列車の車両定員数）。

※1 日によって輸送力が変動する場合には、(1)に示した調査時期内の特定の 1 日における輸送力を調査する。

※2 有料特急、グリーン車など特定の料金を必要とする列車の定員も輸送力に含める。

※3 輸送力は緩行と快速別に把握する。

(6)集計項目

路線別・方向別・時間帯別駅間輸送力

1-5 バス利用者調査

(1)調査時期

10～11月の平日（火、水、木）の1日。

(2)調査対象交通機関

一般乗合バスのうち空港連絡バス（一般路線バスを除く）。

(3)調査対象者

調査日に事務局が指定するバスターミナル・系統において乗車または降車した旅客。

(4)調査方法

1)空港アクセスバス調査

調査対象の空港連絡バスを利用する旅客に対して調査票を配布し、回答を記入していただいた上、郵送により回収する。

また、インターネットによる回答受付を併用実施する。

なお、調査対象便については、事業者と事前に調整の上決定する。

2)基幹的なバス調査

事務局が指定する調査対象バスターミナル・系統において乗車または降車する旅客に対して調査票を配布し、回答を記入していただいた上、郵送により回収する。

3)訪日外国人公共交通利用実態調査(空港アクセスバス調査)

調査対象の空港アクセスバスを利用する旅客に対して調査のお願い状を配布し、インターネットによる回答受付を実施する。

調査票は、英語、中国語（繁体字・簡体字）、韓国語に対応するものとする。

(5)調査項目

1)空港アクセスバス調査

- ① 性別および年齢
- ② 運転免許の有無
- ③ 出発地住所・地域名
- ④ 目的地住所・地域名
- ⑤ バス利用時の移動目的
- ⑥ 利用航空機の便名
- ⑦ 出発地の出発時刻または目的地の到着時刻
- ⑧ バス利用券種
- ⑨ バス利用区間
- ⑩ 停留所乗車時刻および降車時刻
- ⑪ バス降車から航空機の出発までの想定時間

- ⑫ バス端末交通手段と利用駅名
- ⑬ バス以外に利用する交通手段
- ⑭ バスを利用した理由
- ⑮ バスサービス向上策

2) 基幹的なバス調査

- ① 性別および年齢
- ② 運転免許の有無
- ③ 出発地住所
- ④ 目的地住所
- ⑤ バス利用時の移動目的
- ⑥ バスの利用区間と利用会社名
- ⑦ 停留所乗車時刻および降車時刻
- ⑧ バス利用券種
- ⑨ 鉄道との乗り継ぎ状況（乗り継ぎの有無、乗り継ぎ路線・駅）、バスとの乗り継ぎ状況（乗り継ぎの有無）
- ⑩ バス以外に利用する交通手段
- ⑪ バス利用理由
- ⑫ 他の交通手段との利用割合
- ⑬ バス利用頻度
- ⑭ バスサービス向上策（運行サービスに関する項目、快適性に関する項目、利便性に関する項目）

3) 訪日外国人公共交通利用実態調査(空港アクセスバス調査)

- ① 国籍
- ② 性別および年齢
- ③ 日本での居住
- ④ 訪日回数
- ⑤ 同行者との間柄
- ⑥ 旅行手配方法
- ⑦ 主な訪日目的
- ⑧ 入国日および入国空港・海港
- ⑨ 出国日および出国空港・海港
- ⑩ 出国空港・海港への最後の利用交通手段
- ⑪ 出発地、目的地、移動目的および利用交通手段
- ⑫ 空港アクセスバス利用時の乗降停留所、利用券種、乗車時刻および目的地までの利用交通手段
- ⑬ 空港アクセスバスの情報入手先

(6)集計項目

1)空港アクセスバス調査

- ① 性別・年齢別利用者数
- ② 目的別利用者数
- ③ 利用券種別利用者数
- ④ 停留所間移動人員
- ⑤ 出発時間帯別利用者数
- ⑥ 所要時間別利用者数
- ⑦ 端末交通手段別利用者数
- ⑧ 代替交通手段
- ⑨ バス利用理由（免許保有の有無別）
- ⑩ バスサービス向上策
- ⑪ 出発地別・空港アクセスバス利用人員
- ⑫ 目的地別・空港イグレスバス利用人員
- ⑬ 航空便別バス降車から航空機出発までの想定時間別人員

2)基幹的なバス調査

- ① 性別・年齢別利用者数
- ② 目的別利用者数
- ③ 利用券種別利用者数
- ④ 停留所間移動人員
- ⑤ 所要時間別利用者数
- ⑥ 鉄道との乗り継ぎ割合
- ⑦ バスとの乗り継ぎ割合
- ⑧ 代替交通手段別バスとの利用割合
- ⑨ バス利用理由（免許保有の有無別）
- ⑩ 利用券種別利用頻度
- ⑪ バスサービス向上策
- ⑫ 出発地別バス利用人員
- ⑬ 目的地別バス利用人員

3)訪日外国人公共交通利用実態調査(空港アクセスバス調査)

- ① 出発地別バス利用者数
- ② 目的地別バス利用者数
- ③ 出発時間帯別利用者数
- ④ 性別利用者数
- ⑤ 年齢階層別利用者数
- ⑥ 目的別利用者数

- ⑦ 訪日経験別利用者数
- ⑧ 利用券種別利用者数
- ⑨ 同行者との間柄別利用者数
- ⑩ 旅行手配方法別利用者数
- ⑪ 空港アクセスバス利用人員
- ⑫ 移動時に活用した情報

1-6 バス OD 調査

(1)調査時期

10～11月中の平日（火、水、木）の1日。

(2)調査対象交通機関

一般乗合バスのうち空港連絡バス（一般路線バスを除く）。

(3)調査対象系統

バス利用者調査の調査対象系統。

(4)調査対象者

調査対象系統の車両に乗降する旅客。

(5)調査方法

調査時期における停留所間移動人員について、各事業者が個別に決定した方法により調査する。

(6)調査項目

乗降停留所別降車時間帯別移動人員

(7)集計項目

- ① 系統別・着時間帯別停留所間移動人員
- ② 系統別・着時間帯別停留所別乗降人員

1-7 バス輸送サービス実態調査

(1)調査時期

10～11月の平日

(バス利用者調査およびバス OD 調査の実施時期と同じとする。)

(2)調査対象交通機関

一般乗合バスのうち空港連絡バス(一般路線バスを除く)。

(3)調査対象系統

バス利用者調査の調査対象系統。

(4)調査方法

方向別・時間帯別の運行本数と運行バス定員数(空港アクセスバス調査に関連する系統は補助席またはシートベルト付補助席を含む座席定員の合計。基幹的なバス調査に関連する系統は座席定員および立席定員の合計)を調査する。

(5)調査項目

調査対象系統路線における方向別時間帯毎の運行本数と運行バス定員数。

※日によって輸送力が変動する場合には、(1)に示した調査時期内の特定の1日における輸送力を調査する。

(6)集計項目

系統別・方向別・時間帯別・停留所間輸送力

1-8 乗換施設実態調査

(1)調査時期

11～12月

(2)調査対象乗換えパターン

調査対象は、ピーク時間帯における鉄道路線間の定期券乗換え利用者数が 3,000 人/時以上の乗換えパターン（平成 22 年調査より利用者数を算出）および平成 22 年調査時点以降に、新設または大規模改良が行われた駅における乗換えパターンとする。

なお、調査時点において、大規模改良工事が行われている鉄道駅に関連する乗換えパターンについては調査対象外とすることもある。

① ピーク時調査パターン

- ・ ピーク時乗換え人員数（定期券）が 3,000 人/時以上の乗換えパターン

② オフピーク時調査パターン

- ・ ピーク時調査を行う乗換えパターン
- ・ 平成 22 年調査以降、新設または大規模改良が行われた駅の乗換えパターン

※調査時間帯は以下の通りとする。

- ・ ピーク時：平成 22 年調査結果に基づく各駅の最混雑 1 時間とする。
- ・ オフピーク時：11～16 時とする。

(3)調査方法

① 施設内容に関する項目

- ・ 延長、幅員および階段の段数は、測定者が歩測により計測する。
- ・ 改札の数および入出場別の開放数は、目視により計測する。

② 乗換え時間に関する項目

- ・ ピーク時、オフピーク時別に、ホーム中央からホーム中央までの乗換え時間を計測する。
- ・ 乗換え時間は調査項目別に測定者が旅客の流れにのり、ストップウォッチにより計測する。

③ ホームの乗換え利便施設の有無

- ・ 有無及び種別は、目視により計測する。

(4)調査項目

① 施設内容に関する項目

- ・ ホームの中央から階段等までの延長
- ・ 昇り階段と降り階段の幅員・段数
- ・ 昇りエスカレータと降りエスカレータの幅員
- ・ 駅構内通路の延長・最小幅員
- ・ 駅郊外通路の延長・代表幅員
- ・ 改札の数
- ・ 改札の入出場別開放数

- ・ホームとルートの概要図
- ② 乗換え時間に関する項目
 - ・各施設における待ち時間・所要時間（ピーク時・オフピーク時別）
- ③ 調査経路
 - ・実測した経路を平面図に記入する。
 - ・平面図は、市販されている図等を使用する。

(5)集計項目

- ① 乗換え駅別・方向別・路線間乗換え時間（ピーク時・オフピーク時別）
- ② 乗換え駅別・方向別・区間別・路線間移動距離

表 乗換施設実態調査の調査対象駅(首都圏その1)

事業者名	調査対象駅										駅数
東日本旅客鉄道	東京	品川	川崎	横浜	戸塚	大船	藤沢	御茶ノ水	四ッ谷	新宿	66
	7:45-8:44	7:45-8:44	7:45-8:44	7:15-8:14	7:15-8:14	7:15-8:14	7:15-8:14	8:00-8:59	8:15-9:14	7:45-8:44	
	中野	吉祥寺	三鷹	武蔵境	国分寺	西国分寺	立川	八王子	上野	大宮	
	7:45-8:44	7:30-8:29	7:30-8:29	7:30-8:29	7:30-8:29	7:15-8:14	7:15-8:14	7:15-8:14	7:45-8:44	7:15-8:14	
	久喜	南浦和	赤羽	田端	日暮里	秋葉原	大井町	蒲田	鶴見	東神奈川	
	7:00-7:59	7:15-8:14	7:30-8:29	7:45-8:44	7:30-8:29	7:45-8:44	7:45-8:44	7:45-8:44	7:30-8:29	7:30-8:29	
	北千住	松戸	柏	新松戸	千葉	津田沼	船橋	西船橋	本八幡	錦糸町	
	7:30-8:29	7:30-8:29	7:00-7:59	7:15-8:14	7:30-8:29	7:15-8:14	7:30-8:29	7:30-8:29	7:15-8:14	7:45-8:44	
	代々木	五反田	目黒	渋谷	高田馬場	池袋	巢鴨	西日暮里	有楽町	浜松町	
	8:00-8:59	8:00-8:59	7:45-8:44	7:45-8:44	7:30-8:29	7:45-8:44	7:45-8:44	7:30-8:29	7:45-8:44	8:00-8:59	
武蔵小杉	武蔵溝ノ口	登戸	府中本町	新秋津	北朝霞	武蔵浦和	南越谷	菊名	長津田		
7:30-8:29	7:30-8:29	7:15-8:14	7:30-8:29	7:00-7:59	7:15-8:14	7:15-8:14	7:15-8:14	7:30-8:29	7:00-7:59		
町田	橋本	川越	八丁堀	新木場	浦和						
7:15-8:14	7:15-8:14	7:15-8:14	7:45-8:44	7:30-8:29							
東京都交通局	日本橋	東日本橋	巢鴨	本八幡	馬喰横山	九段下	練馬				7
	7:45-8:44	7:45-8:44	7:45-8:44	7:15-8:14	7:45-8:44	8:00-8:59	7:30-8:29				
横浜市交通局	あざみ野	上大岡	戸塚	日吉							4
	7:15-8:14	7:15-8:14	7:15-8:14	7:45-8:44							
東京地下鉄	渋谷	表参道	赤坂見附	日本橋	上野	池袋	大手町	東京	四ッ谷	新宿	23
	7:45-8:44	8:00-8:59	8:00-8:59	7:45-8:44	7:45-8:44	7:45-8:44	7:45-8:44	7:45-8:44	8:15-9:14	7:45-8:44	
	北千住	秋葉原	茅場町	八丁堀	中野	高田馬場	飯田橋	九段下	西日暮里	有楽町	
	7:30-8:29	7:45-8:44	8:00-8:59	7:45-8:44	7:45-8:44	7:30-8:29	8:00-8:59	8:00-8:59	7:30-8:29	7:45-8:44	
7:45-8:44	7:30-8:29	7:30-8:29									
京浜急行電鉄	品川	京急蒲田	京急川崎	横浜	上大岡	金沢八景					6
	7:45-8:44	7:45-8:44	7:45-8:44	7:15-8:14	7:15-8:14	7:30-8:29					
小田急電鉄	新宿	下北沢	登戸	新百合ヶ丘	町田	相模大野	海老名	中央林間	大和	藤沢	10
	7:45-8:44	7:30-8:29	7:15-8:14	7:15-8:14	7:15-8:14	7:30-8:29	7:15-8:14	7:00-7:59	7:30-8:29	7:15-8:14	
京王電鉄	新宿	明大前	橋本	渋谷	下北沢	吉祥寺	調布				7
	7:45-8:44	7:45-8:44	7:15-8:14	7:45-8:44	7:30-8:29	7:30-8:29					
東京急行電鉄	渋谷	武蔵小杉	日吉	菊名	横浜	目黒	大岡山	五反田	大井町	溝の口	14
	7:45-8:44	7:30-8:29	7:45-8:44	7:30-8:29	7:15-8:14	7:45-8:44	8:00-8:59	8:00-8:59	7:45-8:44	7:30-8:29	
	あざみ野	長津田	中央林間	蒲田							
7:15-8:14	7:00-7:59	7:00-7:59	7:45-8:44								

※表中の上段は調査対象駅、下段はピーク時間帯

ハッチは、平成22年調査以降に新設または大規模改良が行われた調査対象駅の中でオフピーク時のみ調査を行う駅

表 乗換施設実態調査の調査対象駅(首都圏その2)

事業者名	調査対象駅										駅数
西武鉄道	西武新宿 7:45-8:44	高田馬場 7:30-8:29	東村山 7:00-7:59	所沢 7:00-7:59	池袋 7:45-8:44	練馬 7:30-8:29	秋津 7:00-7:59	国分寺 7:30-8:29	武蔵境 7:30-8:29		9
東武鉄道	北千住 7:30-8:29	新越谷 7:15-8:14	久喜 7:00-7:59	大宮 7:15-8:14	流山おおたかの森 7:15-8:14	柏 7:00-7:59	船橋 7:30-8:29	池袋 7:45-8:44	朝霞台 7:15-8:14	川越 7:15-8:14	10
京成電鉄	日暮里 7:30-8:29	京成八幡 7:15-8:14	京成船橋 7:30-8:29	押上 7:30-8:29							4
新京成電鉄	新津田沼 7:15-8:14	松戸 7:30-8:29									2
相模鉄道	横浜 7:15-8:14	大和 7:30-8:29	海老名 7:15-8:14								3
横浜シーサイドライン	金沢八景 7:30-8:29										1
多摩都市モノレール	立川南 7:15-8:14										1
ゆりかもめ	豊洲 7:45-8:44										1
東京臨海高速鉄道	新木場 7:30-8:29	大井町 7:45-8:44									2
東葉高速鉄道	西船橋 7:30-8:29										1
横浜高速鉄道	横浜 7:15-8:14										1
首都圏新都市鉄道	秋葉原 7:45-8:44	北千住 7:30-8:29	流山おおたかの森 7:15-8:14								3
東京モノレール	モノレール浜松町 8:00-8:59										1
湘南モノレール	大船 7:15-8:14										1
合計											177

※表中の上段は調査対象駅、下段はピーク時間帯

表 乗換施設実態調査の調査対象駅(中京圏)

事業者名	調査対象駅										駅数
東海旅客鉄道	大曽根 7:30-8:29	金山 7:30-8:29	千種 7:45-8:44	名古屋 7:30-8:29							4
名古屋市交通局	今池 7:45-8:44	大曽根 7:30-8:29	金山 7:30-8:29	上前津 7:45-8:44	栄 7:45-8:44	千種 7:45-8:44	名古屋 7:30-8:29	久屋大通 8:00-8:59	伏見 7:45-8:44	本山 7:30-8:29	10
名古屋鉄道	金山 7:30-8:29	栄町 7:45-8:44	新安城 7:15-8:14	名鉄名古屋 7:30-8:29							4
近畿日本鉄道	近鉄名古屋 7:30-8:29										1
合計											19

※表中の上段は調査対象駅、下段はピーク時間帯

表 乗換施設実態調査の調査対象駅(近畿圏)

事業者名	調査対象駅										駅数
西日本旅客鉄道	明石 7:15-8:14	尼崎 7:30-8:29	大阪 7:45-8:44	京都 7:30-8:29	京橋 7:30-8:29	三ノ宮 7:30-8:29	新今宮 7:30-8:29	宝塚 7:15-8:14	鶴橋 7:30-8:29	天王寺 7:30-8:29	11
	山科 7:30-8:29										
大阪市交通局	梅田 7:45-8:44	東梅田 7:45-8:44	西梅田 7:45-8:44	コスモスクエア 8:00-8:59	動物園前 7:30-8:29	天下茶屋 7:45-8:44	天王寺 7:30-8:29	なかもず 7:15-8:14	なんば 7:45-8:44	日本橋 7:45-8:44	12
	本町 7:45-8:44	淀屋橋 8:00-8:59									
京都市交通局	京都 7:30-8:29	四条 7:30-8:29	山科 7:30-8:29								3
神戸市交通局	三宮 7:30-8:29										1
近畿日本鉄道	京都 7:30-8:29	近鉄丹波橋 7:45-8:44	鶴橋 7:30-8:29	大阪阿倍野橋 7:30-8:29	大阪難波 7:45-8:44	近鉄日本橋 7:45-8:44	大和西大寺 7:00-7:59				7
南海電気鉄道	新今宮 7:30-8:29	天下茶屋 7:45-8:44	中百舌鳥 7:15-8:14	難波 7:45-8:44							4
阪神電気鉄道	梅田 7:45-8:44										1
阪急電鉄	梅田 7:45-8:44	川西能勢口 7:15-8:14	烏丸 7:30-8:29	十三 7:30-8:29	宝塚 7:15-8:14	西宮北口 7:30-8:29					6
京阪電気鉄道	京橋 7:30-8:29	丹波橋 7:45-8:44	出町柳 7:30-8:29	枚方市 7:15-8:14	淀屋橋 8:00-8:59						5
神戸高速線	新開地 7:30-8:29										1
山陽電気鉄道	山陽明石 7:15-8:14										1
能勢電鉄	川西能勢口 7:15-8:14	山下 7:00-7:59									2
叡山電鉄	出町柳 7:30-8:29										1
合計											55

※表中の上段は調査対象駅、下段はピーク時間帯

一般統計調査



大都市交通センサス 鉄道利用者調査票

国土交通省

この調査は、鉄道輸送を便利で快適なものにするための計画を立てることを目的に行うものです。この調査票に記入されたことは、他の目的に使用することはありません。この趣旨をご理解のうえ、正確にご記入くださるようお願い致します。

(識別コード) (調査票番号) IDナンバー ID number 000 00000000

【回答方法】

本調査は、以下の方法で回答を受け付けております。調査票を2通以上受け取られた方は、1通のみをご返信いただき、余りはお手数ですが破棄してください。調査票を受け取られた日の鉄道を利用した移動についてお答えください。

① インターネットで回答を行う場合 以下のWebサイトにアクセスした後、Webサイト上の説明に従って、12月18日までに回答下さい。

<回答サイトのQRコード>

インターネット回答の受付アドレス https://daitoshi.mlit.go.jp/



- 注1) インターネット回答を行われた方は、受け取られた調査票類は返送せず、お手数ですが破棄して下さい。注2) インターネット接続に要する費用は、回答者のご負担となります。注3) 携帯電話(スマートフォン以外)からはご利用になれません。注4) 「大都市交通センサス」をかたった不正なWebサイトやメールにご注意下さい。本調査では電子メールで回答を求めることはありません。また、氏名、電話番号をお聞きすることはありません。

② 郵送の場合 ご記入が完了しましたら、調査票のみを受け取った封筒に入れて、12月18日までに返送下さい。切手は不要です。

注1) 同封した回答票類をお読みのうえご記入下さい。注2) 選択肢の回答欄は該当するものに☑をお付け下さい。注3) 文字の記入欄は左詰めで、数字の記入欄は右詰めでご記入下さい。注4) 時刻の記入欄は、24時間表記でご記入下さい。注5) シャープペンシル又は黒鉛筆を使用し、間違えた箇所は消しゴムできれいに消してからお書き直し下さい。

1 あなたの性別・年齢をお答え下さい。 2 ご自宅の住所を丁目までご記入下さい。(都道府県は省略、以下同じ)

Gender and age selection boxes, and address input fields with丁目 (chomei) suffix.

3 お持ちの定期券(または敬老バス)と先週の出勤(登校)状況、始業時刻についてお尋ねします。

Questions about commuter passes, senior bus, and last week's commuting/schooling status and start times.

(3) 鉄道の定期券をお持ちの方は、購入会社、購入駅をご記入下さい。(定期券を2枚以上お持ちの方は、自宅に近い方から順に2枚目までの定期券についてご記入下さい。)

Form for recording railway commuter pass purchase companies and stations.

Questions about commuting/schooling days and start times.

4 本日の1回目の鉄道利用状況についてお尋ねします。

Question about the purpose of the first railway trip today.

(2) 出発地から最初に乗車された駅までの行動をお尋ねします。

Questions about departure time, location, and mode of transport to the first station.

(3) 鉄道利用経路について、列車を乗換えることに改行してご記入下さい。また、そのときの列車種別、利用券種もお答え下さい。

Table for recording railway routes, transfer stations, train types, and ticket types.

(4) 降車駅から目的地までの行動をお尋ねします。

Questions about the route from the disembarkation station to the destination.

*2 乗車券以外に特急券・岩倉券などが必要な列車。 *3 Suica(定期外)、PASMO(定期外)、切符、回数券などの定期券以外の券種。「定期券」と「その他」を併用された方は「定期券」と「その他」の両方にご回答ください。

裏面にお進み下さい

5 本日の2回目の鉄道利用状況についてお尋ねします。

(1) 出発地から目的地までの移動の目的をお答え下さい。

通勤 通学 業務
(弊社を含む) 私事 帰宅

(2) 出発地と最初に乗車された駅での乗車時刻をお答え下さい。

自宅発 1回目の目的地と同じ その他発

最初に乗車された駅での乗車時刻

時 分 乗車

(3) 鉄道利用経路について、列車を乗換えることに改行してご記入下さい。また、そのときの列車種別、利用券種もお答え下さい。

	利用路線	線	乗車駅名	→	降車駅名	駅
初めに	<input type="text"/>	線	<input type="text"/>	→	<input type="text"/>	駅
次に	<input type="text"/>	線	<input type="text"/>	→	<input type="text"/>	駅
次に	<input type="text"/>	線	<input type="text"/>	→	<input type="text"/>	駅
次に	<input type="text"/>	線	<input type="text"/>	→	<input type="text"/>	駅
次に	<input type="text"/>	線	<input type="text"/>	→	<input type="text"/>	駅

列車種別	新幹線	有料列車	快速・急行等	各駅停車のみ	利用券種	その他
<input type="checkbox"/>	定期券 (ICカードを含む)	<input type="checkbox"/>				
<input type="checkbox"/>						
<input type="checkbox"/>						
<input type="checkbox"/>						
<input type="checkbox"/>						

(4) 最後に降車された駅での降車時刻と目的地をお答え下さい。(自宅着の場合には、住所の記入は不要です。)

最後に降車された駅での降車時刻

時 分 降車 自宅着 自宅以外着
(右欄に住所を丁目までご記入下さい。)

丁目

6 本日の3回目の鉄道利用状況についてお尋ねします。

(1) 出発地から目的地までの移動の目的をお答え下さい。

通勤 通学 業務
(弊社を含む) 私事 帰宅

(2) 出発地をお答え下さい。

自宅発 2回目の目的地と同じ その他発

(3) 鉄道利用経路について、列車を乗換えることに改行してご記入下さい。また、そのときの列車種別、利用券種もお答え下さい。

	利用路線	線	乗車駅名	→	降車駅名	駅
初めに	<input type="text"/>	線	<input type="text"/>	→	<input type="text"/>	駅
次に	<input type="text"/>	線	<input type="text"/>	→	<input type="text"/>	駅
次に	<input type="text"/>	線	<input type="text"/>	→	<input type="text"/>	駅
次に	<input type="text"/>	線	<input type="text"/>	→	<input type="text"/>	駅
次に	<input type="text"/>	線	<input type="text"/>	→	<input type="text"/>	駅

列車種別	新幹線	有料列車	快速・急行等	各駅停車のみ	利用券種	その他
<input type="checkbox"/>	定期券 (ICカードを含む)	<input type="checkbox"/>				
<input type="checkbox"/>						
<input type="checkbox"/>						
<input type="checkbox"/>						
<input type="checkbox"/>						

(4) 最後に降車された駅での降車時刻と目的地をお答え下さい。(自宅着の場合には、住所の記入は不要です。)

最後に降車された駅での降車時刻

時 分 降車 自宅着 自宅以外着
(右欄に住所を丁目までご記入下さい。)

丁目

7 本日の帰宅時の鉄道利用状況についてお尋ねします。(3回目までの鉄道利用で帰宅された方、鉄道を利用せずに帰宅された方は、この質問の回答は不要です。)

(1) 帰宅時の出発地をお答え下さい。

3回目の目的地と同じ 勤務・通学先発 業務先発 その他発

(2) 帰宅時に最初に乗車された駅、最後に降車された駅と降車時刻をお答え下さい。

乗車駅名 線 駅 → 線 駅

降車時刻 時 分 降車

— ご協力ありがとうございました —

回答要領 (Survey Completion Guidelines / 回答要領 / 回答要領 / 응답 요령)

Public Transport Survey for Metropolitan Areas / 大城市公共交通調査
 大都市公共交通調査 / 대도시 대중교통 조사

The Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism is conducting a survey on public transport use. We ask for your cooperation by completing the online questionnaire, which can be accessed by visiting the URL noted below or by scanning the QR code.

国土交通省正在实施有关公共交通使用状况的调查。请从以下的 URL 或者扫描二维码进入回答专用网页，协助完成问卷调查。

国土交通省正在实施有关公共交通使用状况的调查。请从以下的 URL 或利用 QR Code 进入回答专用 Web 网站，协助填写问卷。

국토교통성에서는 대중교통 이용에 관한 조사를 실시하고 있습니다. 아래 URL 또는 QR 코드를 통해 응답용 웹사이트에 접속하셔서, 설문조사에 협조해 주시기 바랍니다.

<https://daitoshi.mlit.go.jp/>



国土交通省
 Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

調査ご協力をお願い

この度は、大都市交通センサスの鉄道利用者調査にご協力いただきありがとうございます。この調査は、あなたがこの調査票を受け取られた日の、鉄道を利用した移動（ある目的地に行くこととして、出発地を出た時から目的地に着くまでの行動）についてお尋ねするものです。

大都市交通センサスは、昭和35年から5年毎に国土交通省が実施している調査です。この成果は、大都市圏（首都圏・中京圏・近畿圏）の公共交通政策の検討や立案等を行うための基礎データとして、国の機関、地方自治体などで活用されています。本調査の趣旨をご理解いただき、ぜひ調査にご協力下さいますようお願い申し上げます。なお、調査票に記入された内容は統計的に処理され、本調査以外の目的に使用することはありません。

また、本調査はPCやスマートフォン、タブレットからも回答できます。上記のURLまたはQRコードから回答用Webサイトへアクセス頂き、ご回答をお願いいたします。



※過去の調査の結果等については、以下の Web サイトをご覧ください。

国土交通省 大都市交通センサスの Web サイト

[国土交通省トップページ](#) ⇒ [統計情報・白書](#) ⇒ [統計情報](#) ⇒ [大都市交通センサス](#)

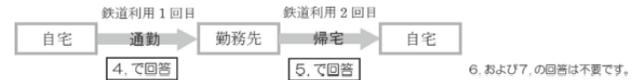
□ 鉄道利用者調査票の記入方法

- ① 選択肢の回答欄は該当するものに をお付け下さい。(枠内に収めて下さい。)
- ② 文字の記入欄は左詰め、数字の記入欄は右詰めでご記入下さい。漢字・カナ、数字を問わず 1マスに1字 ご記入下さい。
- ③ 時刻の記入欄は、24時間表記でご記入下さい。
- ④ シャープペン又は黒鉛筆（ボールペン等は不可）を使用して下さい。機械で読み取りますので、間違えた箇所は消しゴムできれいに消してからお書き直し下さい。

□ 回答にあたっての鉄道利用の考え方

- ◇ 1つの移動目的（通勤、通学、業務、私事、帰宅）ごとに、出発地を出て目的地に着くまでの行動を鉄道利用1回と数えます。
複数の路線を乗換えても、鉄道利用は1回とします。
- ◇ 調査票を受け取られた日の1回目の鉄道利用を **4.** で回答し、2回目の鉄道利用を **5.** で回答、3回目の鉄道利用を **6.** で回答します。
- ◇ 1日の中で 4回以上 鉄道を利用された場合は、帰宅が鉄道利用だった場合のみ 7. で回答します。

(例1) 自宅から勤務先へ行き、勤務先から自宅へ帰った場合



(例2) 自宅から勤務先へ行き、勤務先から業務先へ行き、業務先から勤務先に戻り、勤務先から自宅へ帰った場合



※ 1回目の移動目的が通勤・通学で、ふだんの利用路線が運休となった場合

通勤・通学時にふだんの利用路線が運休・振替輸送となった場合は、ふだんの通勤・通学時の鉄道利用状況についてお答え下さい。通勤・通学目的以外は、調査票を受け取られた日の鉄道利用状況をお答え下さい。

□ 記入例

A 自宅住所

◇ 都道府県は省略し、丁目までを記入します。1マス1文字です。

B 鉄道定期券購入駅

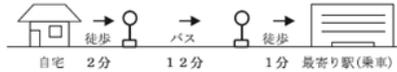
- ◇ 定期券を購入した場所(駅または営業所など)について記入します。1マス1文字です。マスの目が足りないときは、最後のマスまで記入し、続きは省略します。
- ◇ 定期券を2枚以上お持ちの方は、自宅に近い方から順に2枚目までの定期券について記入します。
- ◇ 定期券を購入した駅(発行駅)は、券面に印字されています。
- ◇ モバイル Suica 等、定期券として携帯情報端末を利用されている方は、定期券の券面区間の乗車駅を記入します。

C 出発地から最初の乗車駅までの交通手段と所要時間

◇ 最初に鉄道に乗るまでの利用交通手段を、徒歩を含めてすべてに☑を付けます。

“バイク”は、原動機付自転車を含みます。
 “車(その他)”は、自分で運転した場合はいいです。
 “送迎バス”は、会社の専用バス、スクールバスなどをいいます。
 “タクシー”は、ハイヤーを含みます。
 “その他”は、ケーブルカー(鋼索線)など、ここで示す区分に含まれないものをいいます。

(記入例では、図のように自宅からバスに乗り、最寄り駅へ行った場合を示しています。)



【調査票表面】

1 あなたの性別・年齢をお答え下さい。 A 自宅の住所を丁目までご記入下さい。(都道府県は省略、以下同じ。)

男 女 34 歳 住所 川崎市麻生区細山 4 丁目

3 お持ちの定期券(または敬老バス)と先通の出勤(登校)状況、始業時刻についてお尋ねします。

(1) 鉄道定期券または敬老バスをお持ちですか。 (2) お持ちの鉄道定期券の種類をお答え下さい。

鉄道定期券を1枚持っている 鉄道定期券を2枚以上持っている 通勤定期券(ICカード) 通勤定期券(ICカード以外)

敬老バス*1を持っている 持っていない 通学定期券(ICカード) 通学定期券(ICカード以外)

*1 東京圏のシルバーバス、敬老特別乗車証を指します。

B 鉄道の定期券をお持ちの方は、購入会社、購入駅をご記入下さい。(定期券を2枚以上お持ちの方は、自宅に近い方から順に2枚目までの定期券についてご記入下さい。)

定期券購入会社 定期券購入駅

1枚目 京王電鉄 新宿 2枚目

(4) ※通勤・通学されている方のみご記入下さい。先通、お勤め先(学校)に出勤(登校)されたすべての曜日をお答え下さい。 (5) ※通勤されている方のみご記入下さい。お勤め先の始業時刻をお答え下さい。

月曜日 火曜日 水曜日 木曜日 金曜日 土曜日 日曜日 19 時 00 分

2 本日の1回目の鉄道利用状況についてお尋ねします。

(1) 出発地から目的地までの移動の目的をお答え下さい。 通勤 通学 業務(福祉を含む) 私事 帰宅

(2) 出発地から最初に乗車された駅までの行動をお尋ねします。 (3) 出発地から最初に乗車された駅までの利用交通手段(複数回答可)とその時の所要時間をお答え下さい。

① 出発時刻と出発地をお答え下さい。(自宅の場合は、住所の記入は不要です。) ② 最初に降車された駅までの乗車時刻をお答え下さい。

出発地を出た時刻 7 時 00 分 出発 徒歩 自転車 バイク 車(送迎) 車(その他) 15 分

バス 送迎バス タクシー その他

③ 最初に降車された駅までの乗車時刻をお答え下さい。

降車時刻 7 時 17 分 乗車

D 鉄道利用経路について、列車を乗換えることに改行してご記入下さい。また、そのときの列車種別、利用券種もお答え下さい。

利用種別 乗車駅名 乗車駅名

初めに 京王相模原 線 京王よみうりライ 線 調布 駅

次に 京王 線 調布 駅 市ヶ谷 駅

次に 総武 線 市ヶ谷 駅 秋葉原 駅

次に

(4) 降車駅から目的地までの行動をお尋ねします。 (5) 降車時刻と目的地をお答え下さい。(自宅の場合は、住所の記入は不要です。)

① 降車時刻と目的地をお答え下さい。(自宅の場合は、住所の記入は不要です。)

降車時刻 8 時 26 分 降車 目的地に降いた時刻 8 時 31 分 別乗

徒歩 自転車 バイク 車(送迎) 車(その他) 5 分

バス 送迎バス タクシー その他

自宅以外(下駅に住所を丁目までご記入下さい) 自宅

千代田区外神田 4 丁目

【この調査に関するお問い合わせ先】

大都市交通センサス 鉄道利用者調査窓口 電話番号 0120(636)766 (フリーダイヤル)
 ≪受付期間 11月17日～12月22日(9時～18時)土日祝除く≫

D 鉄道利用状況

<利用路線、乗車駅名、降車駅名>

- ◇ 利用された鉄道の路線名、乗車した駅名、降車した駅名を、列車を乗換えるごとに、利用した順番で記入します。
- ◇ 同じ路線の中で各駅停車から快速などに乗り継いだ場合も乗換えとします。ただし、直通運転の列車を利用された場合には、路線名が変わっても乗換えではありません。

<列車種別>

- ◇ 列車を乗換えるごとに、利用された列車種別について1つだけ☑を付けます。
- ◇ “快速・急行等”は、各駅停車以外で特急料金などの特別な料金を必要としない列車を指しています。
- ◇ グリーン車利用、ライナー券使用の場合は、“有料列車”になります。

<利用券種>

- ◇ “IC定期”は、券面に区間と通期期間が印字されているICカードです。

【調査票裏面】

5 本日の2回目の鉄道利用状況についてお尋ねします。

(1) 出発地から目的地までの移動の目的をお答え下さい。 通勤 通学 業務(福祉を含む) 私事 帰宅

(2) 出発地から最初に乗車された駅までの乗車時刻をお答え下さい。 (3) 鉄道利用経路について、列車を乗換えることに改行してご記入下さい。また、そのときの列車種別、利用券種もお答え下さい。

最初に降車された駅での乗車時刻 最初に降車された駅での乗車時刻 13 時 51 分 乗車

自宅外 1回目の目的地と同じ その他

利用種別 乗車駅名 乗車駅名

初めに 京浜東北 線 秋葉原 駅 上野 駅

次に 高崎 線 上野 駅 さいたま新都心 駅

次に

次に

(4) 最後に降車された駅での降車時刻と目的地をお答え下さい。(自宅の場合は、住所の記入は不要です。)

最後に降車された駅での降車時刻 14 時 22 分 降車 自宅外 さいたま市中央区新都心 2 丁目

① 降車時刻と目的地をお答え下さい。(自宅の場合は、住所の記入は不要です。)

降車時刻 14 時 22 分 降車 さいたま市中央区新都心 2 丁目

6 本日の3回目の鉄道利用状況についてお尋ねします。

(1) 出発地から目的地までの移動の目的をお答え下さい。 通勤 通学 業務(福祉を含む) 私事 帰宅

(2) 出発地をお答え下さい。 (3) 鉄道利用経路について、列車を乗換えることに改行してご記入下さい。また、そのときの列車種別、利用券種もお答え下さい。

自宅外 2回目の目的地と同じ その他

利用種別 乗車駅名 乗車駅名

初めに 東北本 線 さいたま新都心 駅 赤羽 駅

次に 埼京 線 赤羽 駅 新宿 駅

次に

次に

次に

(4) 最後に降車された駅での降車時刻と目的地をお答え下さい。(自宅の場合は、住所の記入は不要です。)

最後に降車された駅での降車時刻 18 時 46 分 降車 自宅外 新宿区新宿 3 丁目

① 降車時刻と目的地をお答え下さい。(自宅の場合は、住所の記入は不要です。)

降車時刻 18 時 46 分 降車 新宿区新宿 3 丁目

7 本日の帰宅時の鉄道利用状況についてお尋ねします。(3回目までの鉄道利用で帰宅された方、鉄道を利用せずに帰宅された方は、この質問の回答は不要です。)

(1) 帰宅時の出発地をお答え下さい。 3回目の目的地と同じ 勤務・通学先 業務先 その他

(2) 帰宅時に最初に降車された駅、最後に降車された駅と降車時刻をお答え下さい。

乗車駅名 降車駅名

京王 線 新宿 駅 → 京王相模原 線 京王よみうりライ 駅

降車時刻 23 時 31 分 降車



一般統計調査



国土交通省

大都市交通センサス
訪日外国人公共交通利用実態調査票(鉄道調査)

[あなたご本人について]

問1. あなたの国籍・地域を選んでください。(ひとつだけ)

- | | | |
|--------------------------|------------------------------|-------------------------------|
| <input type="radio"/> 韓国 | <input type="radio"/> シンガポール | <input type="radio"/> オーストラリア |
| <input type="radio"/> 台湾 | <input type="radio"/> 英国 | <input type="radio"/> その他 |
| <input type="radio"/> 香港 | <input type="radio"/> 米国 | <input type="text"/> |
| <input type="radio"/> 中国 | <input type="radio"/> カナダ | |

問2. 性別・年齢をお答えください。

- 男性 女性 年齢 _____ 歳

問3. あなたは日本居住者ですか。
(ここでは3ヶ月以上日本に居住されている方を日本居住者とします。)

- はい いいえ

※「はい」を回答した場合は調査終了

[今回の日本の訪問について]

問4. あなたが日本に来たのは今回で何回目ですか。(ひとつだけ)

- | | | |
|---------------------------|-----------------------------|------------------------------|
| <input type="radio"/> 1回目 | <input type="radio"/> 4回目 | <input type="radio"/> 10~19回 |
| <input type="radio"/> 2回目 | <input type="radio"/> 5回目 | <input type="radio"/> 20回以上 |
| <input type="radio"/> 3回目 | <input type="radio"/> 6~9回目 | |

問5. 今回の訪問における同行者の種類を選んでください。(いくつでも)

- 同行者なし
- 同行者あり
- | | |
|-----------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> 夫婦・パートナー | <input type="checkbox"/> 家族・親族(夫婦・パートナー以外) |
| <input type="checkbox"/> 友人 | <input type="checkbox"/> 職場の同僚 |
| <input type="checkbox"/> その他 | |

問6. 今回の訪問における旅行手配方法をお答えください。(ひとつだけ)

- | |
|---|
| <input type="radio"/> 旅行会社等が企画した団体ツアーに参加した |
| <input type="radio"/> 航空(船舶)券と宿泊等がセットになった個人旅行向けパッケージ商品を利用した |
| <input type="radio"/> 航空(船舶)券や宿泊等を個別に手配した |
| <input type="radio"/> その他(自分で手配していないのでわからない等) |

問7. 今回の訪問の主な目的を選んでください。(ひとつだけ)

- 私用 (観光・レジャー, ハネムーン, 親族・知人訪問, イベント, 治療・健診等)
- 業務 (展示会・見本市, 国際会議, 研修, 商談等)
- 学業 (留学, 学校関連の旅行等)
- その他

問8. 今回の訪問における入国した年月日と入国した空港・海港をお答えください。(ひとつだけ)

入国日 2 0 ____ 年 ____ 月 ____ 日

入国空港・海港

- 成田
- 羽田
- 関西
- 中部
- 静岡
- 福岡
- 茨城
- 小松
- その他の空港
- 海港

問9. 日本を出国する年月日と出国する空港・海港の予定をお答えください。
また, 空港・海港に向かう際に最後に利用した(予定の)交通手段をお答えください。(ひとつだけ)

出国日 2 0 ____ 年 ____ 月 ____ 日 出国日は未定

出国空港・海港

- 成田
- 羽田
- 関西
- 中部
- 静岡
- 福岡
- 茨城
- 小松
- その他の空港
- 海港

出国空港・海港への最後の利用交通手段

- 鉄道 空港アクセス特急※ 在来線・地下鉄 モノレール
- バス 空港直行バス 貸切りバス(団体ツアーバス)
- その他のバス
- 車 タクシー・ハイヤー レンタカー その他の乗用車(送迎等)
- その他 旅客船・フェリー 国内線飛行機 その他
- 利用交通手段は未定

※成田エクスプレス, 京成スカイライナー, 名鉄ミュースカイ, JRはるか, 南海ラピート

[調査票を受け取られた日の行動について]

問10. 調査票を受け取られた日の行動をお尋ねします。

10-1. 日本国内での出発地・目的地と移動の目的、鉄道の利用状況をお答えください。

出発地・目的地(選択式)

出発地

① 移動の目的

② 鉄道利用あり

③ 鉄道利用状況(以下は②鉄道利用が「あり」の場合のみ質問)

③a 乗車時刻 _____ 時 _____ 分

③b 利用路線, 乗車駅, 降車駅

	利用路線	乗車駅	降車駅
1回目	<input type="text" value="選択式"/> 線	<input type="text" value="選択式"/> 駅	<input type="text" value="選択式"/> 駅
2回目	<input type="text" value="選択式"/> 線	<input type="text" value="選択式"/> 駅	<input type="text" value="選択式"/> 駅
3回目	<input type="text" value="選択式"/> 線	<input type="text" value="選択式"/> 駅	<input type="text" value="選択式"/> 駅
4回目	<input type="text" value="選択式"/> 線	<input type="text" value="選択式"/> 駅	<input type="text" value="選択式"/> 駅
5回目	<input type="text" value="選択式"/> 線	<input type="text" value="選択式"/> 駅	<input type="text" value="選択式"/> 駅

③c 利用券種

③d 鉄道降車から目的地までの利用交通手段※
(出発地または目的地が空港の場合のみ質問)

※上記は空港からの鉄道利用の場合。空港への鉄道利用の場合は「出発地から鉄道乗車までの利用交通手段」の設問を表示。

1番目 → 2番目の目的地の回答があった場合のみ上記①～③を質問

2番目 → 3番目の目的地の回答があった場合のみ上記①～③を質問

3番目 → 4番目の目的地の回答があった場合のみ上記①～③を質問

4番目 → 5番目の目的地の回答があった場合のみ上記①～③を質問

5番目 → 6番目の目的地の回答があった場合のみ上記①～③を質問

6番目 → 7番目の目的地の回答があった場合のみ上記①～③を質問

7番目 → 8番目の目的地の回答があった場合のみ上記①～③を質問

8番目

【出発地・目的地の選択肢(首都圏の一例)】

空港	羽田空港, 成田空港, 関西国際空港, 中部国際空港 等
観光地 ・業務地 (圏域内)	【地域(東京都の場合)】 新宿・大久保, 銀座, 浅草, 渋谷, 東京駅周辺・丸の内・日本橋, 秋葉原, 上野, 原宿・表参道・青山, お台場・東京湾, 六本木・赤坂, 池袋, 品川, 築地, 新橋・汐留, 恵比寿・代官山, 墨田・両国, 吉祥寺・三鷹, 八王子・高尾山, 伊豆諸島・小笠原諸島
主要都市 (圏域外)	【施設】 東京スカイツリー, 東京ディズニーランド, 東京タワー 等 富士山周辺, 福岡, 神戸, 京都, 長崎, 名古屋, 奈良, 日光, 沖縄, 大阪, 札幌, 仙台, 高山 等

【移動目的の選択肢】

観光・レジャー（食事を含む）、買い物、業務、宿泊先への移動、帰国、その他

【利用券種の選択肢】

切符、ICカード（Suica、PASMO、TOICA、manaca、ICOCA、PiTaPA等）、
交通パス（Japan Rail Pass）、交通パス（その他）、その他

【利用交通手段の選択肢】

鉄道 在来線、地下鉄、モノレール、路面電車
新幹線、空港アクセス特急※、優等列車（空港アクセス特急※以外）

バス 空港直行バス、路線バス、高速バス（空港直行バス以外）
貸切りバス（団体ツアーバス）

車 タクシー・ハイヤー、レンタカー、その他の乗用車（送迎等）

その他 旅客船・フェリー、国内線飛行機、その他

※成田エクスプレス、京成スカイライナー、名鉄ミュースカイ、JRはるか、南海ラピート

10-2. 訪問先への交通機関の情報は何かからまたはどこで得ましたか。(いくつでも)

インターネット

- | | |
|---|---------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 空港会社のWebサイト | <input type="checkbox"/> 政府観光局のWebサイト |
| <input type="checkbox"/> 航空会社のWebサイト | <input type="checkbox"/> 観光協会のWebサイト |
| <input type="checkbox"/> 鉄道・バス会社のWebサイト | <input type="checkbox"/> 宿泊施設のWebサイト |
| <input type="checkbox"/> 旅行会社のWebサイト | <input type="checkbox"/> SNS・個人のブログ |

インターネット以外

- | | |
|--------------------------------------|---------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 空港の案内所 | <input type="checkbox"/> 宿泊施設 |
| <input type="checkbox"/> 政府観光局の案内所 | <input type="checkbox"/> 同行者 |
| <input type="checkbox"/> 駅の観光案内所 | <input type="checkbox"/> 日本在住の親族・知人 |
| <input type="checkbox"/> 駅の掲示版・窓口・係員 | <input type="checkbox"/> 旅行ガイドブック(有料) |
| <input type="checkbox"/> 旅行会社 | <input type="checkbox"/> フリーペーパー |
- その他
 特になし

以上



一般統計調査

大都市交通センサス

国土交通省

定期券発売実績調査票(1)

秘

事業者名	
定期券発売所名	

(単位:枚)

通 用 種 類 期 間	① 平成 27 年 度 発 売 枚 数											
	通 勤				通 学				計			
	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	計	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	計	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	計
5 月												
6 月												
7 月												
8 月												
9 月												
10 月												
11 月												
計												

(注) この調査票は、調査区域内の各駅及び案内所等の定期券発売枚数を計上する。その際、券面区間が調査圏域内外であることを問わない。
 通用期間が1、3、6ヶ月のいずれにも該当しない定期券は欄を細分化して計上する。
 網掛けの欄は記入しない。“計”欄には、網掛けのない欄の合計値を記入する。(例 5月の“計”欄には“6ヶ月”欄の値が入る)



一般統計調査

秘

大 都 市 交 通 セ ン サ ス
国土交通省
定期券発売実績調査票(2)

事業者名	
定期券発売所名	

(単位:枚)

種類	11月分の定期券発売枚数	11月分の 調査対象外の定期券発売枚数
通勤		
通学		
計		



一般統計調査

大都市交通センサス

国土交通省

定期券発売実績調査票(3)

秘

事業者名	
定期券発売所名	

(単位:枚)

種類	11月分の定期券発売枚数													計
	15歳未満	15歳～19歳	20歳～24歳	25歳～29歳	30歳～34歳	35歳～39歳	40歳～44歳	45歳～49歳	50歳～54歳	55歳～59歳	60歳～64歳	65歳～69歳	70歳以上	
男性														
女性														
計														

中京圏・基幹的なバス調査

郵便はがき
1 0 2 0 0 7 2
000

料金受取人私
〇〇〇〇
0000

東京都千代田区飯田橋
3-11-20

差出有効期限
平成27年12月
31日まで
(切手不要)

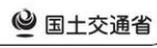
大都市交通センサス
「バス利用者調査」係

お手数ですが取り取って投函下さい



大都市交通センサス バス利用者調査票

この度は、大都市交通センサス「バス利用者調査」にご協力いただきありがとうございます。
この調査は、バスのご利用を便利で快適なものにすることを目的に行うものです。この調査票にご記入されたことは、他の目的に使用することはありません。
この趣旨をご理解のうえ、正確にご記入くださるようお願いいたします。



回答はがき 調査票番号

性別 (該当する方に○) 1. 男 2. 女
年齢 (数字を記入) 歳
運転免許(自動車)の有無 (該当する方に○) 1. 有り 2. 無し

今回の移動における、出発地と目的地の住所をご記入ください。丁目まで分からない方は、分かるところまでで結構です。

【出発地】
都道府県 市町区村 町 丁目

【目的地】
都道府県 市町区村 町 丁目

調査票を受けとられた時の移動の状況についてお答えください。回答は、右側の【回答欄】にご記入ください。

問1. バスで移動された目的をお答えください。(答1に記入)

1. 通勤 2. 通学 3. 業務
4. 買い物 5. 通院 6. その他私事
7. 帰宅

問2. バスを利用された区間(乗車・降車停留所、バス会社名)と乗車・降車時刻をお答えください。(答2に記入)

問3. バスを利用されたときの券種をお答えください。(答3に記入)

1. 定期券 (IC 定期券を含む) 2. IC カード
3. 回数券 4. 現金
5. 敬老バス 6. その他 (1日乗車券等)

問4. 調査票を受けとられたターミナルにおいて、バスを利用された際の、鉄道との乗り継ぎおよびバスの乗り継ぎの有無についてお答えください。(答4に記入)

【鉄道との乗り継ぎ】
1. 鉄道との乗り継ぎをした 一路線名と駅名をお答えください
2. 鉄道との乗り継ぎはしない

【バスの乗り継ぎ】
1. バスの乗り継ぎをした
2. バスの乗り継ぎはしない

問5. 今回、バスを利用された区間で、バス以外の交通手段の中でいちばん利用頻度の高い交通手段をお答えください。また、今回バスを利用された理由をお答えください。(答5に記入)

【バス以外に利用する交通手段】
1. 徒歩 2. 自転車 3. バイク
4. 車 (送迎を含む) 5. 鉄道 6. タクシー
7. バス以外は利用しない 一問7にお進みください。

【バスを利用した理由】(複数回答可)
1. (バスの方が) 費用が安い
2. (バスの方が) 時間が早い・正確
3. (バスの方が) 運行本数が多い
4. (バスの方が) 乗降が楽
5. 停留所が自宅や目的地に近い
6. 座って行ける
7. 目的地に駐車場が無い
8. 雨が降っていた
9. 車を保有していない
その他にも理由がありましたら、「その他」の欄にご記入ください。

問6. バスと問5で選んだ他の交通手段との利用割合について、お答えください。(答6に記入)

1. バスを利用する方が多い
2. 同じくらい
3. バスを利用する方が少ない

調査票を受け取られた方へ

本調査票はバス車内では回収を行っておりません。回答をご記入の上、郵便ポストに投函してください。

1. 返送方法
調査票の【回答欄】にご記入後、ミシン目に沿って回答はがきを切り離して、12月18日までに郵便ポストに投函してください。

2. 記入方法

① 回答はがきの表面に、性別、年齢、運転免許の有無、調査票をお受け取りになったときの移動における、出発地と目的地の住所をご記入ください。

② 裏面にある質問(問1から問8)について、裏面の【回答欄】(答1から答8)にお答えください。回答欄が□枠のものは、選択した番号を枠内にご記入ください。

③ 問5、問8で回答が「その他」にあてはまる場合には、その内容を答5、答8の「.....」の欄に、ご記入ください。

問7. 今回利用されたバスを利用される頻度をお答えください。(答7に記入)

1. 週5日以上 2. 週に2~4日程度 3. 週に1日程度
4. 月に2~3日程度 5. 月に1日以下

問8. 実施されれば、今よりもバスを利用しやすくなると思われるものについて、優先度の高いものから3つまでを選んでお答えください。(答8に記入)

＜運行サービスに関する項目＞
1. 時刻どおりに運行する
2. 運行本数を増やす
3. 運行時間帯を拡大する (始発時刻の繰り上げ、終バス時刻の繰り下げ)
4. 運行情報 (位置、出発までの時間、到着までの時間等) を色々なメディアで提供する

＜快適性に関する項目＞
5. 車内混雑を緩和する
6. 乗務員のマナーを良くする
7. ノンステップバス等を増やす

＜利便性に関する項目＞
8. 鉄道との乗り継ぎ割引を行う
9. 鉄道との乗り継ぎを便利にする
10. 停留所に屋根やベンチを設置する
その他にもご要望がありましたら、「その他」の欄にご記入ください。

ご協力ありがとうございました

別紙10

3. 本調査に関するお問い合わせ先

大都市交通センサス バス利用者調査 事務局
電話番号 0120-001-477
(フリーダイヤル)

【回答欄】 ※ □枠の欄には選択した番号をご記入ください 「午前・午後」は該当する方に○をお付けください。

答1 目的 □

答2 調査票を受取られたバスの利用区間と乗車・降車時刻
乗車停留所名 降車停留所名
バス会社名
乗車時刻 午前・午後 降車時刻 午前・午後
時 分頃 時 分頃

答3 バス利用券種 □

答4 鉄道との乗り継ぎ □ → 鉄道 駅名 線
バスの乗り継ぎ □ 駅

答5 バス以外に利用する交通手段
交通手段 □ 利用理由 (最大3つ) □ □ □
その他:)

答6 他の交通手段の利用割合 □

答7 バス利用頻度 □

答8 サービス向上策
1番目 □ 2番目 □ 3番目 □
その他:)

お手数ですが取り取って投函下さい



一般統計調査

秘

国土交通省

**大都市交通センサス
訪日外国人公共交通利用実態調査票(空港アクセスバス調査)**

[あなたご本人について]

問1. あなたの国籍・地域を選んでください。(ひとつだけ)

- | | | |
|--------------------------|------------------------------|--|
| <input type="radio"/> 韓国 | <input type="radio"/> シンガポール | <input type="radio"/> オーストラリア |
| <input type="radio"/> 台湾 | <input type="radio"/> 英国 | <input type="radio"/> その他 |
| <input type="radio"/> 香港 | <input type="radio"/> 米国 | <input style="width: 100px; height: 15px;" type="text"/> |
| <input type="radio"/> 中国 | <input type="radio"/> カナダ | |

問2. 性別・年齢をお答えください。

- | | | |
|--------------------------|--------------------------|------------|
| <input type="radio"/> 男性 | <input type="radio"/> 女性 | 年齢 _____ 歳 |
|--------------------------|--------------------------|------------|

問3. あなたは日本居住者ですか。(ひとつだけ)
(ここでは3ヶ月以上日本に居住されている方を日本居住者とします。)

- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| <input type="radio"/> はい | <input type="radio"/> いいえ |
|--------------------------|---------------------------|

※「はい」を回答した場合は調査終了

[今回の日本の訪問について]

問4. あなたが日本に来たのは今回で何回目ですか。(ひとつだけ)

- | | | |
|---------------------------|-----------------------------|------------------------------|
| <input type="radio"/> 1回目 | <input type="radio"/> 4回目 | <input type="radio"/> 10～19回 |
| <input type="radio"/> 2回目 | <input type="radio"/> 5回目 | <input type="radio"/> 20回以上 |
| <input type="radio"/> 3回目 | <input type="radio"/> 6～9回目 | |

問5. 今回の訪問における同行者の種類を選んでください。(いくつでも)

- | | |
|-----------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> 同行者なし | |
| 同行者あり | |
| <input type="checkbox"/> 夫婦・パートナー | <input type="checkbox"/> 家族・親族(夫婦・パートナー以外) |
| <input type="checkbox"/> 友人 | <input type="checkbox"/> 職場の同僚 |
| <input type="checkbox"/> その他 | |

問6. 今回の訪問における旅行手配方法をお答えください。(ひとつだけ)

- | |
|---|
| <input type="radio"/> 旅行会社等が企画した団体ツアーに参加した |
| <input type="radio"/> 航空(船舶)券と宿泊等がセットになった個人旅行向けパッケージ商品を利用した |
| <input type="radio"/> 航空(船舶)券や宿泊等を個別に手配した |
| <input type="radio"/> その他(自分で手配していないのでわからない等) |

問7. 今回の訪問の主な目的を選んでください。(ひとつだけ)

- 私用 (観光・レジャー, ハネムーン, 親族・知人訪問, イベント, 治療・健診等)
- 業務 (展示会・見本市, 国際会議, 研修, 商談等)
- 学業 (留学, 学校関連の旅行等)
- その他

問8. 今回の訪問における入国した年月日と入国した空港・海港をお答えください。(ひとつだけ)

入国日 20__年__月__日

入国空港・海港

- 成田
- 静岡
- その他の空港
- 羽田
- 福岡
- 海港
- 関西
- 茨城
- 中部
- 小松

問9. 日本を出国する年月日と出国する空港・海港の予定をお答えください。
また、空港・海港に向かう際に最後に利用した(予定の)交通手段をお答えください。(ひとつだけ)

出国日 20__年__月__日 出国日は未定

出国空港・海港

- 成田
- 静岡
- その他の空港
- 羽田
- 福岡
- 海港
- 関西
- 茨城
- 中部
- 小松

出国空港・海港への最後の利用交通手段

- 鉄道 空港アクセス特急※ 在来線・地下鉄 モノレール
- バス 空港直行バス 貸切りバス(団体ツアーバス)
 その他のバス
- 車 タクシー・ハイヤー レンタカー その他の乗用車(送迎等)
- その他 旅客船・フェリー 国内線飛行機 その他

※成田エクスプレス, 京成スカイライナー, 名鉄ミュージスカイ, JRIはるか, 南海ラピート

[調査票を受け取られた日の行動について]

問10. 調査票を受け取られたバスでの移動をお尋ねします。

10-1. 移動の目的および日本国内での出発地・目的地、バスの利用状況をお答えください。

	① 移動の目的	<input type="checkbox"/>
出発地	② 出発地	<input type="text" value="選択式"/>
このバスの乗車停留所	③ バスの乗車停留所	<input type="text" value="選択式"/>
	④ バスの利用券種	<input type="checkbox"/>
	⑤ バスの乗車時刻	___ 時 ___ 分
このバスの降車停留所	⑥ バスの降車停留所	<input type="text" value="選択式"/>
	⑦ 目的地までの利用交通手段*	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
目的地	⑧ 目的地	<input type="text" value="選択式"/>

※調査票から空港アクセスバスかイグレスバスかを判別し、設問を表示する。
 (上記は空港イグレスバス利用の場合。空港アクセスバスの場合は
 ②と③の間に「出発地からの利用交通手段」の設問を表示する。)

【出発地・目的地の選択肢(首都圏の一例)】

空港	羽田空港, 成田空港, 関西国際空港, 中部国際空港 等
観光地 ・業務地 (圏域内)	【地域(東京都の場合)】 新宿・大久保, 銀座, 浅草, 渋谷, 東京駅周辺・丸の内・日本橋, 秋葉原, 上野, 原宿・表参道・青山, お台場・東京湾, 六本木・赤坂, 池袋, 品川, 築地, 新橋・汐留, 恵比寿・代官山, 墨田・両国, 吉祥寺・三鷹, 八王子・高尾山, 伊豆諸島・小笠原諸島 【施設】 東京スカイツリー, 東京ディズニーランド, 東京タワー 等
主要都市 (圏域外)	富士山周辺, 福岡, 神戸, 京都, 長崎, 名古屋, 奈良, 日光, 沖縄, 大阪, 札幌, 仙台, 高山 等

【移動目的の選択肢】

観光・レジャー(食事を含む), 買い物, 業務, 宿泊先への移動, 帰国, その他

【利用券種の選択肢】

切符, ICカード(Suica, PASMO, TOICA, manaca, ICOCA, PiTaPA等),
 交通パス, その他

【利用交通手段の選択肢】

鉄道	在来線, 地下鉄, モノレール, 路面電車 新幹線, 空港アクセス特急※, 優等列車(空港アクセス特急※以外)
バス	空港直行バス, 路線バス, 高速バス(空港直行バス以外) 貸切りバス(団体ツアーバス)
車	タクシー・ハイヤー, レンタカー, その他の乗用車(送迎等)
その他	旅客船・フェリー, 国内線飛行機, その他

※成田エクスプレス, 京成スカイライナー, 名鉄ミュージスカイ, JRはるか, 南海ラピート

10-2. 調査票を受け取られたバスの情報は何かから得ましたか。(いくつでも)

インターネット

- | | |
|---|---------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 空港会社のWebサイト | <input type="checkbox"/> 政府観光局のWebサイト |
| <input type="checkbox"/> 航空会社のWebサイト | <input type="checkbox"/> 観光協会のWebサイト |
| <input type="checkbox"/> 鉄道・バス会社のWebサイト | <input type="checkbox"/> 宿泊施設のWebサイト |
| <input type="checkbox"/> 旅行会社のWebサイト | <input type="checkbox"/> SNS・個人のブログ |

インターネット以外

- | | |
|--------------------------------------|---------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 空港の案内所 | <input type="checkbox"/> 宿泊施設 |
| <input type="checkbox"/> 政府観光局の案内所 | <input type="checkbox"/> 同行者 |
| <input type="checkbox"/> 駅の観光案内所 | <input type="checkbox"/> 日本在住の親族・知人 |
| <input type="checkbox"/> 駅の掲示版・窓口・係員 | <input type="checkbox"/> 旅行ガイドブック(有料) |
| <input type="checkbox"/> 旅行会社 | <input type="checkbox"/> フリーペーパー |
| <input type="checkbox"/> その他 | |
| <input type="checkbox"/> 特になし | |

以上

鉄道駅乗換調査記入表

別紙 1 2

調査パターンNo.		ピーク時間																						
調査起点																					*方面			
調査終点																						*方面		
調査員氏名	飯田橋博士		歩幅 **cm	観測日時	ピーク調査	2015年*月*日		時	分															
					オフピーク調査	2010年*月*日		時	分															
対象施設内容	ホーム (該当に○)																							
	延長	歩数(歩)																						
		延長(m)																						
	昇階段 (利用:○、非利用:×)																							
	幅員	歩数(歩)																						
		幅員(m)																						
		段数(段)																						
	降階段 (利用:○、非利用:×)																							
	幅員	歩数(歩)																						
		幅員(m)																						
		段数(段)																						
	昇エスカ (利用:○、非利用:×)																							
	幅員	歩数(歩)																						
		幅員(m)																						
	降エスカ (利用:○、非利用:×)																							
	幅員	歩数(歩)																						
		幅員(m)																						
	駅構内通路 (該当に○)																							
	延長	歩数(歩)																						
		延長(m)																						
最小幅員	歩数(歩)																							
	幅員(m)																							
駅構外通路 (該当に○)																								
延長	歩数(歩)																							
	延長(m)																							
代表幅員	歩数(歩)																							
	幅員(m)																							
改札 (該当に○)																								
ラッチ数	有人(基)																							
	自動(基)																							
時間	待ち時間 (秒)	ピーク時																						
		オフピーク時																						
所要時間 (秒)	ピーク時																							
	オフピーク時																							
自動ラッチ開放数	ピーク時	正方向																						
		逆方向																						
		両方向																						
	オフピーク時	正方向																						
逆方向																								
両方向																								

【ホーム概略図】

起終点 乗換階段 エスカレーター エレベーター

● → → □

起点ホーム ()番線
乗換階段 ()箇所
エスカレーター ()箇所
エレベーター ()箇所
(至) →

←(至)

終点ホーム ()番線
乗換階段 ()箇所
エスカレーター ()箇所
エレベーター ()箇所
(至) →

←(至)

【ルート概略図】

昇(階段・エスカレーター): / 降(階段・エスカレーター): \ 通路(構内外): — ラッチ: —

2. 平成 22 年調査からの変更点

2-1 鉄道調査の変更点

(1) 鉄道利用者調査

1) 圏域外内・内外流動の把握

圏域内の鉄道流動の全てを把握することを目的として、平成 22 年調査では調査対象外としていた圏域外内・内外の移動者についても調査対象に含めた。平成 22 年調査では圏域外内・内外の移動者の回答は対象外としていたが、平成 27 年調査では原データとして残すこととした。

2) 訪日外国人の鉄道利用実態の把握

近年の訪日外国人の増加に伴い、日本人のみを対象とした公共交通利用実態の把握だけでは、大都市圏の公共交通利用の全体像を把握することが難しくなっている。とくに、空港アクセス利用者については、訪日外国人の利用者が多く、今後も利用者数の増加が見込まれる。従って、公共交通利用実態の全体を把握するには訪日外国人旅客を含めた利用実態の把握が必要である。

そこで、訪日外国人についても調査対象に含め、圏域内の鉄道利用状況の詳細を把握するための調査を行った。

(2) 定期券発売実績調査

定期券発売実績調査については、鉄道利用者調査の拡大の際に、以前の調査から生じている回答者の個人属性の偏りを補正するため、新たに性・年齢階層別の定期券発売枚数を調査した。

(3) 路面電車等に関する調査

路面電車等に関する利用者調査、OD 調査及び輸送サービス実態調査は、平成 22 年調査ではバスの各調査の枠組みで行っていたが、鉄道の各調査に含めた。

2-2 バス調査の変更点

(1)バス利用者調査

1)空港アクセスバスの利用実態の把握

交通政策基本計画（平成 27 年 2 月 13 日閣議決定）において「国際交通ネットワークの競争力の強化」が重要な政策課題とされており、「利用者の視点からの国際拠点空港のアクセスの強化」が、今後新たに検討するものとして定められている。その検討に資する基礎資料作成のため、空港アクセスバス路線を調査対象とした調査に変更した。

2)基幹的なバス利用実態の把握(中京圏)

中京圏ではバスが基幹的な交通機関としての役割を担っていることや、他圏域と比較し自動車の交通分担率が高いという特徴がある。

鉄道とバスの選択要因やバスへのニーズを分析することにより、自動車からバスを含めた公共交通への転換施策の検討に活用するため、基幹的なバスの利用実態の調査を新たに行った。

3)訪日外国人の空港アクセスバス利用実態の把握

空港アクセスバスの利用者については、訪日外国人利用者数も多く、日本人のみを調査対象とした場合に、その全体を把握することはできない。そのため、訪日外国人についても、その利用実態を把握するための調査を実施した。

(2)定期券発売実績調査

大都市交通センサスは、従来から通勤・通学の流動把握を目的の一つとして調査を実施しており、定期券発売実績を調査することで把握してきたが、平成 27 年調査では調査対象を空港アクセスバスに変更することにした。

空港アクセスバスのうち定期券を発行しているのはごく一部であり、通勤・通学者による利用は限定的であると考えられるため、平成 27 年調査では定期券発売実績調査を廃止した。

(3)バス OD 調査・バス輸送サービス実態調査

バス利用者調査の調査対象の変更に伴い、調査対象路線を空港アクセスバスや基幹的なバスの路線に変更した。

2-3 乗換施設実態調査の変更点

平成 22 年調査では、鉄道の端末交通手段としてのバス利用状況を把握するため、鉄道とバスの乗換施設の調査（鉄道・バスターミナル間乗換え調査）を実施していたが、平成 27 年調査におけるバス調査は鉄道端末バス利用を対象としないことから、鉄道・バスターミナル間乗換え調査は実施しないこととした。

さらに、鉄道路線間の調査対象乗換えパターンについては、平成 22 年調査から乗換え所要時間や施設内容が変わらないと考えられるパターンを調査対象外とした。

2-4 調査票の変更点

(1) 鉄道利用者調査票

1) 鉄道利用状況に関する質問項目の追加

平成 22 年調査では、1 回目および 2 回目の鉄道利用状況に加え、帰宅時の鉄道利用状況について調査しており、帰宅を除く 3 回目以降の鉄道利用トリップは把握していなかった。

平成 27 年調査では、従来の定期券発売実績を母集団とした鉄道定期券利用トリップの拡大データの作成に加えて、鉄道 OD 調査の結果を基にした実利用ベースの拡大データの作成することで、通日の鉄道利用実態の把握を検討している。この場合、鉄道利用者調査で把握していないトリップがあると、正確な拡大が実施できない。

そこで、通日の鉄道利用実態を把握するために、1～3 回目および帰宅時の鉄道利用状況を回答するように質問項目を変更した。

2) 出勤・登校日に関する質問項目の追加

近年、非正規雇用労働者や働く高齢者等の定期券を保有しない通勤者が増加していると考えられることから、より精緻な大都市圏の交通利用実態の把握を行うためには、出勤日数の把握が必要である。

そこで、通学状況も含め、新たに「先週出勤・登校した曜日」に係る質問項目を追加した。

(4) ※通勤・通学されている方のみご記入下さい。

先週、お勤め先(学校)に出勤(登校)されたすべての曜日をお答え下さい。

月曜日 火曜日 水曜日 木曜日 金曜日 土曜日 日曜日

3) 定期券保有状況に関する質問項目の変更

路面電車等を対象とする調査が鉄道利用者調査に加わったことや、高齢化社会の進展に伴い、今後の増加が想定される高齢者の公共交通利用者の数や利用特性を的確に把握するため、定期券の保有状況に関する質問について、敬老パス（シルバーパス等）の保有状況を把握できるように変更した。

【平成 22 年調査】

(1) 鉄道の定期券をお持ちですか。		
<input type="checkbox"/> 1枚持っている	<input type="checkbox"/> 2枚以上持っている	<input type="checkbox"/> 持っていない

【平成 27 年調査】

(1) 鉄道の定期券または敬老パスをお持ちですか。			
<input type="checkbox"/> 鉄道定期券を1枚持っている	<input type="checkbox"/> 鉄道定期券を2枚以上持っている		
<input type="checkbox"/> 敬老パス*1を持っている	<input type="checkbox"/> 持っていない		

4) 定期券種類に関する質問項目の変更

定期券種類に関する質問について、ICカード定期券保有者の性別・年齢階層別割合を用いた属性補正を行うため、ICカード定期券かICカード以外の定期券かを把握するための質問に変更した。

【平成 22 年調査】

(2) お持ちの鉄道定期券の種類をお答え下さい。	
<input type="checkbox"/> 通勤定期券	<input type="checkbox"/> 通学定期券

【平成 27 年調査】

(2) お持ちの鉄道定期券の種類をお答え下さい。			
<input type="checkbox"/> 通勤定期券 (ICカード)	<input type="checkbox"/> 通勤定期券 (ICカード以外)		
<input type="checkbox"/> 通学定期券 (ICカード)	<input type="checkbox"/> 通学定期券 (ICカード以外)		

5) 混雑具合に関する質問の削除

鉄道の混雑状況については、本調査の集計結果から得られる鉄道利用者数と鉄道輸送力より、混雑状況（鉄道利用者数／鉄道輸送力）の実態把握が可能であるため、利用者の主観的評価による「混雑具合」に関する質問を削除した。

【平成 22 年調査】

列車種別				利用券種		混雑具合		
各駅停車のみ	快速・急行等	有料列車 *2	新幹線	定期券 (IC定期含む)	その他 *3	非常に混んでいた	混んでいた	混んでいない
<input type="checkbox"/>								
<input type="checkbox"/>								
<input type="checkbox"/>								
<input type="checkbox"/>								
<input type="checkbox"/>								

6) 帰宅時の鉄道利用状況に関する質問の変更

平成 27 年調査では、通勤・通学時のみならず、帰宅時間帯の混雑緩和等の施策検討のため、新しく帰宅時の「出発地区分」を追加した。

なお、「乗車時刻」については、「利用区間」および「降車時刻」から推計が可能であるため、削除した。

【平成 22 年調査】

6 本日の帰宅時の鉄道利用状況についてお尋ねします。(2回目までの鉄道利用で帰宅された方、鉄道を利用せずに帰宅された方は、この質問の回答は不要です。)

帰宅時に最初に乗車された駅と乗車時刻、最後に降車された駅と降車時刻をお答え下さい。

乗車駅名 線 駅 → 降車駅名 線 駅

乗車時刻 時 分 乗車 降車時刻 時 分 降車

【平成 27 年調査】

7 本日の帰宅時の鉄道利用状況についてお尋ねします。(3回目までの鉄道利用で帰宅された方、鉄道を利用せずに帰宅された方は、この質問の回答は不要です。)

(1) 帰宅時の出発地をお答え下さい。 3回目の目的地と同じ 勤務・通学先発 業務先発 その他発

(2) 帰宅時に最初に乗車された駅、最後に降車された駅と降車時刻をお答え下さい。

乗車駅名 線 駅 → 降車駅名 線 駅

降車時刻 時 分 降車

(2)バス利用者調査票(空港アクセスバス調査)

平成 22 年調査の主要な鉄道駅のバスターミナルに乗り入れるバスの利用実態から、空港アクセスバスの利用実態を把握するための調査項目に変更した。

1)「出発地」もしくは「目的地」の質問方法の変更

平成 22 年調査では、調査対象圏域内のバス利用を対象としていたため、出発地・目的地の双方の住所を詳細に把握する必要があった。平成 27 年調査では、調査対象圏域内から調査対象圏域外といった広域的な移動が対象となることから、出発地および目的地が調査対象圏域内か否かの把握が必要である。このため、調査対象圏域外（首都圏の場合は 1 都 6 県および国外、下記参照）の回答も求めることとした。

一方で、調査対象圏域外の詳細な住所は把握不要であるため、回答者負担の軽減の観点から市区町村町丁目の回答は不要とした。

【平成 22 年調査】

■調査票をお受け取りになったときの移動における、出発地と目的地の住所をご記入ください。なお、丁目まで分からない方は、分かるところまでで結構です。

【出発地】

市町 区村	町 区	町	丁目
----------	--------	---	----

【目的地】

市町 区村	町 区	町	丁目
----------	--------	---	----

【平成 27 年調査(首都圏の例)】

■今回の移動における、出発地と目的地の住所をご記入ください。(海外の場合は□にチェックを入れてください。)
なお、丁目まで分からない方は、分かるところまでで結構です。

【出発地(東京、神奈川、埼玉、千葉、茨城、栃木、群馬、山梨以外は道府県のみ記入)】

都道 府県	市町 区村	町 区	町	丁目	海外 <input type="checkbox"/>
----------	----------	--------	---	----	--------------------------------

【目的地(東京、神奈川、埼玉、千葉、茨城、栃木、群馬、山梨以外は道府県のみ記入)】

都道 府県	市町 区村	町 区	町	丁目	海外 <input type="checkbox"/>
----------	----------	--------	---	----	--------------------------------

2)「移動の目的」の選択肢の変更

平成 27 年調査では、空港アクセスバスの利用者を対象とするため、利用者の目的は、通勤・通学ではなく、観光や業務（出張）が多いと考えられることから、「移動の目的」の選択肢を変更した。

【平成 22 年調査】

問1. バス・路面電車で移動された目的をお答えください。

- | | | | |
|-------|----------|-------|--------|
| 1. 通勤 | 2. 通学 | 3. 業務 | 4. 買い物 |
| 5. 通院 | 6. その他私事 | 7. 帰宅 | |

【平成 27 年調査】

問1. 今回の移動目的をお答えください。(答1に記入)

- | | | |
|----------------|----------|--------|
| 1. 業務(出張等) | 2. 業務の帰り | |
| 3. 観光(行楽・レジャー) | 4. 観光の帰り | |
| 5. 私用(観光以外) | 6. 私用の帰り | |
| 7. 通勤 | 8. 随行・送迎 | 9. その他 |

3)「利用した航空機の便名」の追加

航空機の便名より、航空機の出発・到着時刻や航空会社を把握するため、新たに「利用した航空機の便名」を追加した。これにより、バスの空港到着から航空機出発までの余裕時間および航空機の到着からバス乗車までの所要時間を把握する。さらには、近年利用者が増加している LCC 利用者について、LCC 以外の航空会社の航空機利用者とのバス利用実態の差異を把握する。

【平成 27 年調査】

**問2. ご利用された(ご利用予定の)航空機の便名をお答えください。
(答2に記入) 回答例: JL999、日本航空999**

4)「出発地の出発時刻(目的地の到着時刻)」の追加

バス利用者の出発地から空港（空港から目的地）までの所要時間とともに、バス停留所まで（から）の端末交通手段の所要時間を把握するため、新たに「出発地の出発時刻（目的地の到着時刻）」を追加した。

【平成 27 年調査】

問3. 今回の移動における、出発地の出発時刻または目的地の到着時刻をお答えください。(答3に記入)

【空港に向かうバスに乗車された方】

出発地の出発時刻をお答えください。

【空港からバスに乗車された方】

目的地の到着時刻をお答えください。

5)「バス利用時の券種」の選択肢の変更

空港アクセスバス利用時において、主に利用が見込まれる券種に対応するため、「バス利用時の券種」の選択肢を変更した。

【平成 22 年調査】

問3. バス・路面電車を利用されたときの券種をお答えください。

1. 定期券（IC定期券を含む） 2. ICカード※1
3. 回数券 4. 現金 5. 敬老バス 6. その他（1日乗車券等）※2
※1 P A S M O、S u i c a など ※2 福祉乗車証を含む

【平成 27 年調査】

問4. バス利用時の券種をお答えください。(答4に記入)

1. 乗車券(券売機等で購入) 2. 往復乗車券 3. 回数券
4. ICカード 5. 現金 6. その他

6)「バス会社名」の削除

空港アクセスバス系統については、共同運行路線が多く、利用者がバス会社を認識していない可能性が高いため、「バス会社名」の調査項目を削除した。

【平成 22 年調査】

問2. バス・路面電車を利用された区間(乗降停留所名、利用されたバス会社名または愛称※)と乗車・降車時刻をお答えください。

※ハッピーバス、かわせみ号、町田市民バスまちっこ、みんななかまバス、ムーバス、くるりんバス、ハチ公バス、ちいばす、江戸バス、kバス 等

【平成 27 年調査】

問5. バス利用時の乗車・降車停留所名と乗車・降車時刻をお答えください。(答5に記入)

7)「バスを降車してから航空機の出発までの想定時間」の追加

空港アクセスバス利用者が、バスの遅延等を考慮して、どのくらいの余裕をもって出発地を出発しているかを把握するため、新たに「バスを降車してから航空機の出発までの想定時間」の調査項目を追加した。

【平成 27 年調査】

**問6. 空港に向かうバスに乗車された方にお尋ねします。
バスを降車してから航空機の出発までどのくらいの時間を想定されましたか。(答6に記入)
(空港からバスに乗車された方、航空機を利用されなかった方は問7へお進みください)**

8) バス端末交通手段の利用状況に係る調査項目の変更

平成 22 年調査では鉄道駅のバスターミナルを調査対象としており、端末交通手段の多くは鉄道であったため、「鉄道との乗り継ぎ」「バスの乗り継ぎ」を調査項目としていた。

空港アクセスバスの端末交通手段は、端末交通手段として鉄道以外のものも多く利用されると考えられることから、鉄道・バス以外も回答できるように「バスへ（から）の移動手段」の調査項目に変更した。

【平成 22 年調査】

<p>問4. 調査票を受けとられたターミナルにおいて、バス・路面電車を利用された際の、鉄道との乗り継ぎ及びバスの乗り継ぎの有無についてお答えください。</p> <p>【鉄道との乗り継ぎ】</p> <p>1. <u>鉄道との乗り継ぎをした</u> 2. 鉄道との乗り継ぎはしない</p> <p>↳ 乗り継ぎをした鉄道の路線名と駅名をお答えください</p> <p>【バスの乗り継ぎ】</p> <p>1. バスの乗り継ぎをした 2. バスの乗り継ぎはしない</p>
--

【平成 27 年調査】

<p>問7. バスへ(から)の移動手段について利用順にお答えください。また、「4.鉄道」を利用された方は、利用された駅名(乗換え駅を含む)をお答えください。(答7に記入)</p> <p>【空港に向かうバスに乗車された方】</p> <p>出発地からバスに乗車されるまでの移動手段を利用順に最大3つまでお答えください。</p> <p>【空港からバスに乗車された方】</p> <p>バスを降車した後から目的地までの移動手段を利用順に最大3つまでお答えください。</p> <table border="1"><tr><td>1. 徒歩</td><td>2. 自転車</td><td>3. バイク</td></tr><tr><td>4. <u>鉄道</u></td><td>5. 他の路線バス</td><td>6. 自家用車</td></tr><tr><td>7. 知人の送迎</td><td>8. タクシー</td><td>9. その他</td></tr></table>	1. 徒歩	2. 自転車	3. バイク	4. <u>鉄道</u>	5. 他の路線バス	6. 自家用車	7. 知人の送迎	8. タクシー	9. その他
1. 徒歩	2. 自転車	3. バイク							
4. <u>鉄道</u>	5. 他の路線バス	6. 自家用車							
7. 知人の送迎	8. タクシー	9. その他							

9)「バス以外に利用する交通手段」および「バスを利用した理由」の選択肢の変更

調査対象とする空港アクセスバスの代替交通手段に対応するため、また、「バスを利用した理由」の選択肢の変更については、空港アクセスバスの利用実態に対応するため、「バス以外に利用する交通手段」および「バスを利用した理由」の選択肢を変更した。

【平成 22 年調査】

問5. 今回、バス・路面電車を利用された区間で、他の交通手段を利用されたことがありますか。利用されたことのある方は、いちばん利用頻度の高い交通手段をお答えください。また、バス・路面電車を利用された理由についても併せてお答えください。

【バス・路面電車以外に利用する交通手段】

1. 徒歩 2. 自転車 3. バイク 4. 車（送迎を含む）
5. 鉄道 6. タクシー 7. バス・路面電車以外は利用しない

└─▶ 問7にお進みください

【バス・路面電車を利用した理由】（複数回答可）

1. （バス・路面電車の方が）費用が安い
2. （バス・路面電車の方が）時間が早い・正確
3. （バス・路面電車の方が）運行本数が多い
4. （バス・路面電車の方が）乗降が楽
5. 停留所が自宅や目的地に近い
6. 座って行ける
7. 目的地に駐車場が無い
8. 雨が降っていた
9. 車を保有していない
10. その他

【平成 27 年調査】

問8. 今回利用された空港へ（から）の移動手段について、バス以外でいちばん利用頻度の高い交通手段をお答えください。また、今回バスを利用した理由をお答えください。（答8に記入）

【バス以外に利用する交通手段】

1. 鉄道 2. 車（送迎含む） 3. タクシー 4. その他
5. バス以外は利用しない

【バスを利用した理由】（複数回答可）

1. 費用が安い 2. 所要時間が短い 3. 乗換が無い
4. 運行本数が多い 5. 荷物が多い
6. 座って行ける 7. 停留所が自宅や目的地に近い
8. 車を持っていない 9. その他

10)「他の交通手段との利用割合」の削除

平成 22 年調査では、日常的な利用の多いバス系統を調査対象としていたが、平成 27 年調査では空港アクセスバスを調査対象としている。空港アクセスバスは、非日常的な利用が多く、利用頻度が少ないため、他の交通手段との利用割合を把握することは難しいと考えられ、調査項目を削除した。

【平成 22 年調査】

問6. バス・路面電車と問5で選んだ他の交通手段との利用割合について、お答えください。

1. バス・路面電車を利用する方が多い
2. 同じくらい
3. バス・路面電車を利用する方が少ない

11)「バスの利用頻度」の削除

上項と同様の理由から利用頻度に関する調査項目を削除した。

【平成 22 年調査】

問7. バス・路面電車を利用される頻度をお答えください。

1. 週5日以上
2. 週に2~4日程度
3. 週に1日程度
4. 月に2~3日程度
5. 月に1日以下

12)「要望するバスサービス向上策」の選択肢の変更

空港アクセスのバス系統に関する利用実態に対応するため選択肢を変更した。
また、回答者の回答負担軽減の観点から最大の回答数を減らした。

【平成 22 年調査】

**問8. 実施されれば、今よりも バス・路面電車を利用しやすくなると
思われるサービス向上策について、優先度の高いものから4つ
までを選んでお答えください。**

(運行サービスに関する項目)

1. 時刻どおりに運行する
2. 運行本数を増やす
3. 運行時間帯を拡大する (始発時刻の繰り上げ、終バス時刻の繰り下げ)
4. 運行情報 (位置、出発までの時間、到着までの時間等) を色々なメディアで提供する

(快適性に関する項目)

5. 車内混雑を緩和する
6. 乗務員のマナーを良くする
7. ノンステップバス等を増やす

(利便性に関する項目)

8. 鉄道との乗り継ぎ割引を行う
9. 鉄道との乗り継ぎを便利にする
10. 停留所に屋根やベンチを設置する

その他にもご要望がありましたら、「具体的に」の欄にご記入ください。

【平成 27 年調査】

**問9. 実施されれば、今よりも空港へ(から)のバスが利用しやすくなる
と思われるものについて、優先度の高いものから3つまでお答え
ください。(答9に記入)**

1. 時刻どおりに運行する
 2. 運行本数を増やす
 3. 運行時間帯を拡大する (始発時刻の繰り上げ、終バス時刻の繰り下げ)
 4. 航空機の発着時刻に合わせて運行する
 5. 空港バスの運行情報 (バス停位置、出発時刻、目的地までの所要時間) を色々なメディアで提供する
 6. 運賃を安くする
 7. 割引券 (回数券、往復割引券等) を充実させる
 8. ICカードで支払いができるようにする
 9. 予約のわずらわしさをなくす
 10. 空港へ (から) のバスと鉄道との乗継ぎを便利にする
 11. 空港へ (から) のバスと路線バスとの乗継ぎを便利にする
 12. 車内で無料の公衆無線LAN (Wi-Fi) サービスを提供する
- その他にもご要望がありましたら、「その他」の欄にご記入ください。

(3)バス利用者調査票(基幹的なバス調査)

1)「バス利用区間(バス会社名)」の変更

平成 22 年調査では、コミュニティバスも調査対象としており、利用バス会社名の回答が難しいと考えられたため、愛称での回答も可としていた。平成 27 年調査では、コミュニティバスは調査対象外とするため、愛称での回答を省いた。

【平成 22 年調査】

問2. バス・路面電車を利用された区間(乗降停留所名、利用されたバス会社名または愛称※)と乗車・降車時刻をお答えください。

※地域巡回バス、はあとふるライナー、i-バス、千秋ふれあいバス、ニコニコふれあいバス、柳バス、加納めぐりバス、ききょうバス、多治見市自主運行バス、四日市市自主運行バス、K-バス、とよやまタウンバス

【平成 27 年調査】

問2. バスを利用された区間(乗車・降車停留所、バス会社名)と乗車・降車時刻をお答えください。(答2に記入)

2)「要望するバスサービス向上策」の変更

回答者の回答負担軽減の観点から最大の回答数を減らした。

【平成 22 年調査】

**問8. 実施されれば、今よりも バス・路面電車を利用しやすくなると
思われるサービス向上策について、優先度の高いものから4つ
までを選んでお答えください。**

(運行サービスに関する項目)

1. 時刻どおりに運行する
2. 運行本数を増やす
3. 運行時間帯を拡大する (始発時刻の繰り上げ、終バス時刻の繰り下げ)
4. 運行情報 (位置、出発までの時間、到着までの時間等) を色々なメディアで提供する

(快適性に関する項目)

5. 車内混雑を緩和する
6. 乗務員のマナーを良くする
7. ノンステップバス等を増やす

(利便性に関する項目)

8. 鉄道との乗り継ぎ割引を行う
9. 鉄道との乗り継ぎを便利にする
10. 停留所に屋根やベンチを設置する

その他にもご要望がありましたら、「具体的に」の欄にご記入ください。

【平成 27 年調査】

**問8. 実施されれば、今よりもバスを利用しやすくなると思われるもの
について、優先度の高いものから3つまでを選んでお答えください。(答8に記入)**

《運行サービスに関する項目》

1. 時刻どおりに運行する
2. 運行本数を増やす
3. 運行時間帯を拡大する (始発時刻の繰り上げ、終バス時刻の繰り下げ)
4. 運行情報 (位置、出発までの時間、到着までの時間等) を色々なメディアで提供する

《快適性に関する項目》

5. 車内混雑を緩和する
6. 乗務員のマナーを良くする
7. ノンステップバス等を増やす

《利便性に関する項目》

8. 鉄道との乗り継ぎ割引を行う
9. 鉄道との乗り継ぎを便利にする
10. 停留所に屋根やベンチを設置する

その他にもご要望がありましたら、「その他」の欄にご記入ください。

3. 実態調査の総括

各調査の実施状況を整理する。

3-1 鉄道利用者調査

3-1-1 調査概要

鉄道利用者調査の調査実施日、実施事業者を以下に示す。

表 鉄道利用者調査の実施日および実施事業者

圏域	調査実施日	実施事業者
首都圏	11月17日(火)	東京都交通局、横浜市交通局、東京地下鉄、京浜急行電鉄、小田急電鉄、京王電鉄、東京急行電鉄、西武鉄道、東武鉄道、京成電鉄、山万、新京成電鉄、相模鉄道、北総鉄道、多摩都市モノレール、東葉高速鉄道、埼玉高速鉄道(計17社局)
	11月18日(水)	東日本旅客鉄道①(東京支社の一部、八王子支社、大宮支社、高崎支社)、秩父鉄道、関東鉄道、流鉄、首都圏新都市鉄道(計5社)
	11月19日(木)	東日本旅客鉄道②(東京支社の一部、横浜支社、千葉支社)、千葉都市モノレール、江ノ島電鉄、ゆりかもめ、東京臨海高速鉄道、東京モノレール、湘南モノレール、埼玉新都市交通(計8社)
中京圏	11月17日(火)	東海旅客鉄道、名古屋市交通局、近畿日本鉄道、三岐鉄道、豊橋鉄道、愛知環状鉄道、東海交通事業、愛知高速交通、養老鉄道、名古屋ガイドウェイバス(計10社局)
	11月19日(木)	名古屋鉄道(計1社)
	11月26日(木)	名古屋臨海高速鉄道(計1社)
近畿圏	10月27日(火)	京福電気鉄道、叡山電鉄(計2社)
	11月17日(火)	西日本旅客鉄道、近畿日本鉄道、阪神電気鉄道、阪急電鉄、京阪電気鉄道、山陽電気鉄道、神戸電鉄、能勢電鉄、京都市交通局、神戸市交通局、神戸新交通、北神急行電鉄、大阪高速鉄道(計13社局)
	11月18日(水)	南海電気鉄道、大阪市交通局、北大阪急行電鉄、水間鉄道、泉北高速鉄道、阪堺電気軌道(計6社局)

3-1-2 調査票配布・回収状況

(1) 調査票配布状況

首都圏では約 117 万票、中京圏で約 13 万票、近畿圏で約 67 万票、3 圏合計で約 198 万票を配布し、目標配布数に対して配布率は 84.6%であった。

平成 22 年調査に比べ、実配布数は 6 万票の減少、配布率は 6.4 ポイントの減少となった。

表 圏域別調査票配布結果(平成 27 年調査)

圏域	目標配布数(票)	実配布数(票)	配布率
首都圏	1,417,140	1,171,824	82.7%
中京圏	167,625	133,660	79.7%
近畿圏	751,612	669,985	89.1%
3圏計	2,336,377	1,975,469	84.6%

出典) 鉄道事業者への調査実施後のアンケート結果より作成。

表 【参考】圏域別調査票配布結果(平成 22 年調査)

圏域	目標配布数(票)	実配布数(票)	配布率 ^{注)}
首都圏	1,401,550	1,249,572	89.6%
中京圏	165,250	146,605	90.6%
近畿圏	740,268	642,264	93.9%
3圏計	2,307,068	2,038,441	91.0%

出典) 鉄道事業者への調査実施後のアンケート結果より作成。

注) 実配布数不明の事業者を除いて算出した値。

表 事業者別調査票配布結果(首都圏)

事業者名	平成27年調査		【参考】平成22年調査	
	目標配布数	実配布数	目標配布数	実配布数
東日本旅客鉄道	542,220	469,190	578,000	545,212
東京都交通局	71,300	66,766	66,300	44,238
横浜市交通局	20,580	20,190	16,600	16,260
東京地下鉄	204,700	153,881	195,700	158,086
京浜急行電鉄	48,300	44,883	42,900	41,833
小田急電鉄	72,900	69,419	70,300	69,945
京王電鉄	70,000	64,316	69,200	64,100
東京急行電鉄	101,800	86,057	100,300	84,288
西武鉄道	59,600	34,252	63,600	49,026
東武鉄道	98,000	54,111	98,000	86,954
京成電鉄	28,500	25,313	22,300	21,922
山万	100	100	100	102
新京成電鉄	11,300	8,804	8,350	8,563
秩父鉄道	840	840	1,000	1,025
相模鉄道	28,000	27,878	26,900	25,981
関東鉄道	2,400	1,458	2,600	—
流鉄	300	55	600	78
北総鉄道	5,100	5,100	5,000	5,500
千葉都市モノレール	1,800	1,800	1,200	1,200
江ノ島電鉄	1,500	1,370	1,100	1,100
多摩都市モノレール	7,300	3,910	4,500	3,411
ゆりかもめ	2,600	2,600	1,700	1,569
東京臨海高速鉄道	6,800	5,495	5,200	4,342
東葉高速鉄道	6,300	4,715	5,300	5,113
埼玉高速鉄道	3,000	2,996	1,800	2,000
首都圏新都市鉄道	12,200	12,200	5,800	5,724
東京モノレール	7,100	1,956	3,500	2,000
湘南モノレール	1,100	669	1,100	—
埼玉新都市交通	1,500	1,500	2,600	—
首都圏計	1,417,140	1,171,824	1,401,550	1,249,572

注) 平成 22 年調査の実配布数欄における「—」は実配布数が不明の事業者。

表 事業者別調査票配布結果(中京圏)

事業者名	平成27年調査		【参考】平成22年調査	
	目標配布数	実配布数	目標配布数	実配布数
東海旅客鉄道	37,300	37,300	35,950	36,001
名古屋市交通局	55,400	32,234	55,600	47,300
名古屋鉄道	53,000	43,779	54,100	47,720
近畿日本鉄道	13,000	12,442	13,250	12,792
三岐鉄道	325	320	150	—
豊橋鉄道	1,200	869	1,000	—
愛知環状鉄道	2,800	2,749	2,200	2,092
東海交通事業	100	100	100	100
名古屋臨海高速鉄道	1,100	1,100	950	—
愛知高速交通	1,900	1,267	1,350	—
養老鉄道	800	800	600	600
名古屋ガイドウェイバス ^{注1)}	700	700	—	—
中京圏計	167,625	133,660	165,250	146,605

注 1) 平成 22 年調査は対象外。

注 2) 平成 22 年調査の実配布数欄における「—」は実配布数が不明の事業者。

表 事業者別調査票配布結果(近畿圏)

事業者名	平成27年調査		【参考】平成22年調査	
	目標配布数	実配布数	目標配布数	実配布数
西日本旅客鉄道	241,600	240,614	215,650	220,000
近畿日本鉄道	84,000	59,665	91,050	77,481
南海電気鉄道	42,614	38,345	40,950	37,534
阪神電気鉄道 ^{注1)}	30,100	27,631	31,200	—
阪急電鉄	84,852	83,909	85,268	83,419
京阪電気鉄道	46,550	46,550	49,300	49,300
北大阪急行電鉄	10,646	8,210	10,600	—
大阪市交通局	121,450	86,835	137,050	113,361
山陽電気鉄道	9,600	8,845	9,900	9,146
神戸電鉄	7,950	7,006	9,100	—
能勢電鉄	4,150	4,100	2,550	2,562
水間鉄道	1,300	714	500	—
京福電気鉄道	750	750	800	—
泉北高速鉄道	9,750	7,796	10,400	10,120
京都市交通局	20,600	20,445	19,650	19,343
神戸市交通局	17,300	14,028	16,650	15,748
阪堺電気軌道 ^{注2)}	2,300	2,300	0	0
神戸新交通	6,400	3,477	4,450	3,150
叡山電鉄	3,550	3,550	1,050	—
北神急行電鉄	1,200	1,200	1,050	1,100
大阪高速鉄道	4,950	4,015	3,100	—
近畿圏計	751,612	669,985	740,268	642,264

注 1) 神戸高速鉄道含む。

注 2) 平成 22 年調査は対象外。

注 3) 平成 22 年調査の実配布数欄における「—」は実配布数が不明の事業者。

(2)調査票回収状況

1)日本人調査

事業者回収分とインターネット回答分を合わせた調査票回収数は、首都圏で20.2万票、中京圏で2.5万票、近畿圏で9.2万票、3圏合計で31.9万票であった。

インターネット回答率は、3圏合計で26.5%となった。圏域別にみると、中京圏が30.7%と最も高く、次いで首都圏(27.8%)、近畿圏(22.6%)の順となっている。

表 調査票回収結果(平成27年調査)

圏域	回収数(票) 注1)			回収率注2)
	事業者回収	インターネット回答	合計	
首都圏	145,791 (72.2%)	56,186 (27.8%)	201,977 (100.0%)	17.2%
中京圏	17,121 (69.3%)	7,597 (30.7%)	24,718 (100.0%)	18.5%
近畿圏	71,236 (77.4%)	20,791 (22.6%)	92,027 (100.0%)	13.7%
3圏計	234,148 (73.5%)	84,574 (26.5%)	318,722 (100.0%)	16.1%

注1) 無効票を含むデータ確定前の値。

カッコ内の数値は、総回収数に対する事業者回収数またはインターネット回答数の割合。

事業者回収数は、事業者による報告値。

注2) 回収数を実配布数で除した値。

表【参考】調査票回収結果(平成22年調査)

圏域	回収数(票) 注1)			回収率注2) 注3)
	事業者回収	インターネット回答	合計	
首都圏	187,058 (87.8%)	25,913 (12.2%)	212,971 (100.0%)	17.0%
中京圏	24,382 (88.2%)	3,260 (11.8%)	27,642 (100.0%)	18.5%
近畿圏	88,938 (91.6%)	8,121 (8.4%)	97,059 (100.0%)	13.9%
3圏計	300,378 (89.0%)	37,294 (11.0%)	337,672 (100.0%)	16.1%

注1) 無効票を含むデータ確定前の値。

カッコ内の数値は、総回収数に対する事業者回収数またはインターネット回答数の割合。

事業者回収数は、事業者による報告値。

注2) 回収数を実配布数で除した値。

注3) 実配布数不明の事業者を除いて算出した値。

調査票回収数およびインターネット回答率を平成 22 年調査と比較すると、調査票回収数については首都圏で約 1.1 万票の減少（5%減）、中京圏で約 0.3 万票の減少（11%減）、近畿圏で 0.5 万票減少（5%減）しており、3 圏合計で約 1.9 万票の減少（6%減）となった。

回収方法別の調査票回収数（3 圏合計）は、事業者回収は 6.6 万票の減少、インターネット回答は 3 圏合計で 4.7 万票増加した。

インターネット回答率は、首都圏で 12.2%→27.8%と約 16 ポイント上昇、中京圏で 11.8%→30.7%と約 19 ポイントの上昇、近畿圏で 8.4%→22.6%と約 14 ポイント上昇しており、3 圏合計で 15.5 ポイント上昇した。

表 調査票回収数およびインターネット回答率の平成 22 年調査との比較

圏域	回収方法	回収数				インターネット回答率		
		H27	H22	H27-H22	H27/H22	H27	H22	H27-H22
首都圏	事業者回収	145,791	187,058	-41,267	0.78	27.8%	12.2%	15.7%
	インターネット回答	56,186	25,913	30,273	2.17			
	合計	201,977	212,971	-10,994	0.95			
中京圏	事業者回収	17,121	24,382	-7,261	0.70	30.7%	11.8%	18.9%
	インターネット回答	7,597	3,260	4,337	2.33			
	合計	24,718	27,642	-2,924	0.89			
近畿圏	事業者回収	71,236	88,938	-17,702	0.80	22.6%	8.4%	14.2%
	インターネット回答	20,791	8,121	12,670	2.56			
	合計	92,027	97,059	-5,032	0.95			
3圏計	事業者回収	234,148	300,378	-66,230	0.78	26.5%	11.0%	15.5%
	インターネット回答	84,574	37,294	47,280	2.27			
	合計	318,722	337,672	-18,950	0.94			

注) 無効票を含むデータ確定前の値。

事業者回収数は、事業者による報告値。

表 事業者別調査票回収結果(首都圏)

事業者名	平成27年調査				【参考】平成22年調査			
	調査票回収数			インターネット 回答率	調査票回収数			インターネット 回答率
	事業者回収	インターネット回答	合計		事業者回収	インターネット回答	合計	
東日本旅客鉄道	52,889	22,685	75,574	30.0%	77,507	11,571	89,078	13.0%
東京都交通局	9,260	2,856	12,116	23.6%	6,658	1,108	7,766	14.3%
横浜市交通局	2,960	897	3,857	23.3%	2,689	352	3,041	11.6%
東京地下鉄	18,441	7,201	25,642	28.1%	22,084	3,662	25,746	14.2%
京浜急行電鉄	6,312	2,358	8,670	27.2%	7,383	865	8,248	10.5%
小田急電鉄	9,061	3,349	12,410	27.0%	10,681	1,290	11,971	10.8%
京王電鉄	9,833	3,268	13,101	24.9%	11,672	1,586	13,258	12.0%
東京急行電鉄	10,081	4,067	14,148	28.7%	12,777	1,430	14,207	10.1%
西武鉄道	5,040	1,832	6,872	26.7%	7,657	873	8,530	10.2%
東武鉄道	6,917	1,899	8,816	21.5%	12,691	1,205	13,896	8.7%
京成電鉄	3,281	879	4,160	21.1%	3,278	291	3,569	8.2%
山万	16	8	24	33.3%	20	1	21	4.8%
新京成電鉄	1,272	331	1,603	20.6%	1,281	110	1,391	7.9%
秩父鉄道	127	26	153	17.0%	160	8	168	4.8%
相模鉄道	4,270	1,760	6,030	29.2%	4,588	647	5,235	12.4%
関東鉄道	95	50	145	34.5%	55	17	72	23.6%
流鉄	11	5	16	31.3%	13	2	15	13.3%
北総鉄道	703	292	995	29.3%	1,004	119	1,123	10.6%
千葉都市モノレール	352	89	441	20.2%	243	22	265	8.3%
江ノ島電鉄	183	52	235	22.1%	259	32	291	11.0%
多摩都市モノレール	654	219	873	25.1%	535	47	582	8.1%
ゆりかもめ	229	80	309	25.9%	254	41	295	13.9%
東京臨海高速鉄道	500	285	785	36.3%	485	159	644	24.7%
東葉高速鉄道	726	336	1,062	31.6%	1,042	132	1,174	11.2%
埼玉高速鉄道	385	176	561	31.4%	313	57	370	15.4%
首都圏新都市鉄道	1,590	909	2,499	36.4%	1,038	175	1,213	14.4%
東京モノレール	192	116	308	37.7%	146	44	190	23.2%
湘南モノレール	154	73	227	32.2%	260	43	303	14.2%
埼玉新都市交通	257	88	345	25.5%	285	24	309	7.8%
首都圏計	145,791	56,186	201,977	27.8%	187,058	25,913	212,971	12.2%

注) 無効票を含むデータ確定前の値。

事業者回収数は、事業者による報告値。

表 事業者別調査票回収結果(中京圏)

事業者名	平成27年調査				【参考】平成22年調査			
	調査票回収数			インターネット 回答率	調査票回収数			インターネット 回答率
	事業者回収	インターネット回答	合計		事業者回収	インターネット回答	合計	
東海旅客鉄道	5,355	1,925	7,280	26.4%	6,461	617	7,078	8.7%
名古屋市交通局	6,243	1,750	7,993	21.9%	7,240	787	8,027	9.8%
名古屋鉄道	3,223	3,114	6,337	49.1%	7,590	1,628	9,218	17.7%
近畿日本鉄道	1,278	419	1,697	24.7%	1,963	143	2,106	6.8%
三岐鉄道	27	8	35	22.9%	56	2	58	3.4%
豊橋鉄道	113	41	154	26.6%	22	17	39	43.6%
愛知環状鉄道	397	178	575	31.0%	609	37	646	5.7%
東海交通事業	16	10	26	38.5%	26	3	29	10.3%
名古屋臨海高速鉄道	187	31	218	14.2%	134	10	144	6.9%
愛知高速交通	119	79	198	39.9%	219	13	232	5.6%
養老鉄道	31	6	37	16.2%	62	3	65	4.6%
名古屋ガイドウェイバス	132	36	168	21.4%	—	—	—	—
中京圏計	17,121	7,597	24,718	30.7%	24,382	3,260	27,642	11.8%

注) 無効票を含むデータ確定前の値。事業者回収数は、事業者による報告値。

名古屋ガイドウェイバスは平成22年調査では調査対象以外。

表 事業者別調査票回収結果(近畿圏)

事業者名	平成27年調査				【参考】平成22年調査			
	調査票回収数			インターネット 回答率	調査票回収数			インターネット 回答率
	事業者回収	インターネット回答	合計		事業者回収	インターネット回答	合計	
西日本旅客鉄道	27,238	7,764	35,002	22.2%	28,196	2,805	31,001	9.0%
近畿日本鉄道	5,437	1,518	6,955	21.8%	9,914	839	10,753	7.8%
南海電気鉄道	4,318	1,390	5,708	24.4%	4,720	396	5,116	7.7%
阪神電気鉄道	2,735	806	3,541	22.8%	3,668	313	3,981	7.9%
阪急電鉄	9,398	2,809	12,207	23.0%	10,826	981	11,807	8.3%
京阪電気鉄道	4,961	1,374	6,335	21.7%	6,610	549	7,159	7.7%
北大阪急行電鉄	964	320	1,284	24.9%	1,530	140	1,670	8.4%
大阪市交通局	7,628	2,570	10,198	25.2%	13,037	1,358	14,395	9.4%
山陽電気鉄道	1,063	272	1,335	20.4%	1,293	94	1,387	6.8%
神戸電鉄	834	190	1,024	18.6%	1,229	65	1,294	5.0%
能勢電鉄	324	84	408	20.6%	419	25	444	5.6%
水間鉄道	52	15	67	22.4%	65	4	69	5.8%
京福電気鉄道	91	0	91	0.0%	109	0	109	—
泉北高速鉄道	879	270	1,149	23.5%	1,582	106	1,688	6.3%
京都市交通局	1,948	533	2,481	21.5%	2,146	184	2,330	7.9%
神戸市交通局	1,896	452	2,348	19.3%	2,567	179	2,746	6.5%
阪堺電気軌道	199	43	242	17.8%	—	—	—	—
神戸新交通	361	147	508	28.9%	416	37	453	8.2%
叡山電鉄	362	1	363	0.3%	146	0	146	—
北神急行電鉄	142	56	198	28.3%	143	12	155	7.7%
大阪高速鉄道	406	177	583	30.4%	322	34	356	9.6%
近畿圏計	71,236	20,791	92,027	22.6%	88,938	8,121	97,059	8.4%

注) 無効票を含むデータ確定前の値。事業者回収数は、事業者による報告値。

阪神電気鉄道には神戸高速線分を含む。

阪堺電気軌道は平成22年調査では調査対象外。

京福電気鉄道と叡山電鉄は、インターネット回答受付を行っていない。

2) 訪日外国人公共交通利用実態調査(鉄道調査)

圏域別・言語別、訪日外国人・在日外国人（日本に3ヶ月以上在住する外国人）別の調査票回収数を以下に示す。

調査票回収数（在日外国人の回答を含む）は、首都圏で290票、中京圏で17票、近畿圏で68票、3圏合計で375票であった。

また、その中で訪日外国人の調査票回収数は、首都圏で14票、近畿圏で8票、3圏合計で22票であった。

表 調査票回収結果(訪日外国人公共交通利用実態調査(鉄道調査))

圏域	回収数（票） ^{注1)}				
	英語	中国語 (簡体字)	中国語 (繁体字)	韓国語	合計
首都圏	198	45	35	12	290
中京圏	12	3	0	2	17
近畿圏	46	11	9	2	68
3圏計	256	59	44	16	375

注1) 無効票を含むデータ確定前の値。

注2) 日本に3ヶ月以上在住する外国人の回答を含む。

表 回収数における訪日外国人と在日外国人の内訳

圏域	回収数（票） ^{注)}			訪日外国人 比率
	訪日外国人	在日外国人	合計	
首都圏	14	276	290	4.8%
中京圏	0	17	17	0.0%
近畿圏	8	60	68	11.8%
3圏計	22	353	375	5.9%

注) 無効票を含むデータ確定前の値。

3-2 バス利用者調査

3-2-1 調査概要

バス利用者調査の調査対象空港・バスターミナルおよび調査実施日を以下に示す。

表 調査対象空港・実施日(空港アクセスバス調査)

調査対象空港		調査実施日
首都圏	成田空港	11月10日(火)、11月24日(火)
	羽田空港	11月12日(木)
中京圏	中部国際空港	11月10日(火)～11月12日(木)
近畿圏	関西空港	11月10日(火)
	大阪空港	11月12日(木)
	神戸空港	11月12日(木)

表 調査対象バスターミナル・実施日(中京圏、基幹的なバス調査)

調査対象バスターミナル		調査実施日
中京圏	名古屋	11月10日(火)、11月25日(水)
	栄	
	岐阜	11月10日(火)
	金山	
	藤が丘	

3-2-2 配布・回収状況

(1) 調査票配布状況

調査対象空港・ターミナル別の調査票配布結果を以下に示す。

表 空港別調査票配布結果(空港アクセスバス調査)

圏域	調査対象空港	目標配布数 (票)	実配布数 (票)	配布率
首都圏	成田空港	7,000	6,899	98.6%
	羽田空港	13,000	13,911	107.0%
	首都圏計	20,000	20,810	104.1%
中京圏	中部国際空港	1,000	1,145	114.5%
近畿圏	関西空港	4,940	3,151	63.8%
	大阪空港	3,340	3,210	96.1%
	神戸空港	150	4	2.7%
	近畿圏計	8,430	6,365	75.5%
3圏計		29,430	28,320	96.2%

注) 神戸空港については、バスの実利用者数と目標設定時に使用した利用者数の乖離により、配布率が小さくなっている。

表 ターミナル別調査票配布結果(中京圏、基幹的なバス調査)

調査対象ターミナル	目標配布数 (票)	実配布数 (票)	配布率
名古屋	3,620	3,769	104.1%
栄	2,570	2,791	108.6%
岐阜	510	800	156.9%
金山	800	800	100.0%
藤が丘	30	81	270.0%
合計	7,530	8,241	109.4%

(2)調査票回収状況

1)日本人調査

バス利用者調査票の回収数および回収率を以下に示す。

表 調査票回収結果(空港アクセスバス調査)

圏域	調査対象空港	回収数(票) ^{注1)}			回収率 ^{注2)}
		郵送回収	インターネット回答	合計	
首都圏	成田空港	445 (89.4%)	53 (10.6%)	498 (100.0%)	7.2%
	羽田空港	1,390 (87.7%)	195 (12.3%)	1,585 (100.0%)	11.4%
	首都圏計	1,835 (88.1%)	248 (11.9%)	2,083 (100.0%)	10.0%
中京圏	中部国際空港	103 (84.4%)	19 (15.6%)	122 (100.0%)	10.7%
近畿圏	関西空港	241 (90.3%)	26 (9.7%)	267 (100.0%)	8.5%
	大阪空港	486 (86.2%)	78 (13.8%)	564 (100.0%)	17.6%
	神戸空港	2 (100.0%)	0 (0.0%)	2 (100.0%)	50.0%
	近畿圏計	729 (87.5%)	104 (12.5%)	833 (100.0%)	13.1%
3圏計		2,667 (87.8%)	371 (12.2%)	3,038 (100.0%)	10.7%

注 1) 無効票を含むデータ確定前の値。

注 2) 回収数を実配布数で除した値。

表 調査票回収結果(中京圏、基幹的なバス調査)

調査対象ターミナル	回収数(票) ^{注1)}	回収率 ^{注2)}
名古屋	810	21.5%
栄	747	26.8%
岐阜	150	18.8%
金山	172	21.5%
藤が丘	39	48.1%
合計	1,918	23.3%

注 1) 無効票を含むデータ確定前の値。

注 2) 回収数を実配布数で除した値。

2) 訪日外国人公共交通利用実態調査(空港アクセスバス調査)

圏域別・言語別、訪日外国人・在日外国人（日本に3ヶ月以上在住する外国人）別の調査票回収数を以下に示す。

調査票回収数（在日外国人の回答を含む）は、首都圏で20票、近畿圏で5票、合計で25票であった。

また、その中で訪日外国人の調査票回収数は、首都圏で15票、近畿圏で5票、3圏合計で20票であった。

表 調査票回収結果(訪日外国人公共交通利用実態調査(空港アクセスバス調査))

圏域	回収数（票） ^{注1)}				
	英語	中国語 (簡体字)	中国語 (繁体字)	韓国語	合計
首都圏	12	2	6	0	20
中京圏	0	0	0	0	0
近畿圏	1	0	4	0	5
3圏計	13	2	10	0	25

注1) 無効票を含むデータ確定前の値。

注2) 日本に3ヶ月以上在住する外国人の回答を含む。

表 回収数における訪日外国人と在日外国人の内訳

圏域	回収数（票） ^{注)}			訪日外国人 比率
	訪日外国人	在日外国人	合計	
首都圏	15	5	20	75.0%
中京圏	0	0	0	—
近畿圏	5	0	5	100.0%
3圏計	20	5	25	80.0%

注) 無効票を含むデータ確定前の値。

3-3 事業者による実態調査

交通事業者が主体となって実施した定期券発売実績調査および鉄道・バス OD 調査、輸送サービス実態調査の実施状況を以下に整理する。

定期券発売実績調査は、全鉄道事業者を対象に 80 事業者で実施した。

鉄道 OD 調査は、68 事業者で実施した。

バス OD 調査は、66 事業者で実施した。

鉄道輸送サービス実態調査は、38 事業者で実施した。

バス輸送サービス実態調査は、バス OD 調査と同様に 66 事業者で実施した。

表 事業者による実態調査の調査対象事業者数

調査	調査対象事業者数（社局）			
	首都圏	中京圏	近畿圏	3 圏計
定期券発売実績調査	37	17	26	80
鉄道 OD 調査	33	13	22	68
バス OD 調査	47	7	12	66
鉄道輸送サービス実態調査	17	8	13	38
バス輸送サービス実態調査	47	7	12	66

3-4 乗換施設実態調査

(1)調査対象駅および調査パターン数

乗換施設実態調査の調査対象駅数および調査パターン数を以下に示す。

3圏域の延べ251駅を対象に、ピーク時372パターン、オフピーク時448パターンを調査した。

なお、駅構内の工事により乗換え調査を中止した調査パターンは無かった。

表 乗換施設実態調査の調査対象駅数及びパターン数

圏域	調査駅数 ^{注)}	調査パターン数	
		ピーク時	オフピーク時
首都圏	177	270	346
中京圏	19	25	25
近畿圏	55	82	82
3圏計	251	372	448

注) 駅数は、事業者別に計上した値。

(2)調査実施日

乗換施設実態調査の調査実施日を以下に示す。

表 乗換施設実態調査の調査実施日

圏域	調査日 ^{注)}
首都圏	平成27年12月14日(月)～22日(火)
中京圏	平成27年12月14日(月)～18日(金)
近畿圏	平成27年12月14日(月)～18日(金)

注) 土日を除く。

3-5 調査協力事業者

(1) 首都圏

(順不同)

鉄道事業者名
東日本旅客鉄道株式会社
東海旅客鉄道株式会社
東京都交通局
横浜市交通局
東京地下鉄株式会社
京浜急行電鉄株式会社
小田急電鉄株式会社
京王電鉄株式会社
東京急行電鉄株式会社
西武鉄道株式会社
東武鉄道株式会社
京成電鉄株式会社
山万株式会社
芝山鉄道株式会社
新京成電鉄株式会社
秩父鉄道株式会社
相模鉄道株式会社
関東鉄道株式会社
流鉄株式会社
小湊鉄道株式会社
北総鉄道株式会社
千葉都市モノレール株式会社
いすみ鉄道株式会社
江ノ島電鉄株式会社
株式会社横浜シーサイドライン
多摩都市モノレール株式会社
株式会社ゆりかもめ
東京臨海高速鉄道株式会社
箱根登山鉄道株式会社
東葉高速鉄道株式会社
埼玉高速鉄道株式会社
横浜高速鉄道株式会社
首都圏新都市鉄道株式会社
伊豆箱根鉄道株式会社
東京モノレール株式会社
湘南モノレール株式会社
埼玉新都市交通株式会社
合計 37事業者

バス事業者名
東京空港交通株式会社
株式会社リムジン・パッセンジャーサービス
国際興業株式会社
東急バス株式会社
関東バス株式会社
西武バス株式会社
西武観光バス株式会社
京浜急行バス株式会社
羽田京急バス株式会社
東武バス株式会社
東武バスセントラル株式会社
東武バスイースト株式会社
東武バスウエスト株式会社
株式会社シティバス立川
西東京バス株式会社
小田急バス株式会社
小田急箱根高速バス株式会社
京王電鉄バス株式会社
京王バス東株式会社
京王バス南株式会社
京王バス中央株式会社
相鉄バス株式会社
江ノ島電鉄株式会社
川崎鶴見臨港バス株式会社
神奈川中央交通株式会社
成田空港交通株式会社
京成バス株式会社
京成バスシステム株式会社
ジェイアールバス関東株式会社
千葉交通株式会社
平和交通株式会社
あすか交通株式会社
関東自動車株式会社
東京ベイシティ交通株式会社
ちばシティバス株式会社
日東交通株式会社
小湊鐵道株式会社
東京バス株式会社
千葉中央バス株式会社
千葉内陸バス株式会社
川越観光自動車株式会社
イーグルバス株式会社
国際十王交通株式会社
関東鉄道株式会社
日本中央バス株式会社
京成トランジットバス株式会社
東野交通株式会社
合計 47事業者

(2)中京圏

(順不同)

鉄道事業者名
東海旅客鉄道株式会社
名古屋市交通局
名古屋鉄道株式会社
近畿日本鉄道株式会社
三岐鉄道株式会社
豊橋鉄道株式会社
樽見鉄道株式会社
長良川鉄道株式会社
愛知環状鉄道株式会社
伊勢鉄道株式会社
明知鉄道株式会社
株式会社東海交通事業
名古屋臨海高速鉄道株式会社
愛知高速交通株式会社
養老鉄道株式会社
四日市あすなろう鉄道株式会社
名古屋ガイドウェイバス株式会社
合計 17事業者

バス事業者名
名古屋市交通局
名鉄バス株式会社
名鉄バス中部株式会社
三重交通株式会社
岐阜乗合自動車株式会社
東濃鉄道株式会社
知多乗合株式会社
遠州鉄道株式会社
合計 8事業者

(3)近畿圏

(順不同)

鉄道事業者名
西日本旅客鉄道株式会社
東海旅客鉄道株式会社
近畿日本鉄道株式会社
南海電気鉄道株式会社
阪神電気鉄道株式会社
阪急電鉄株式会社
京阪電気鉄道株式会社
北大阪急行電鉄株式会社
大阪市交通局
山陽電気鉄道株式会社
神戸電鉄株式会社
能勢電鉄株式会社
水間鉄道株式会社
京福電気鉄道株式会社
近江鉄道株式会社
泉北高速鉄道株式会社
京都市交通局
神戸市交通局
阪堺電気軌道株式会社
神戸新交通株式会社
叡山電鉄株式会社
北神急行電鉄株式会社
大阪高速鉄道株式会社
和歌山電鐵株式会社
伊賀鉄道株式会社
信楽高原鐵道株式会社
合計 26事業者

バス事業者名
近鉄バス株式会社
南海バス株式会社
阪神バス株式会社
山陽バス株式会社
京阪バス株式会社
神姫バス株式会社
奈良交通株式会社
関西空港交通株式会社
大阪空港交通株式会社
大阪バス株式会社
和歌山バス株式会社
日本交通株式会社
合計 12事業者

4. 集計手順

4-1 各調査結果の集計手順

平成 27 年大都市交通センサスの各調査結果から各集計項目への集計手順は、以下のとおりである。

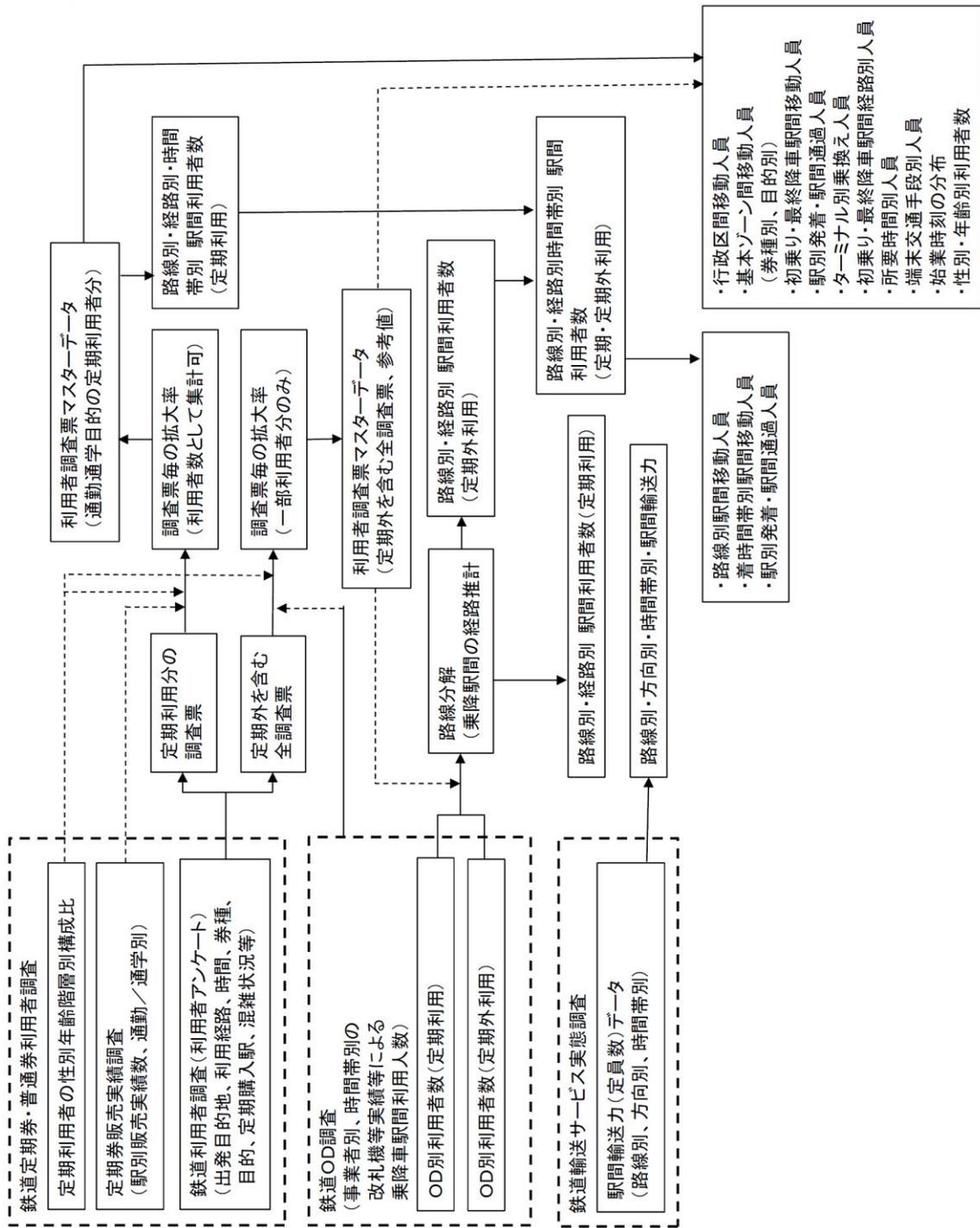


図 大都市交通センサスの集計フロー

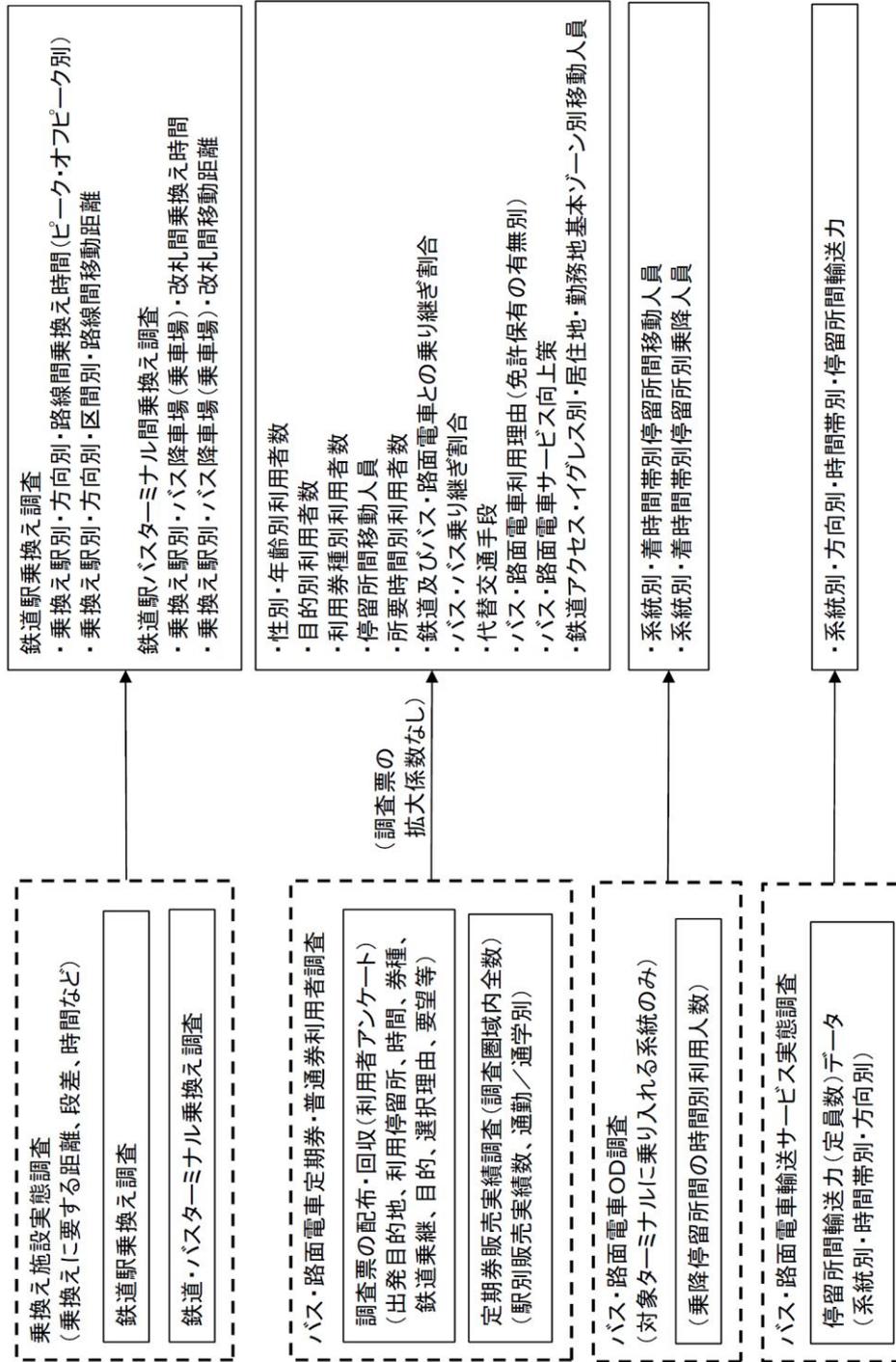
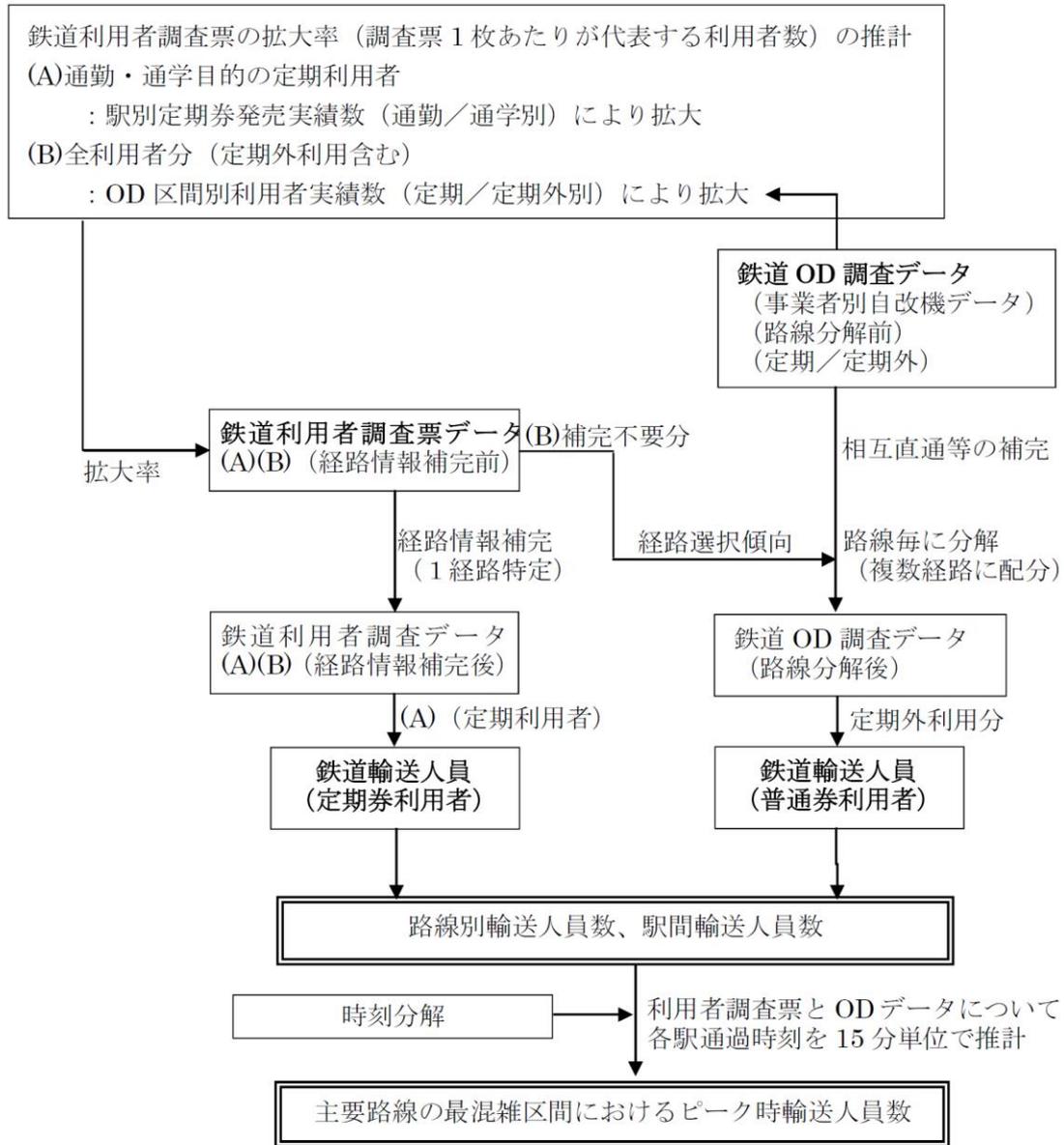


図 大都市交通センサスの集計フロー

4-2 鉄道輸送人員数の集計手順

鉄道輸送人員数の集計は、鉄道利用者調査、及び鉄道OD調査の結果を基とし、拡大や補正等の推計を経て集計している。鉄道輸送人員の集計手順の概要は、次のとおりである。



	対象期間	集計方法	備考
輸送人員 (定期券)	平成 27 年 11 月の調査日 (平日)	定期券利用者の鉄道利用者調査票より集計	調査票の拡大率は発券所別定期券発売枚数により設定。全定期券保有者が 1 日 2 回 (通勤通学時の往復) 利用すると仮定。
輸送人員 (普通券)	平成 27 年 11 月の調査日 (平日)	自動改札機データ等による事業者毎の鉄道 OD データより集計	事業者間の相互利用分等の一部欠落情報を推計補完したデータを含む。

5. 拡大方法

5-1 拡大に用いる母数について

過年度調査においては、①定期券発売実績を母集団とする拡大、②自動改札機データを母集団とする拡大が行われている。平成 27 年度調査においても、大都市交通センサスに対する交通事業者ニーズを踏まえるとともに、鉄道利用実態を継続的に把握するため、今回調査においても前回調査を踏襲し、二つの母集団による拡大を検討する。

① 定期券発売実績による拡大

過去の調査において継続的に行われている拡大方法で、定期券発売所別発売枚数を母集団とする拡大方法であり、鉄道利用のうち、定期券利用の通勤、通学目的トリップを拡大対象とする。前回調査から、定期券発売実績の個人属性（性・年齢階層）別データを入手し、個人属性による層別拡大を行っている。定期券利用者の鉄道利用実態の集計に活用し、路線別利用者数や断面輸送量の集計にも用いる。

首都圏では、平成 17 年調査では東日本旅客鉄道（以下、JR 東日本とする）から定期券券面区間別の定期券発売枚数情報の提供を受けたため、これを母集団として JR 東日本のサンプルの拡大を行っている。

一方、平成 22 年調査では、JR 東日本からは他事業者と同様、定期券発売所別の定期券発売枚数情報の提供を受けたため、定期券発売所単位の拡大を行っている。

平成 27 年調査では、平成 17 年調査と同様に、JR 東日本から定期券券面区間別の定期券発売枚数情報の提供を受けた。そのため、首都圏では、平成 17 年調査の拡大方法を踏襲し、定期券券面区間別の定期券発売枚数による拡大を行うこととしている。

表 定期券発売実績による拡大方法（首都圏）

	事業者	拡大母集団 (定期券発売枚数の 単位)	拡大方法
平成 17 年調査	JR 東日本	定期券面区間別	定期券面区間の乗車駅、降車駅を 集約した集約駅間単位で拡大
	その他	定期券発売所別	定期券発売所単位で拡大
平成 22 年調査	JR 東日本	定期券発売所別	定期券発売所単位で拡大
	その他		
平成 27 年調査	JR 東日本	定期券面区間別	定期券面区間の乗車駅、降車駅を 集約した集約駅間単位で拡大
	その他	定期券発売所別	定期券発売所単位で拡大

② 自動改札機データによる拡大

自動改札機データから集計された駅間ODを母集団とする拡大方法であり、全ての鉄道利用トリップを拡大対象とする。なお、自動改札機データによる拡大では、全調査票の拡大係数を合計しても全鉄道利用者数の総量にならないことから、前回調査においては参考値として用いられている。また、他資料（パーソントリップ調査）を用い、性・年齢階層の個人属性の補正を行っている。

表 鉄道利用者調査の拡大対象

拡大対象	定期券発売実績による拡大	自動改札機データによる拡大
利用券種	定期券	定期券、普通券
利用目的	通勤、通学	全目的（通勤、通学、業務、私事、帰宅）
路線	調査対象圏域内の全路線	自動改札機が導入されている路線
摘要	調査票につき1つの拡大係数を付与	鉄道利用トリップごとに拡大係数を付与（最大3つの拡大係数）
母集団データ	定期券発券所別発売枚数 （個人属性別）	駅間OD

5-2 定期券発売実績による拡大

本調査においては、基本的には前回平成17年調査と同様に、鉄道定期券利用者の調査票については、駅別の定期券発売実績数で拡大を行っている。

ここで、定期券発売実績数により拡大を行う定期券利用者の利用者調査票については、調査票1枚につき1つの拡大係数を設定することとし、これは前回調査での方法を踏襲するものである。

拡大係数の算定の手順は以下のとおりである。

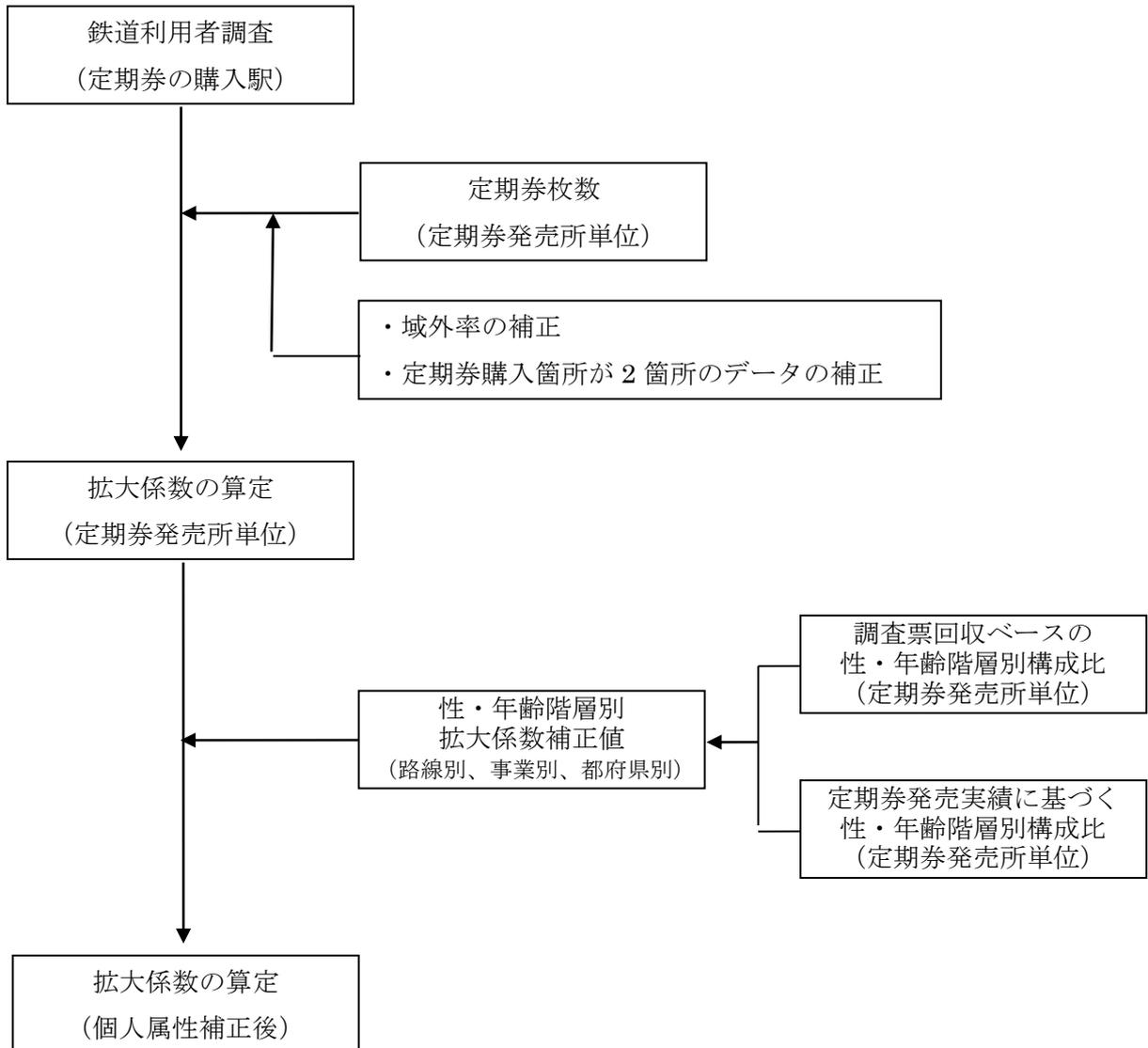


図 定期券発売実績に基づく拡大係数の算定の手順（概略フロー）

ア) 拡大率の考え方

a. 拡大率の算定

拡大率は、下式により定期券発売所単位（一部事業者は、定期券券面区間単位）に算定する。

$$\text{拡大率} = \frac{\text{母数}}{\text{調査票枚数（有効枚数）}}$$

母数 : 調査期間内に有効な定期券枚数（利用区間が調査圏域内でクローズ）

調査票枚数 : 調査票に記載された定期券購入個所をもとに、定期券発売所別に有効調査票枚数を計上する。調査票に2箇所の定期券購入個所が記載されているものについては、それぞれの定期券発売所の調査票枚数として計上する。

b. 母数の設定

母数は下式により求める。

$$\text{母数} = \text{有効定期券枚数} \times (1 - \text{域外率})$$

c. 有効定期券枚数

調査期間中に有効な定期券枚数を、1，3，6ヶ月定期券毎に求め、それらを足し上げる。

$$\begin{aligned} \text{有効定期券枚数} = & A \text{（6ヶ月定期券発売枚数）} + B \text{（3ヶ月定期券発売枚数）} \\ & + C \text{（1ヶ月定期券発売枚数）} \end{aligned}$$

d. 域外率

ある事業者（定期券発売所）で発売された定期券枚数のうち、その券面区間（乗車駅、降車駅）のうち片方または両方の駅が調査対象地域外である定期券の割合。ただし、過去に遡って、発売定期券の券面区間を調べることが不可能であるため、実際には、調査期間に発売された定期券（11月発売分）を対象に域外率を求め、これを用いている。

イ) 拡大率の付加

鉄道利用者調査で収集した鉄道利用データに対して、以下の手順で拡大率を付加した。

- ① 鉄道利用者調査のデータから、通勤、通学目的かつ定期券利用（一部区間の定期券利用を含む）となるデータを拡大対象データとして抽出する。
- ② ①で抽出したデータと定期券発売実績データから、定期券発売所単位で拡大率を算定する。
- ③ ①で抽出したデータのうち、定期券購入個所が 2 箇所のデータについて拡大率を、以下の式により付加する。

$$\text{拡大率 AB} = \min(\text{拡大率 A}, \text{拡大率 B})$$

拡大率 AB: 定期券発売所 A と定期券発売所 B で定期券を購入した鉄道利用データに付加する拡大率

拡大率 A : 定期券発売所 A の拡大率

拡大率 B : 定期券発売所 B の拡大率

Min(x, y) : x, y のうち小さい方の値

- ④ 定期券発売実績データから、③で拡大率が付加したデータを控除して、再度、定期券発売所単位の拡大率を算定する。
- ⑤ ①で抽出したデータのうち、定期券購入個所が 1 箇所のデータについて拡大率を付加する。
- ⑥ ③と⑤で拡大率を付加したデータを合わせて、定期券発売実績ベースで拡大を行った定期券マスターデータとする。

(注) 平成 17 年、22 年、27 年調査ともに定期券発売駅単位での拡大を行っているが、東日本旅客鉄道株式会社のみ平成 17 年、27 年調査においては券面区間別の発売枚数で拡大を行っているため、平成 22 年調査では路線間や駅間別の利用人員数に拡大率手法上による差異がある可能性があるため比較する際には留意が必要である。

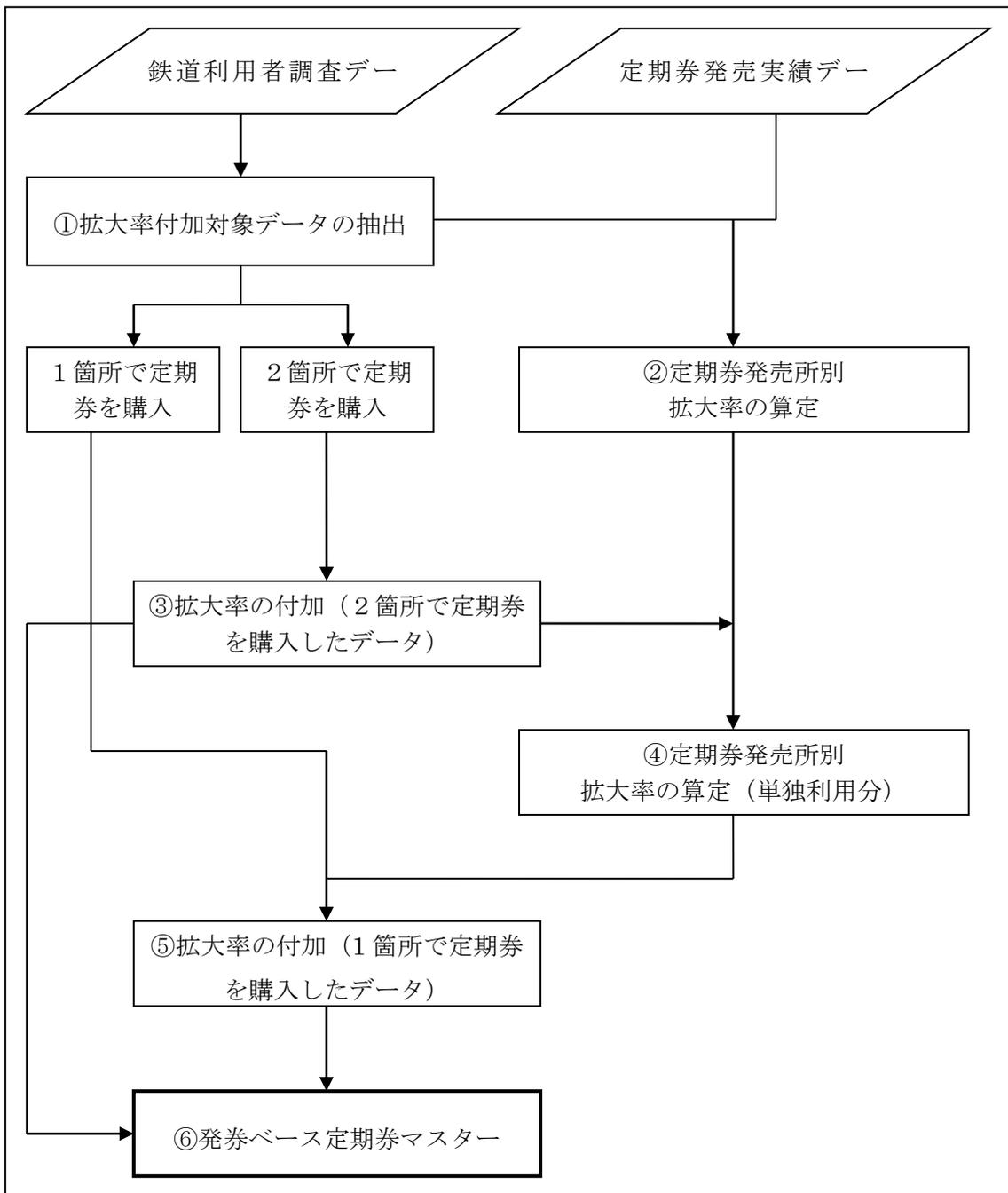


図 拡大率付加の手順

5-3 自動改札機データを用いた拡大

本調査においては、基本的には前回平成17年調査と同様に、普通券利用者を含めた利用者調査票については、自動改札機データ等（鉄道OD調査結果）で拡大を行っている。

ここで、自動改札機データ等により拡大を行う普通券利用者を含めた全利用者の調査票については、1トリップにつき1つの拡大係数（1調査票につき最大3トリップ記載）を設定するものである。

拡大係数の算定の手順は以下のとおりである。

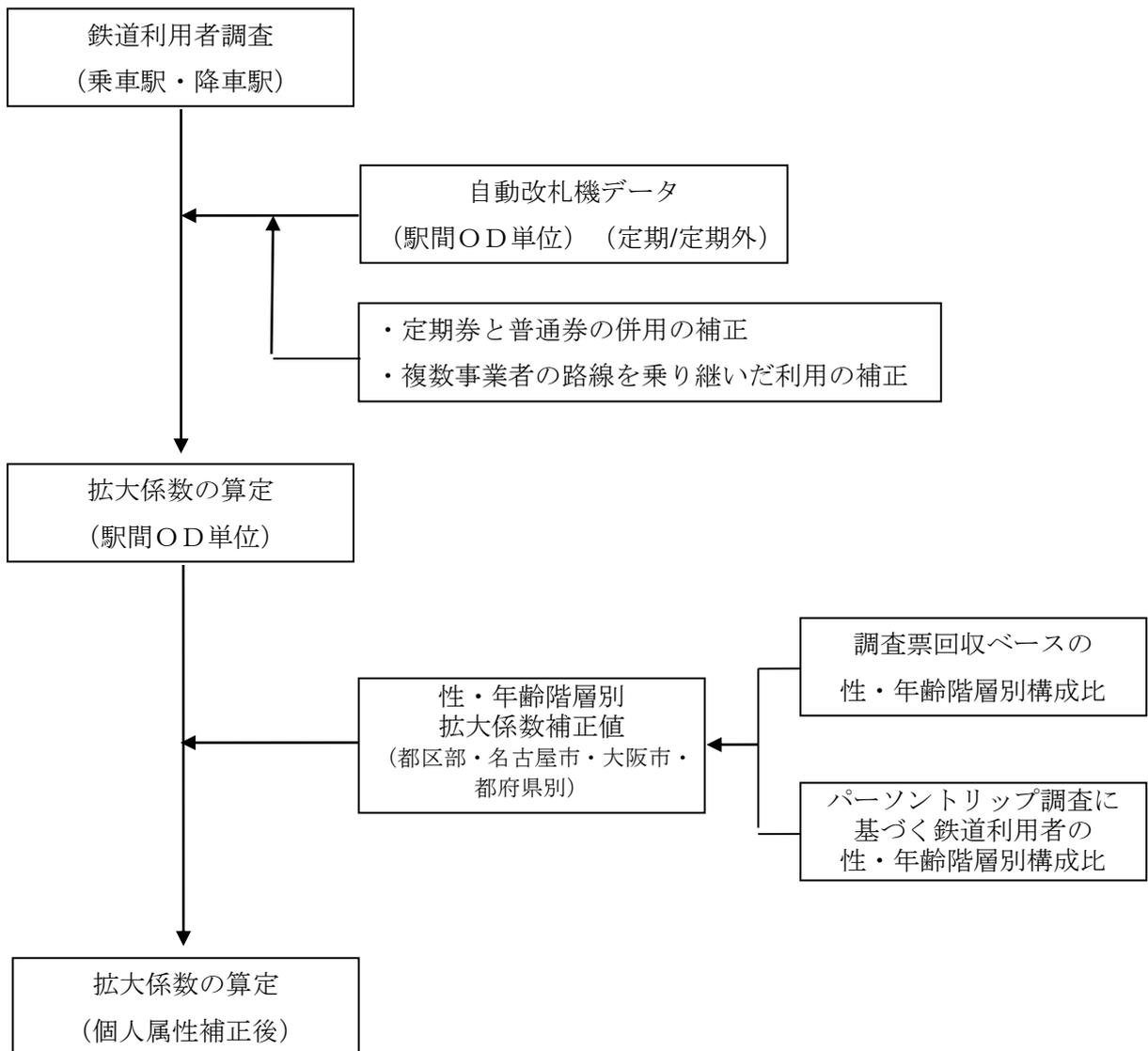


図 自動改札機データに基づく拡大係数の算定の手順（概略フロー）

ア) 拡大対象となるデータ

平成 17 年調査から実施している自動改札機データを用いた拡大方法については、自動改札機が導入されている路線に関連した鉄道利用データのみが拡大対象となる。

表 自動改札機データによる拡大対象経路データ

拡大対象	自動改札機データによる拡大	(参考) 定期券発売実績による拡大
利用券種	定期券、普通券	定期券
利用目的	全目的（通勤、通学、業務、私事、帰宅）	通勤、通学
路線	自動改札機が導入されている路線	調査対象圏域内の全路線

イ) 拡大方法

a. 拡大率の算定

拡大率は、同一事業者内の駅間 OD 単位で算定した。

$$\text{拡大率}_{ab} = \frac{\text{母数}_{ab}}{\text{調査票枚数}_{ab} \text{ (有効枚数)}}$$

- 拡大率_{ab} : 駅間 ab 利用データの拡大率（券種別に設定）。
 母数_{ab} : 調査日における駅間 ab 利用者数（券種別）。
 調査票枚数_{ab}: 鉄道利用経路のうち当該事業者路線の利用区間が「a 駅→b 駅」となる有効調査票枚数（券種別）。

b. 拡大率の付加

鉄道利用者調査で収集した鉄道利用データに対して、以下の考え方に従い拡大率を付加した。

表 拡大率付加の考え方

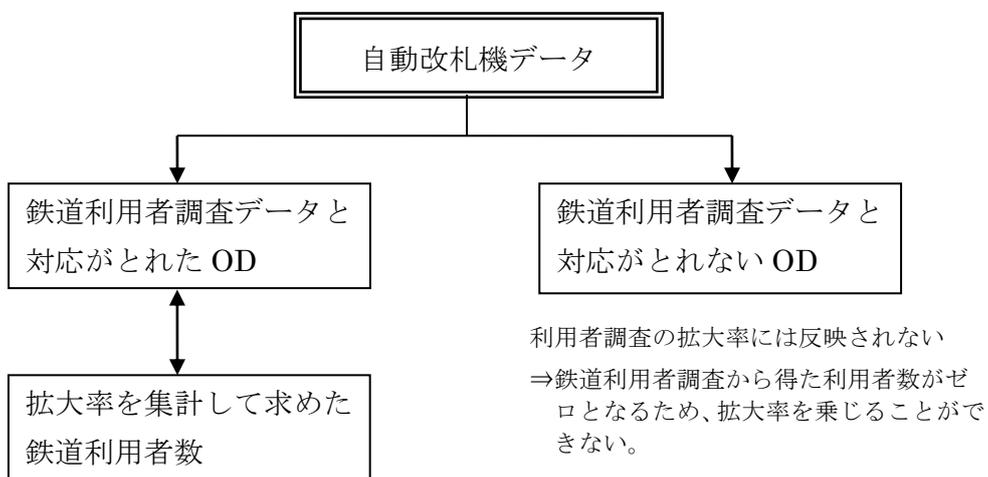
利用状況	拡大率付加の考え方
定期券と普通券の併用	定期券利用区間における拡大率を付加
複数事業者の路線を乗り継いだ利用	それぞれの事業者利用区間における拡大率の平均値を付加。

(注) 自動改札機データによる拡大結果の留意事項

自動改札機データにある全ての駅間利用パターンに対応したサンプルが、鉄道利用者調査から収集できていない。そのため、鉄道利用者調査データに付加された拡大率を集計しても、母数である自動改札機データから求める利用者数には一致しない。

そのため、自動改札機データによる拡大結果による集計では、量ではなく構成比に着目した集計を行っている。

普通券利用者を含む全利用目的の鉄道利用者調査票データベースは、あくまでも「参考値」としての取扱いとなる。



5-4 拡大における個人属性の補正

ア) 個人属性補正について

鉄道利用者調査の回答者の個人属性（性別年齢階層別構成比）を他資料（パーソントリップ調査）と比較すると、男性は20～30歳代の回答割合が低く、50～60歳代の回答割合が高い。女性は20歳代の回答割合が低く、40～50歳代の回答割合が高くなっている。

このため、鉄道利用者調査票の拡大率を推計するにあたって、個人属性補正（性別年齢階層構成比の補正）を行うことにした。

この鉄道利用者調査票の個人属性補正にあたっては、定期券発売枚数による拡大については、定期券発売実績の性別・年齢階層別構成比に基づく拡大率の補正を行った。

自動改札機データによる拡大については、通勤・通学目的は、定期券発売実績に基づく拡大率の補正を行い、その他の目的については、パーソントリップデータの鉄道利用者の性別・年齢階層別構成比に基づく拡大率の補正を行った。

表 拡大における個人属性補正方法

拡大対象	拡大に用いる母数	個人属性補正方法
定期券発売枚数 (通勤、通学目的とその の帰宅目的)	定期券発売枚数 (H27年11月有効分) (発券所別に拡大)	定期券発売実績 (発券所毎の性別年齢階層 別構成率) (路線別、あるいは事業者別 に補正)
全鉄道利用者 (利用券種、利用目的 を問わない)	自動改札機データ (調査日の鉄道利用者O Dデータ) (OD別に拡大) (定期/定期外利用)	通勤・通学目的は定期券発売 実績、その他の目的は、パー ソントリップデータ (鉄道利用者(全目的)の性 別年齢階層別構成率) (都府県別に補正)

6. 自動改札機データの補正

6-1 自動改札機データの問題点

過去の調査において普通券調査は着券を回収し手作業による集計で行われてきたが、自動改札機の急速な普及、プリペイドカードの普及により、従来の着券回収だけでは普通券利用者の動向を把握することが困難となった。そのため、平成12年調査から自動改札機情報による普通券調査を実施しており、平成17年調査からは定期券利用者についても自動改札機情報によるデータ提供を受けている。

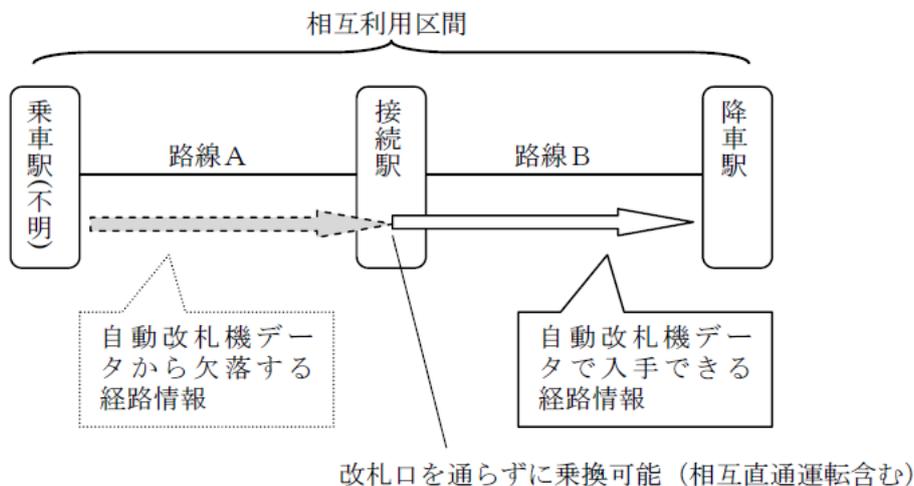
一方、自動改札機で読みとれる鉄道利用情報には券種や事業者ごとに制約・相違があり、特定の鉄道利用記録やその経路情報が一部欠落するケースが生じた。

(1) 鉄道事業者間の相互利用による乗車側経路情報の一部欠落

自動改札機で読みとれる鉄道利用情報については、複数事業者間で相互直通運転を実施している場合、及び共同利用駅を経由した改札駅を bypass して複数事業者間の乗換ができる場合（これらを以下、「鉄道事業者間の相互利用」と称す）に、以下に示すように経路情報が一部欠落するケースが生じた。

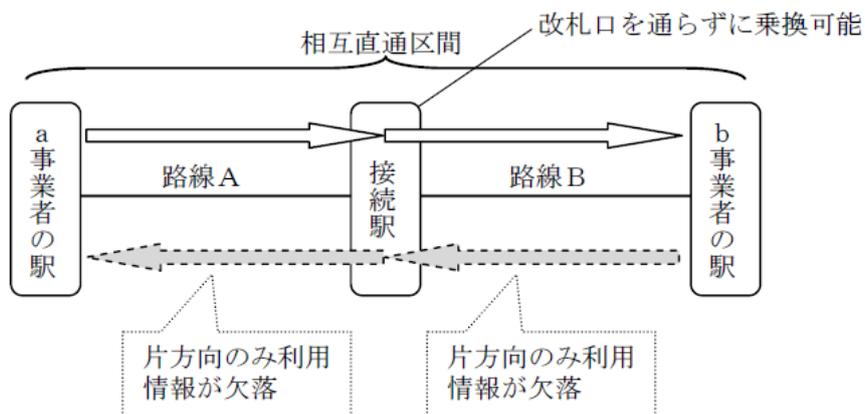
鉄道事業者間の相互利用を実施している一部の事業者では、降車時の自動改札機情報として乗車側事業者の乗車駅を不明として記録する場合がある。

この場合、乗車側事業者の区間情報が不足するため、そのままの情報では乗車側事業者の区間における相互利用分の駅乗車人員や通過人員が集計対象とすることができず、過小となる可能性が生じる。



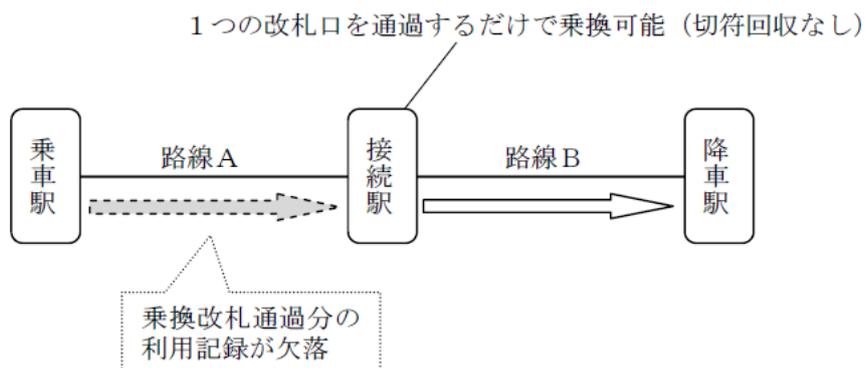
(2) 事業者間の相互利用による利用記録の一部欠落

自動改札機で読みとれる鉄道利用情報については、前述の(1)で示した鉄道事業者間の相互利用の場合に、乗車駅に関する情報の欠落だけでなく、利用経路全体の記録が欠落するケースも一部に生じた。



(3) 乗換改札通過分利用記録の一部欠落

鉄道事業者間の乗換において、1つの改札機を通るだけで乗換可能な乗換改札口が設置されている場合には、乗換改札口を通る利用者の経路情報のうち、当該乗換改札の管理者ではない事業者側において乗車駅から乗換改札駅までの経路情報が欠落するなど、当該乗換改札の管理者ではない事業者分の経路情報に欠落が生じているケースがあった。



(4)IC定期と磁気定期の券面区間外への乗越し時の集計方法の相違

磁気定期券を利用して券面区間外へ乗り越した場合、清算機などで料金を清算して清算券で改札口を通過するため、当該利用者の利用経路情報が欠落する場合があります。一方で、IC定期券を利用して券面区間外へ乗り越した場合には、改札機を通過する際に自動清算が可能となり、乗車駅から降車駅までの経路情報が自動改札機に記録が可能となっている場合があります。このために、自動改札機への鉄道利用情報の記録方法は事業者ごとに相違があるものの、磁気定期券とIC定期券では自動改札機の記録に差がでるケースが生じる可能性がある。

6-2 問題点への対応

(1) 事業者間の相互利用による乗車側経路情報の一部欠落

① 欠落情報の内容

降車駅の自動改札機情報から、相互直通等により他線から入ってきた利用者は把握できるが、逆に他線に出て行く利用者が把握できない。

② 補正方法

欠落情報の補正は、以下の方法で行った。

<推計方法> A線で乗車する相互直通利用者数の推計 (A→B)

- a. 時間帯別の相直利用者数 (A線乗車) は、B線側自動改札機データから把握できる、A線からの相互直通利用者数とする。

$$A_t = \sum_i b_{it}$$

- b. 相直利用者のA線乗車駅分布は、B線からの相互直通利用者のA線側降車駅分布を用いる。

$$AS_i = \frac{\sum_t a_{it}}{\sum_i \sum_t a_{it}}$$

AS_i : 相直利用者のA線 i 駅乗車比率

- c. a、bの結果からA線の駅別乗車人員 (相直利用者) を求める。

$$A_{it} = A_t \times AS_i$$

A_{it} : A線の t 時間帯における i 駅乗車人員 (相直利用者)

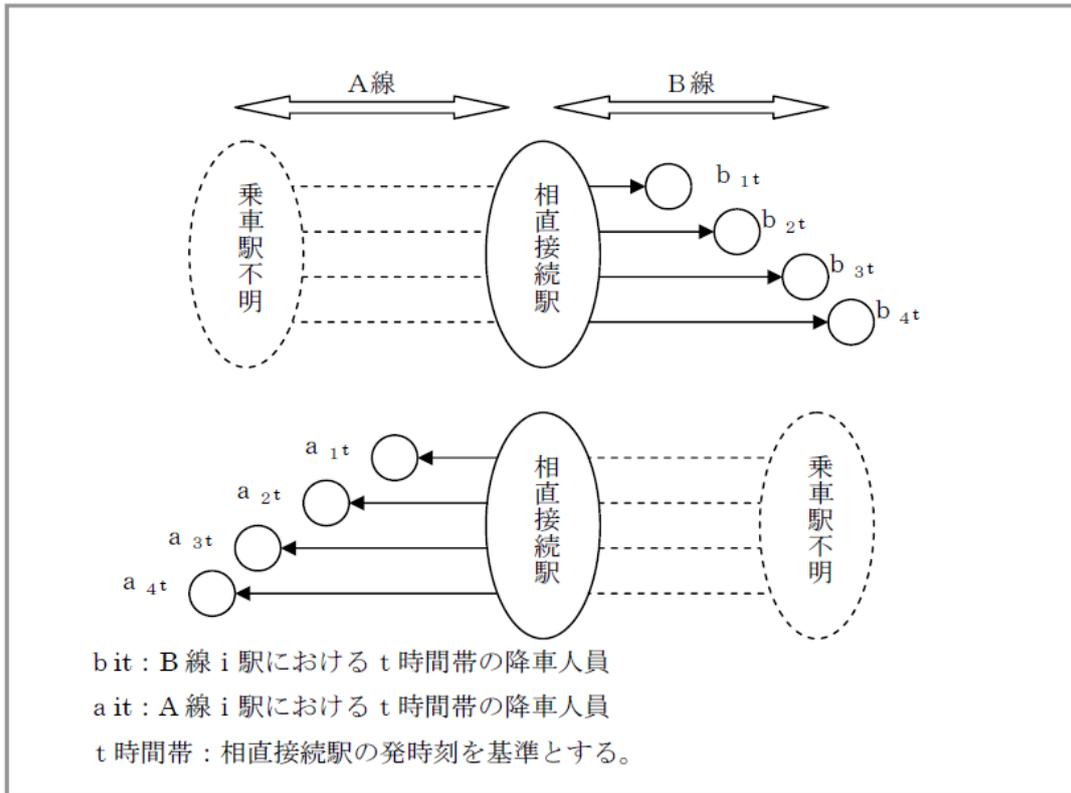


図 相互直通等による複数事業者間相互利用者の欠落情報の推計方法

(2)事業者間の相互利用による利用記録の一部欠落

①欠落情報の内容

事業者間の相互利用分の乗降人員のうち、片方向分だけ記録がなく、上下方向の利用人員や乗降人員に差が生じる。

②補正方法

記録のある方向の乗降人員数を複製してその乗車駅と降車駅を入れ替えることで、記録のない方向の相互直通分の乗降人員数を推計し補完する。ただし、その場合は利用時間帯が方向によって異なるため、推計した乗降人員の利用時間帯は不明とする。

(3)乗換改札通過分利用記録の一部欠落

①欠落情報の内容

乗換改札を通過して他社へと乗換えた降車人員のうち、他社管理分の改札口を通過した利用者の記録がなく、上下方向の利用人員や乗降人員に差が生じる。

②補正方法

乗換改札の設置駅において、自動改札機データから作成された乗車人員数と降車人員数の差分をとる。その乗降差異分が事業者間乗換人員数として妥当な人員数かどうか確認できた場合、乗換改札通過分として欠落した降車人員数とみなす。

この降車人員数については乗車駅が不明であるが、当該乗換駅で乗換改札を通過する利用者について乗車駅比率が、当該乗換駅で降車する既知の駅間乗降人員数データ（乗換改札から他社路線で乗換えた利用者以外）と同様であると仮定することにより乗車駅を推計する。

7. 拡大結果と精度

7-1 拡大結果

事業者別の拡大結果（事業者平均値）を示す。

表 定期券発売実績を母集団とした拡大率の算定結果（事業者平均・首都圏）

事業者名	通勤定期券			通学定期券			備考
	母集団	サンプル数 ^{注)}	拡大率	母集団	サンプル数 ^{注)}	拡大率	
東日本旅客鉄道	3,475,807	66,703	52.1	746,481	2,516	296.7	
東海旅客鉄道（在来線）	425	17	25.0	316	1	316.0	
東海旅客鉄道（新幹線）	3,497	109	32.1	237	3	79.0	
東京都交通局	345,847	6,730	51.4	55,598	236	235.6	
横浜市交通局	84,978	1,873	45.4	28,746	113	254.4	
東京地下鉄	732,849	12,539	58.4	100,977	424	238.2	
京浜急行電鉄	205,662	5,783	35.6	50,986	329	155.0	
小田急電鉄	355,546	9,229	38.5	127,593	633	201.6	
京王電鉄	278,468	7,919	35.2	85,955	512	167.9	
東京急行電鉄	552,711	10,832	51.0	140,594	591	237.9	
西武鉄道	331,607	6,889	48.1	102,651	334	307.3	
東武鉄道	385,480	6,505	59.3	141,183	440	320.9	
京成電鉄	101,539	2,649	38.3	34,736	135	257.3	
山万	536	19	28.2	138	0	0.0	通学サンプル無し
芝山鉄道	254	4	63.5	44	1	44.0	
新京成電鉄	29,502	921	32.0	8,730	55	158.7	
秩父鉄道	2,152	96	22.4	2,365	12	197.1	
相模鉄道	94,833	3,551	26.7	28,111	173	162.5	
関東鉄道	2,831	94	30.1	1,997	12	166.4	
流鉄	1,478	25	59.1	485	1	485.0	
小湊鉄道	186	6	31.0	289	1	289.0	
北総鉄道	17,733	685	25.9	5,839	30	194.6	
千葉都市モノレール	4,748	151	31.4	1,055	8	131.9	
いすみ鉄道	9	0	0.0	192	0	0.0	通勤・通学サンプル無し
江ノ島電鉄	1,717	69	24.9	1,437	5	287.4	
横浜シーサイドライン	10,296	65	158.4	693	3	231.0	
多摩都市モノレール	9,330	286	32.6	7,841	39	201.1	
ゆりかもめ	21,775	156	139.6	938	1	938.0	
東京臨海高速鉄道	10,891	259	42.1	1,251	4	312.8	
箱根登山鉄道	165	9	18.3	81	0	0.0	通学サンプル無し
東葉高速鉄道	21,939	742	29.6	6,172	37	166.8	
埼玉高速鉄道	16,969	362	46.9	2,961	16	185.1	
横浜高速鉄道	4,052	150	27.0	686	0	0.0	通学サンプル無し
首都圏新都市鉄道	68,605	2,091	32.8	11,451	92	124.5	
伊豆箱根鉄道	3,825	17	225.0	815	4	203.8	
東京モノレール	7,637	179	42.7	88	1	88.0	
湘南モノレール	4,699	229	20.5	1,577	9	175.2	
埼玉新都市交通	3,166	112	28.3	1,180	5	236.0	
合計	7,193,744	148,055	48.6	1,702,469	6,776	251.2	

注) 保有定期券種類と利用目的（定期券）の整合がとれていないサンプルを除く。

定期券2枚保有者は各事業者のサンプル数に計上。

表 定期券発売実績を母集団とした拡大率の算定結果（事業者平均・中京圏）

事業者名	通勤定期券			通学定期券			備考
	母集団	サンプル数 ^{注)}	拡大率	母集団	サンプル数 ^{注)}	拡大率	
東海旅客鉄道	153,667	5,845	26.3	55,268	383	144.3	
名古屋市交通局	171,626	4,775	35.9	89,682	409	219.3	
名古屋鉄道	185,468	6,007	30.9	128,537	670	191.8	
近畿日本鉄道	37,687	1,056	35.7	29,958	159	188.4	
三岐鉄道	1,005	26	38.7	2,292	5	458.4	
豊橋鉄道	2,152	81	26.6	2,099	14	149.9	
樽見鉄道	19	2	9.5	169	0	-	通学サンプルなし
長良川鉄道	71	1	71.0	195	0	-	通学サンプルなし
愛知環状鉄道	3,436	156	22.0	4,305	54	79.7	
伊勢鉄道	28	0	-	144	0	-	通勤・通学サンプルなし
明知鉄道	13	0	-	188	0	-	通勤・通学サンプルなし
東海交通事業	47	6	7.8	9	0	-	通学サンプルなし
名古屋臨海高速鉄道	1,765	54	32.7	456	4	114.0	
愛知高速交通	1,532	76	20.2	5,968	48	124.3	
養老鉄道	1,442	52	27.7	1,415	11	128.6	
四日市あすなろう鉄道	766	15	51.1	598	0	-	通学サンプルなし
名古屋ガイドウェイバス	1,723	40	43.1	747	3	249.0	
合計	562,447	18,192	30.9	322,030	1,760	183.0	

表 定期券発売実績を母集団とした拡大率の算定結果（事業者平均・近畿圏）

事業者名	通勤定期券			通学定期券			備考
	母集団	サンプル数 ^{注)}	拡大率	母集団	サンプル数 ^{注)}	拡大率	
西日本旅客鉄道	931,963	26,923	34.6	252,714	1,242	203.5	
東海旅客鉄道	300	15	20.0	9	1	9.0	
近畿日本鉄道	212,257	4,822	44.0	118,583	437	271.4	
南海電気鉄道	117,921	4,249	27.8	42,826	254	168.6	
阪神電気鉄道	90,874	2,220	40.9	21,647	120	180.4	神戸高速線を含む
阪急電鉄	292,271	7,729	37.8	130,292	690	188.8	
京阪電気鉄道	108,781	3,255	33.4	47,306	261	181.2	
北大阪急行電鉄	27,790	895	31.1	5,537	32	173.0	
大阪市交通局	261,568	7,726	33.9	39,071	279	140.0	
山陽電気鉄道	26,812	883	30.4	10,366	51	203.3	
神戸電鉄	15,674	733	21.4	12,340	55	224.4	
能勢電鉄	12,533	255	49.1	4,414	10	441.4	
水間鉄道	138	27	5.1	90	3	30.0	
京福電気鉄道	2,059	43	47.9	715	5	143.0	
近江鉄道	1,957	27	72.5	2,596	1	2596.0	
泉北高速鉄道	20,378	959	21.2	10,824	107	101.2	
京都市交通局	34,984	965	36.3	29,086	155	187.7	
神戸市交通局	66,540	1,661	40.1	25,274	89	284.0	
阪堺電気軌道	2,097	83	25.3	1,221	10	122.1	
神戸新交通	12,246	365	33.6	6,052	27	224.1	
叡山電鉄	2,415	114	21.2	2,316	20	115.8	
北神急行電鉄	3,908	125	31.3	1,695	5	339.0	
大阪高速鉄道	12,912	290	44.5	2,901	19	152.7	
和歌山電鐵	46	13	3.5	255	1	255.0	
伊賀鉄道	314	1	314.0	1,237	0	-	通学サンプルなし
信楽高原鉄道	74	1	74.0	374	0	-	通学サンプルなし
不明	-	4	-	-	0	-	
合計	2,258,812	64,383	35.1	769,741	3,874	198.7	

7-2 拡大結果の精度

(1) 相対誤差について

鉄道利用者調査はサンプル調査であることから、調査時点における定期券利用者全体の流動を求めるためには拡大が必要となる。ここでは、拡大結果の精度検証を、以下に示す相対誤差の式を用いて行った。

$$R = \frac{|p - P|}{P} = T\alpha \times \sqrt{\frac{N - n}{N - 1} \times \frac{1 - P}{n \times P}} \quad \text{数式1}$$

R : P の相対誤差

$T\alpha$: 信頼区間 α % のときの信頼係数 (信頼区間 90% (T90) → 1.65)

N : 母集団における総トリップ数 (調査期間内に有効な定期券を保有する利用者数)

n : サンプルにおける総トリップ数

P : ある特定のトリップ A が母集団トリップ N に占める割合

(ex. 定期券利用者総数に対して駅 A の乗車人員が占める割合)

p : ある特定のトリップ a がサンプルトリップ n に占める割合

(ex. サンプルデータに対して駅 A の乗車人員が占める割合)

(2) 精度の検討結果

ここでは、相対誤差の許容範囲を決めた場合に、その範囲内でどの程度まで母数を分割できるかという観点から精度の検証を行っている。なお、検証にあたっては、相対誤差の許容範囲を 20% としている。

精度検証は、先に示した数式 1 から以下のように変換した式を用いて行う。

$$P = \frac{(T\alpha)^2 \times (N - n)}{(T\alpha)^2 \times (N - n) + n \times (N - 1) \times R^2} \quad \text{数式2}$$

次ページに検証結果を示した。これによれば、相対誤差 20% 以内の要件を確保するのに必要なサンプル数は、首都圏において 67 サンプル、拡大後で 3,839 人となっている。これは、集計結果として 3,839 人以上が得られれば、その集計結果における相対誤差は信頼度 90% で 20% 以内であることを意味する。

(3)調査精度の変化

相対誤差20%以内の調査精度を確保するために必要となるサンプル数および拡大後の集計人数の推移を示す。

表 相対誤差20%以内の要件を確保するのに必要な拡大後集計人数の推移（通勤通学）

調査年次	精度担保に必要な拡大後集計人数		
	首都圏	中京圏	近畿圏
平成2年	1,318人(64)	1,240人(64)	1,097人(64)
平成7年	1,808人(68)	1,717人(65)	1,263人(65)
平成12年	2,125人(68)	1,571人(65)	1,422人(65)
平成17年	3,490人(67)	2,863人(66)	2,524人(66)
平成22年	3,419人(67)	2,370人(66)	2,580人(66)
平成27年	3,839人(67)	2,939人(66)	2,949人(66)

注) カッコ内は、要件を確保するのに必要となるサンプル数

表 相対誤差20%以内の要件を確保するのに必要な拡大後集計人数の推移（通勤）

調査年次	精度担保に必要な拡大後集計人数		
	首都圏	中京圏	近畿圏
平成17年	2,942人(66)	2,058人(66)	2,006人(66)
平成22年	2,867人(66)	1,640人(65)	2,034人(66)
平成27年	3,238人(67)	2,029人(66)	2,317人(66)

注) カッコ内は、要件を確保するのに必要となるサンプル数

(4)事業者別調査精度

表 調査精度の検討結果（通勤、信託区間 90%・相対誤差 20%）（首都圏）

事業者名	通勤定期券		調査精度を確保するための要件		
	母集団	サンプル数 ^{注)}	母集団比率	必要サンプル数	拡大結果
東日本旅客鉄道	3,475,807	66,703	0.00100	67	3,475
東海旅客鉄道	3,922	126	0.34338	43	1,347
東京都交通局	345,847	6,730	0.00982	66	3,396
横浜市交通局	84,978	1,873	0.03432	64	2,916
東京地下鉄	732,849	12,539	0.00531	67	3,889
京浜急行電鉄	205,662	5,783	0.01131	65	2,326
小田急電鉄	355,546	9,229	0.00713	66	2,536
京王電鉄	278,468	7,919	0.00828	66	2,306
東京急行電鉄	552,711	10,832	0.00612	66	3,384
西武鉄道	331,607	6,889	0.00958	66	3,177
東武鉄道	385,480	6,505	0.01018	66	3,925
京成電鉄	101,539	2,649	0.02441	65	2,479
山万	536	19	0.77587	15	416
芝山鉄道	254	4	0.94386	4	240
新京成電鉄	29,502	921	0.06681	62	1,971
秩父鉄道	2,152	96	0.40394	39	869
相模鉄道	94,833	3,551	0.01812	64	1,718
関東鉄道	2,831	94	0.41186	39	1,166
流鉄	1,478	25	0.72813	18	1,076
小湊鉄道	186	6	0.91692	6	171
北総鉄道	17,733	685	0.08720	60	1,546
千葉都市モノレール	4,748	151	0.30386	46	1,443
いすみ鉄道	9	0	-	-	-
江ノ島電鉄	1,717	69	0.48647	34	835
横浜シーサイドライン	10,296	65	0.50995	33	5,250
多摩都市モノレール	9,330	286	0.18746	54	1,749
ゆりかもめ	21,775	156	0.30226	47	6,582
東京臨海高速鉄道	10,891	259	0.20418	53	2,224
箱根登山鉄道	165	9	0.87795	8	145
東葉高速鉄道	21,939	742	0.08141	60	1,786
埼玉高速鉄道	16,969	362	0.15542	56	2,637
横浜高速鉄道	4,052	150	0.30414	46	1,232
首都圏新都市鉄道	68,605	2,091	0.03059	64	2,099
伊豆箱根鉄道	3,825	17	0.79948	14	3,058
東京モノレール	7,637	179	0.27080	48	2,068
湘南モノレール	4,699	229	0.22045	50	1,036
埼玉新都市交通	3,166	112	0.36964	41	1,170
事業者計	7,193,744	148,055	0.00045	67	3,238

注) 保有定期券種類と利用目的(定期券)の整合がとれていないサンプルを除く。

定期券2枚保有者は各事業者のサンプル数に計上。

表 調査精度の検討結果（通勤、信頼区間 90%・相対誤差 20%）（中京圏）

	通勤定期券		調査精度を確保するための要件		
	母集団	サンプル数 ^{注)}	母集団比率	必要サンプル数	拡大結果
東海旅客鉄道	153,667	5,845	0.01108	65	1,702
名古屋市交通局	171,626	4,775	0.01367	65	2,346
名古屋鉄道	185,468	6,007	0.01084	65	2,011
近畿日本鉄道	37,687	1,056	0.05896	62	2,222
三岐鉄道	1,005	26	0.71852	19	722
豊橋鉄道	2,152	81	0.44722	36	962
樽見鉄道	19	2	0.96983	2	18
長良川鉄道	71	1	0.98552	1	70
愛知環状鉄道	3,436	156	0.29409	46	1,010
伊勢鉄道	28	0	-	-	-
明知鉄道	13	0	-	-	-
東海交通事業	47	6	0.91000	5	43
名古屋臨海高速鉄道	1,765	54	0.55007	30	971
愛知高速交通	1,532	76	0.45995	35	705
養老鉄道	1,442	52	0.55802	29	805
四日市あすなろう鉄道	766	15	0.81666	12	626
名古屋ガイドウェイバス	1,723	40	0.62449	25	1,076
事業者計	562,447	18,192	0.00361	66	2,029

注) 保有定期券種類と利用目的(定期券)の整合がとれていないサンプルを除く。

定期券2枚保有者は各事業者のサンプル数に計上。

表 調査精度の検討結果（通勤、信頼区間 90%・相対誤差 20%）（近畿圏）

	通勤定期券		調査精度を確保するための要件		
	母集団	サンプル数 ^{注)}	母集団比率	必要サンプル数	拡大結果
西日本旅客鉄道	931,963	26,923	0.00245	66	2,282
東海旅客鉄道	300	15	0.81221	12	244
近畿日本鉄道	212,257	4,822	0.01361	66	2,888
南海電気鉄道	117,921	4,249	0.01521	65	1,793
阪神電気鉄道	90,874	2,220	0.02904	64	2,639
阪急電鉄	292,271	7,729	0.00850	66	2,484
京阪電気鉄道	108,781	3,255	0.01988	65	2,163
北大阪急行電鉄	27,790	895	0.06856	61	1,905
大阪市交通局	261,568	7,726	0.00848	65	2,217
山陽電気鉄道	26,812	883	0.06937	61	1,860
神戸電鉄	15,674	733	0.08132	60	1,275
能勢電鉄	12,533	255	0.20729	53	2,598
水間鉄道	138	27	0.67132	18	93
京福電気鉄道	2,059	43	0.60793	26	1,252
近江鉄道	1,957	27	0.71325	19	1,396
泉北高速鉄道	20,378	959	0.06335	61	1,291
京都市交通局	34,984	965	0.06419	62	2,245
神戸市交通局	66,540	1,661	0.03842	64	2,556
阪堺電気軌道	2,097	83	0.44070	37	924
神戸新交通	12,246	365	0.15321	56	1,876
叡山電鉄	2,415	114	0.36269	41	876
北神急行電鉄	3,908	125	0.34521	43	1,349
大阪高速鉄道	12,912	290	0.18662	54	2,410
和歌山電鐵	46	13	0.79336	10	36
伊賀鉄道	314	1	0.98552	1	309
信楽高原鉄道	74	1	0.98552	1	73
事業者計	2,258,812	64,383	0.00103	66	2,317

注) 保有定期券種類と利用目的(定期券)の整合がとれていないサンプルを除く。

定期券2枚保有者は各事業者のサンプル数に計上。

(5)精度が保証される集計

拡大結果の精度を保証する集計について、首都圏を例に集計項目別整理する。

表 集計項目別の精度検証

集計項目		精度保証
発生・集中量	地域ブロック別	◎
	行政区別	○
OD量	地域ブロック間	○
	行政区間	△
目的×性×年齢階層別利用者数※（圏域計）		◎
事業者別利用者数		◎
路線別利用者数		○
駅間断面交通量	終日	○
	ピーク（主要路線）	○
	ピーク（その他）	△
乗換え人員	ターミナル別（終日）	◎
	ターミナル別（ピーク）	○
	路線間（終日）	△
初乗り・最終降車駅間経路別人員		△
端末交通手段別人員	圏域計	◎
	ゾーン別	△

「◎」：全てのカテゴリの精度を保証できる。

「○」：概ね精度を保証できるが、一部精度を保証できないカテゴリが含まれる。

「△」：精度を保証できるカテゴリと保証できないカテゴリが混在する。

※ 30歳以上の通学目的を除く。

8. 成果物の体系一覧

(1) 報告書、(2) 報告書資料編及び集計データは、全て国交省ホームページで一般公開予定とする。

(1) 報告書・概要版

- 報告書（首都圏報告書、中京圏報告書、近畿圏報告書）
- 概要版（パンフレット）

(2) 報告書資料編及び集計データ（集計表、利用マニュアル等解説資料（PDF）を含む）

① 鉄道調査

報告書資料編（EXCEL形式）

1	行政区画間移動人員表
2	初乗り・最終降車駅間移動人員表
3	駅別発着・駅間通過人員表
4	ターミナル別乗換え人員表
5	初乗り・最終降車駅間経路別人員表
6	通勤・通学所要時間帯別人員表
7	端末交通手段別人員表
8	購入金額別人員表
9	路線別着時間帯別駅間輸送定員表

集計データファイル（EXCEL形式）

12	行政区画間移動人員
13	基本ゾーン間移動人員
14	線別駅間移動人員
15	初乗り・最終降車駅間経路別人員
16	居住地行政区別・時間帯別帰宅人員

コードデータファイル（EXCEL形式）

1	ゾーンコード表
2	鉄道事業者コード表
3	鉄道路線コード表
4	鉄道駅コード表

（参考表）自動改札機データ拡大結果

1	目的別性別構成比
2	目的別年齢階層別構成比
3	目的別券種構成比
4	目的別所要時間別構成比
5	目的別乗車降車時刻分布
6	目的別地域ブロック間移動人員表

② 乗換え調査

報告書資料編（EXCEL形式）

1	水平方向乗換え移動距離表
2	上下方向乗換え移動距離表
3	ピーク時乗換え移動時間表
4	オフピーク時乗換え移動時間表
5	乗換え移動速度表
6	駅別乗換え移動総量
7	駅改良・改修による利便性の変化
8	首都圏主要駅における乗換え
9	乗換え待ち時間発生箇所
10	乗換え移動歩数と階段段数

集計データファイル（EXCEL形式）

11	駅別水平方向乗換え移動距離
12	駅別上下方向乗換え移動距離
13	駅別ピーク時乗換え移動時間
14	駅別オフピーク時乗換え移動時間
15	駅別乗換え移動速度

コードデータファイル（EXCEL形式）

1	乗換えコード表
---	---------

③バス調査（空港アクセスバス）

報告書資料編（EXCEL形式）

1	空港アクセスバスの輸送力（空港別）
2	空港アクセスバスの利用者数（空港別）
3	性・年齢階層別利用者数（空港別）
4	利用券種別利用者数
5	利用目的別利用者数（空港別）
6	所要時間分布別利用者数（空港別）
7	航空機の出発までの所要時間別利用者数（空港別）
8	代替交通手段別利用者数（空港別）
9	空港アクセスバスを利用した理由（空港別）
10	空港アクセスバスのサービス向上策
11	端末交通手段別利用者数

集計データファイル（EXCEL形式）

12	停留所間移動人員
13	出発時間帯別利用者数
14	出発地別・空港アクセスバス利用者数
15	目的地別・空港イグレスバス利用者数

コードデータファイル（EXCEL形式）

1	ゾーンコード表
2	バス事業者コード
3	バス停コード

④バス調査（空港アクセスバス系以外）

報告書資料編（EXCEL形式）

1	性・年齢階層別利用者数
2	利用目的別利用者数
3	利用券種別利用者数
4	鉄道、バスとの乗り継ぎ有無別利用者数
5	代替交通手段
6	バスと代替交通手段の利用割合
7	利用頻度
8	基幹的なバスを利用した理由
9	基幹的なバスのサービス向上策

集計データファイル（EXCEL形式）

10	ターミナル別の輸送力
11	所要時間別利用者数
12	停留所間移動人員
13	出発地別バス利用人員
14	目的地別バス利用人員

コードデータファイル（EXCEL形式）

1	ゾーンコード表
2	バス事業者コード
3	バス停コード

⑤訪日外国人公共交通利用実態調査

集計データファイル（EXCEL形式）

1	1日あたりのトリップ数（国籍別、目的別）
2	1日あたりの鉄道トリップ数（国籍別、目的別）
3	鉄道路線別訪日外国人利用数
4	鉄道利用時の利用券種構成（目的別）
5	訪日経験（回数）別利用券種構成（目的別）
6	訪日経験（回数）別交通手段分担率（目的別）
7	同行者との間柄別交通手段分担率（目的別）
8	旅行手配方法別交通手段分担率（目的別）
9	空港別空港アクセス・イグレス別鉄道利用者数（国籍別、目的別）
10	空港別空港アクセス・イグレス別バス利用者数（国籍別、目的別）
11	空港別空港アクセス・イグレス別鉄道利用時の利用券種構成（国籍別、目的別）
12	空港別空港アクセス・イグレス別バス利用時の利用券種構成（国籍別、目的別）
13	空港別空港アクセス・イグレス別鉄道利用時の端末交通手段構成（国籍別、目的別）
14	空港別空港アクセス・イグレス別バス利用時の端末交通手段構成（国籍別、目的別）
15	鉄道乗車時刻分布（目的別）
16	バス乗車時刻分布（目的別）
17	性・年齢構成別利用者数（構成比）
18	移動時に活用した情報（国籍別又は居住国別、目的別）

9. 用語の説明

本報告書で用いている用語の説明を以下に示す。

(1) 基本ゾーン

行政区を人口分布、駅勢圏等を考慮してさらに細分した区画をいい、調査区域を分割して把える際の単位である。

(2) OD

一般的にODとは、移動の起点（出発地）と終点（目的地）との組み合わせをいう。

(3) 往復

定期券・普通券等利用者調査に基づく集計において、居住地から勤務・就学地へ向かう方向（片道）の交通量と勤務・就学地から居住地へ向かう（帰宅）交通量の和を用いる場合、その交通量の単位を「往復」としている。なお、往復の交通量は片道の交通量を2倍したものである。

(4) 鉄道路線

センサスでは、集計の便宜上、独自の鉄道路線の定義を用いており、実際の運行形態上の路線とは、必ずしも一致しない場合がある。また、一部の路線では、路線名にカッコ付の数字を付加して、路線を区分している。

例：JR鶴見線の場合

鶴見線（1）：鶴見～扇町、鶴見線（2）：浅野～海芝浦、

鶴見線（3）：安善～大川

(5) 断面交通量

断面交通量とは、ある駅間を単位時間内に通過する鉄道利用者の数をいう。センサスにおける定期券の断面交通量は、発売実績ベースであるため、出勤・登校をしていない利用者が加味されておらず、実際の利用者数よりも過大となる傾向がある。ただし、業務目的等により1日に3回以上の定期券利用を行う利用者が多い区間ではその限りではない。

(6) 輸送力

輸送力とは、ある駅間を単位時間内に通過する列車の車両定員数を足し上げた数である。なお、有料特急、グリーン車など特定の料金を必要とする列車の定員も輸送力に含み、日によって輸送力が変動する場合には調査時期内の特定の1日における輸送力となっている。

(7) ピーク1時間

駅間断面交通量の集計においては、駅間の通過時刻を推計した後、15分刻みで集計したとき最大となる1時間をピーク1時間としている。なお、終日交通量に占めるピーク1時間交通量の割合をピーク率としている。

(8) 上り・下り

センサスにおいては、集計の便宜上、駅ごとに番号を付けており、駅番号が小さくなる方向を「上り」としている。逆に、駅番号が大きくなる方向を「下り」としている。

なお、一般的に「上り」・「下り」の方向のない地下鉄や環状路線についても、駅番号を付けており、方向の定義は、上記と同様である。

(9) 鉄道ターミナル

センサスにおいては、複数の路線の駅群が近接し一体となって1つのターミナルを構成している場合に、これを「鉄道ターミナル」と称している。

(10) 初乗り駅

鉄道定期券利用者が居住地を出発し勤務・就学地へ向かう際に最初に乗車する鉄道駅、または、鉄道普通券利用者から回収した普通券の券面上の出発駅をいう。

(11) 最終降車駅

鉄道定期券利用者が居住地を出発し勤務・就学地へ向かう際に最後に降車する鉄道駅、または、鉄道普通券利用者から普通券を回収した鉄道駅をいう。

(12) 所要時間

所要時間とは、鉄道利用者の出発地から目的地への到着までに要した時間であり、アクセス及びイグレスに要する時間を含む。

(13) 端末交通手段（アクセス・イグレス手段）

センサスにおいて、端末交通手段とは代表交通手段（鉄道）の前後の利用交通手段をいう。複数の端末交通手段を併用している場合は、代表的な手段を端末交通手段として設定している。

端末交通手段では、出発地から鉄道駅までの利用交通手段をアクセス手段、鉄道駅から目的地までの利用交通手段をイグレス手段という。

(14) 乗換えパターン

鉄道路線間の乗換えにおける路線別方向別（上りまたは下り）の乗換の組み合わせをいう。

例：新宿駅における中央本線から埼京線への乗換えパターンは、
中央本線（上り）→埼京線（上り）、中央本線（上り）→埼京線（下り）
中央本線（下り）→埼京線（上り）、中央本線（下り）→埼京線（下り）
の計4パターンとなる。

この方向別組み合わせの4パターンを、新宿関連ターミナルに乗り入れている全ての鉄道事業者及び路線間の組み合わせについて調査している。

10. ご協力いただいた委員・団体・事業者

本調査の実施にあたっては、一般利用者、交通事業者の方々のご協力が必要不可欠であり、また、大都市交通センサス調査検討委員会、各圏域専門委員会及び、技術検討ワーキンググループの各委員よりご助言・ご協力を賜りながら調査を行ってまいりました。皆様の多大なるご理解とご協力に対して、改めてお礼申し上げます。

第12回大都市交通センサス
調査検討委員会 委員名簿

(敬称略、順不同)

委員長	兵藤 哲朗	東京海洋大学教授
委員	青木 真美	同志社大学教授
〃	岩倉 成志	芝浦工業大学教授
〃	加藤 浩徳	東京大学教授
〃	高橋 愛典	近畿大学教授
〃	竹内 健蔵	東京女子大学教授
〃	羽藤 英二	東京大学教授
〃	山内 弘隆	一橋大学教授
〃	室谷 正裕	一般社団法人日本民営鉄道協会常務理事
〃	船戸 裕司	公益社団法人日本バス協会常務理事
〃	青木邦比古 (藤村 賢治)	一般社団法人公営交通事業協会業務部長
〃	坂井 究	東日本旅客鉄道株式会社総合企画本部経営企画部長
〃	杉崎 英司 (松野 篤二)	東海旅客鉄道株式会社総合企画本部企画開発部長
〃	三戸 尉行 (森川 国昭)	西日本旅客鉄道株式会社鉄道本部運輸部長
〃	角湯 克典 (吉木 務)	国土交通省総合政策局公共交通政策部交通計画課地域振興室長
〃	岩城 宏幸 (金子 英幸)	国土交通省総合政策局情報政策本部情報政策課長
〃	五十嵐徹人	国土交通省鉄道局都市鉄道政策課長
〃	川上 洋二 (山下 雄史)	国土交通省鉄道局鉄道サービス政策室長
〃	鶴田 浩久	国土交通省自動車局旅客課長
〃	小幡 章博 (澤井 俊)	国土交通省関東運輸局交通政策部長
〃	北原 政宏 (上田 大輔)	国土交通省中部運輸局交通政策部長
〃	金指 和彦 (阿部 竜矢)	国土交通省近畿運輸局交通政策部長

※ () 内は上記の前任者

第12回大都市交通センサス
首都圏専門委員会 委員名簿

(敬称略、順不同)

委員長	竹内 健蔵	東京女子大学教授
委員	渡貫 貴浩 (西川 善宣)	東京都交通局総務部企画調整課長
〃	堀口 隆夫	東京地下鉄株式会社鉄道本部営業部審査課課長
〃	柴田 裕	東日本旅客鉄道株式会社総合企画本部経営企画部次長
〃	荒井 康太	東武鉄道株式会社鉄道事業本部営業部輸送企画課長
〃	富田 恭史 (宮原慶太郎)	西武鉄道株式会社鉄道本部計画管理部次長兼鉄道計画課課長
〃	石井 貴史 (林 祐悟)	京成電鉄株式会社鉄道本部計画管理部課長
〃	山木 正一	京王電鉄株式会社鉄道事業本部計画管理部企画担当課長
〃	高橋 洋一	小田急電鉄株式会社交通企画部課長
〃	小里 好臣	東京急行電鉄株式会社鉄道事業本部事業戦略部企画課長
〃	大田 仁史	京浜急行電鉄株式会社鉄道本部鉄道統括部事業統括課長
〃	中田 裕之	相模鉄道株式会社経営管理部経営企画担当課長
〃	二井田春喜	一般社団法人東京バス協会常務理事
〃	鶴岡 洋	一般社団法人埼玉県バス協会専務理事
〃	花崎 幸一	一般社団法人千葉県バス協会専務理事
〃	八郷 大文	一般社団法人神奈川県バス協会専務理事
〃	土肥 祐二 (宮本 勇二)	国土交通省総合政策局公共交通政策部交通計画課 都市交通対策企画調整官
〃	鈴木 武彦	国土交通省関東運輸局交通政策部計画調整官

※ () 内は上記の前任者

第12回大都市交通センサス
中京圏専門委員会 委員名簿

(敬称略、順不同)

委員長	青木 真美	同志社大学教授
委員	坂本登志夫	名古屋市交通局営業本部企画財務部経営企画課課長
〃	石井 拡一	東海旅客鉄道株式会社総合企画本部企画開発部担当課長
〃	田野 健治	名古屋鉄道株式会社鉄道事業本部計画部事業推進課長
〃	松岡 義	近畿日本鉄道株式会社鉄道本部企画統括部営業企画部課長
〃	古田 寛	公益社団法人愛知県バス協会専務理事
〃	山田 芳喜	公益社団法人岐阜県バス協会専務理事
〃	青木 周二	公益社団法人三重県バス協会専務理事
〃	土肥 祐二 (宮本 勇二)	国土交通省総合政策局公共交通政策部交通計画課 都市交通対策企画調整官
〃	山下 隆道 (伊藤 光明)	国土交通省中部運輸局交通政策部交通企画課長

※ () 内は上記の前任者

第12回大都市交通センサス
近畿圏専門委員会 委員名簿

(敬称略、順不同)

委員長	高橋 愛典	近畿大学教授
委員	中野 満夫	大阪市交通局経営管理本部経営管理部経営企画課長
〃	大路 健志	京都市交通局営業推進室営業調査課長
〃	三尾 浩之	神戸市交通局経営企画調整課長
〃	大久保通尚 (清水 康一)	西日本旅客鉄道株式会社鉄道本部運輸部輸送計画課担当課長
〃	松岡 義	近畿日本鉄道株式会社鉄道本部企画統括部営業企画部課長
〃	村上 貴彦 (愛甲 邦博)	南海電気鉄道株式会社鉄道営業本部統括部課長
〃	土岐 弘一	京阪電気鉄道株式会社鉄道企画部課長
〃	西浦 一晴 (菘尾 晃)	阪急電鉄株式会社都市交通事業本部運輸部課長(営業担当) 阪急電鉄株式会社都市交通事業本部運輸部営業担当課長
〃	奥野 裕 (筆谷 洋之)	阪神電気鉄道株式会社都市交通事業本部運輸部課長
〃	古角 利裕 (藤原 昭三)	近畿バス団体協議会(一般社団法人大阪バス協会専務理事)
〃	土肥 祐二 (宮本 勇二)	国土交通省総合政策局公共交通政策部交通計画課 都市交通対策企画調整官
〃	安江 亮 (北川 健司)	国土交通省近畿運輸局交通政策部交通企画課長

※ () 内は上記の前任者

第12回大都市交通センサス
技術検討ワーキンググループ 委員名簿

(敬称略、順不同)

委員長	兵藤 哲朗	東京海洋大学教授
委員	岩倉 成志	芝浦工業大学教授
〃	加藤 浩徳	東京大学教授
〃	羽藤 英二	東京大学教授
〃	岡村 久裕	国土交通省鉄道局都市鉄道政策課専門官
	(西尾 佳章)	国土交通省鉄道局都市鉄道政策課課長補佐)
〃	山田 昭夫	国土交通省自動車局旅客課バス産業活性化対策室課長補佐
	(石嶋 隆之)	
〃	土肥 祐二	国土交通省総合政策局公共交通政策部交通計画課
	(宮本 勇二)	都市交通対策企画調整官

※ () 内は上記の前任者

ご協力頂いた団体・事業者

(順不同)

関係団体

一般社団法人 日本民営鉄道協会	公益社団法人 日本バス協会	一般社団法人 公営交通事業協会
-----------------	---------------	-----------------

首都圏(4団体)	中京圏(3団体)	近畿圏(1団体)
一般社団法人東京バス協会 一般社団法人埼玉県バス協会 一般社団法人千葉県バス協会 一般社団法人神奈川県バス協会	公益社団法人愛知県バス協会 公益社団法人岐阜県バス協会 公益社団法人三重県バス協会	近畿バス団体協議会

鉄道事業者

首都圏 (37 社局)		
東日本旅客鉄道株式会社	芝山鉄道株式会社	株式会社ゆりかもめ
東海旅客鉄道株式会社	新京成電鉄株式会社	東京臨海高速鉄道株式会社
東京都交通局	秩父鉄道株式会社	箱根登山鉄道株式会社
横浜市交通局	相模鉄道株式会社	東葉高速鉄道株式会社
東京地下鉄株式会社	関東鉄道株式会社	埼玉高速鉄道株式会社
京浜急行電鉄株式会社	流鉄株式会社	横浜高速鉄道株式会社
小田急電鉄株式会社	小湊鉄道株式会社	首都圏新都市鉄道株式会社
京王電鉄株式会社	北総鉄道株式会社	伊豆箱根鉄道株式会社
東京急行電鉄株式会社	千葉都市モノレール株式会社	東京モノレール株式会社
西武鉄道株式会社	いすみ鉄道株式会社	湘南モノレール株式会社
東武鉄道株式会社	江ノ島電鉄株式会社	埼玉新都市交通株式会社
京成電鉄株式会社	株式会社横浜シーサイドライン	
山万株式会社	多摩都市モノレール株式会社	

中京圏 (17 社局)		
東海旅客鉄道株式会社	樽見鉄道株式会社	名古屋臨海高速鉄道株式会社
名古屋市交通局	長良川鉄道株式会社	愛知高速交通株式会社
名古屋鉄道株式会社	愛知環状鉄道株式会社	養老鉄道株式会社
近畿日本鉄道株式会社	伊勢鉄道株式会社	四日市あすなろう鉄道株式会社
三岐鉄道株式会社	明知鉄道株式会社	名古屋ガイドウェイバス株式会社
豊橋鉄道株式会社	株式会社東海交通事業	

近畿圏 (27 社局)		
西日本旅客鉄道株式会社	京阪電気鉄道株式会社	泉北高速鉄道株式会社
東海旅客鉄道株式会社	北大阪急行電鉄株式会社	神戸新交通株式会社
大阪市交通局	神戸高速鉄道株式会社	叡山電鉄株式会社
京都市交通局	山陽電気鉄道株式会社	北神急行電鉄株式会社
神戸市交通局	神戸電鉄株式会社	大阪高速鉄道株式会社
近畿日本鉄道株式会社	能勢電鉄株式会社	和歌山電鐵株式会社
南海電気鉄道株式会社	水間鉄道株式会社	伊賀鉄道株式会社
阪神電気鉄道株式会社	京福電気鉄道株式会社	信楽高原鐵道株式会社
阪急電鉄株式会社	近江鉄道株式会社	阪堺電気軌道株式会社

バス事業者

首都圏（47社）

東京空港交通株式会社	京王電鉄バス株式会社	成田空港交通株式会社
京浜急行バス株式会社	京王バス東株式会社	千葉交通株式会社
羽田京急バス株式会社	京王バス南株式会社	千葉中央バス株式会社
東急バス株式会社	京王バス中央株式会社	平和交通株式会社
京成バス株式会社	東京ベイシティ交通株式会社	ちばシティバス株式会社
京成トランジットバス株式会社	日東交通株式会社	関東自動車株式会社
京成バスシステム株式会社	小田急箱根高速バス株式会社	川越観光自動車株式会社
相鉄バス株式会社	小田急バス株式会社	イーグルバス株式会社
関東鉄道株式会社	関東バス株式会社	国際十王交通株式会社
小湊鉄道株式会社	国際興業株式会社	日本中央バス株式会社
江ノ島電鉄株式会社	西武バス株式会社	千葉内陸バス株式会社
株式会社リムジン・パッセンジャーサービス	西武観光バス株式会社	東京バス株式会社
東武バスイースト株式会社	株式会社シティバス立川	ジェイアールバス関東株式会社
東武バスウエスト株式会社	西東京バス株式会社	あすか交通株式会社
東武バスセントラル株式会社	神奈川中央交通株式会社	東野交通株式会社
東武バス株式会社	川崎鶴見臨港バス株式会社	

中京圏（8社局）

名鉄バス株式会社	知多乗合株式会社	岐阜乗合自動車株式会社
名鉄バス中部株式会社	遠州鉄道株式会社	東濃鉄道株式会社
三重交通株式会社	名古屋市交通局	

近畿圏（12社）

近鉄バス株式会社	京阪バス株式会社	大阪空港交通株式会社
南海バス株式会社	神姫バス株式会社	大阪バス株式会社
阪神バス株式会社	奈良交通株式会社	和歌山バス株式会社
山陽バス株式会社	関西空港交通株式会社	日本交通株式会社